

自動車運送事業に係る交通事故要因分析検討会報告書(平成23年度)

[第1分冊]

事業用自動車の交通事故の傾向分析

平成24年3月

国 土 交 通 省 自 動 車 局

自動車運送事業に係る交通事故要因分析検討会

平成23年度「自動車運送事業に係る交通事故要因分析検討会」委員名簿（順不同・敬称略）

委員	堀野 定雄	神奈川大学 工学研究所 客員教授
〃	相川 春雄	公益社団法人日本バス協会 安全輸送委員会委員
〃	佐久間 文彦	社団法人全日本トラック協会 交通対策委員会委員
〃	榎元 紀二郎	社団法人全国乗用自動車連合会交通安全委員会委員
〃	小野 古志郎	財団法人日本自動車研究所 技監・研究主幹 兼 財団法人交通事故総合分析センター 主任研究員
〃	村田 善之	損害保険料率算出機構自賠責損害調査センター 損害調査部長
〃	酒井 一博	財団法人労働科学研究所 所長
〃	小島 公平	独立行政法人自動車事故対策機構 理事（事故防止担当）
〃	下光 輝一	東京医科大学 主任教授
〃	関 政治	全日本交通運輸産業労働組合協議会 事務局長
〃	栗原 浩	財団法人日弁連交通事故相談センター 常務理事
〃	増井 潤	社団法人日本自動車整備振興会連合会 常務理事
〃	杉浦 秀明	社団法人日本自動車工業会大型車部会長
特別委員	小田切 優子	東京医科大学 講師
オブザーバー	山下 博	公益社団法人日本バス協会 技術部長
〃	伊藤 勝利	社団法人全日本トラック協会 交通・環境部長
〃	小菅 孝嗣	社団法人全国乗用自動車連合会 常務理事
〃	岩崎 克彦	社団法人日本自動車工業会安全部会・交通事故分析分科会 副分科会長
〃	渡辺 一巳	財団法人交通事故総合分析センター研究部 研究第三課長

行政：警察庁交通局交通企画課
厚生労働省労働基準局
国土交通省道路局環境安全課道路交通安全対策室、大臣官房運輸安全監理官室、
自動車局旅客課、貨物課、安全政策課保障制度参事官室、技術政策課、
整備課、安全政策課（事務局）

背景

交通事故の多くは、見かけ上運転者の運転操作ミスや交通違反等の人的要因によって発生しているため、第一義的には、運転者の教育・指導が肝要であるとされている。

しかし、事故の直接の原因が運転者であったとしても、その背景に運転操作を誤ったり、交通違反をせざるを得なかったりすることに繋がる要因・背景が潜んでいることが少なくない。特に、自動車運送事業用自動車（以下「事業用自動車」という）にあつては、運行を管理しているのは、運転者自身でなく、雇い主等であり、何らかの制約の中で運転業務を行っているのが通常であるため、事業者が運輸安全マネジメントにより事故を防止する取組みを推進するために、事故の原因を追及し改善策を検討する必要がある。

平成 11 年 6 月の運輸技術審議会の答申「安全と環境に配慮した今後の自動車交通政策のあり方について」には、「安全対策を効果的に実施するため、必要な分野について、特に詳細な分析、いわば事故の『解剖』を行うとともに、具体的なプログラムに沿って全国的な情報収集ネットワークを構築することが必要である。」と述べられており、具体的な手法として、運輸支局又は地方運輸局（以下「運輸支局等」という）が自ら事故事例を収集し、詳細な調査を実施するとともに、自動車交通及び安全解析に携わる関係専門家により、運輸支局等が収集した事故情報を詳細に分析し、再発防止を意図した交通安全対策に活かしていく必要があるとされている。

これらのことから、事業用自動車の事故について、事故の経過、運転者の状況、運行管理の状況、車両の状況等の情報を収集し、さらに、収集した事故情報を効果的に再発防止対策の立案に反映させるために、事故発生の変因及び背景を主に 4 つの要素（運転者面 (Man)、車両面 (Machine)、走行環境面 (Media)、管理面 (Management)）の 4 M 側面に整理し、科学的な究明・分析を行うことを目的として、平成 11 年度から一部の地域でモデル的に開始した「自動車事故対策パイロット事業」を足がかりに、平成 13 年度から「自動車運送事業に係る交通事故要因分析事業」として実施しているところである。

< 目 次 >

1. 事故全体の傾向	1
1-1. 交通事故全体の推移	1
1-2. 自動車交通事故件数の推移	4
1-3. 自動車交通事故死者数の推移	8
1-4. 自動車交通死亡事故件数の推移	12
1-5. 飲酒運転による事業用自動車の交通事故	16
1-6. 業態別運転者年齢層別の交通事故	18
1-7. 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故	20
2. バスの事故	22
2-1. 乗合バスの事故	24
2-2. 貸切バスの事故	35
3. タクシーの事故	41
4. トラックの事故	49

附録. 事業用自動車の交通事故統計（平成 22 年度版）

【凡例】

1. 「交通事故」とは、道路交通法第 2 条第 1 項第 1 号に規定する道路において、車両等及び列車の事故によって起された事故で、人の死亡又は負傷を伴うもの（人身事故）をいう。物損事故については計上していない。
2. 「自動車事故」とは、交通事故のうち、自動車及び軽自動車の交通によって起された事故をいう。
3. 「自動車事故」は、「事業用自動車」の事故と、「自家用自動車」の事故に分けられる。うち、「自家用自動車」とは、乗用車（バス、マイクロ、普通乗用車、軽乗用車）及び、貨物車（大型貨物、中型貨物、普通貨物、軽貨物、トレーラー）を合わせたものをいう。
4. 「死亡」（「死者」）とは、交通事故によって、発生から 24 時間以内に亡くなった場合（人）をいう。
5. 「重傷」（「重傷者」）とは、交通事故によって負傷し、1 ヶ月（30 日）以上の治療を要する場合（人）をいう。
6. 「軽傷」（「軽傷者」）とは、交通事故によって負傷し、1 ヶ月（30 日）未満の治療を要する場合（人）をいう。
7. 「負傷」（「負傷者」）とは、「重傷」（「重傷者」）と「軽傷」（「軽傷者」）の合計をいう。

1. 事故全体の傾向

1-1. 交通事故全体の推移

自動車に加え、二輪車や自転車を含む「交通事故全体」と、「事業用自動車」の交通事故の推移を、「交通事故件数」、「交通事故死者数」、「交通死亡事故件数」の3つで比較した。

(1) 交通事故件数の推移

平成 22 年中に全国で発生した交通事故全体の件数は 725,773 件であり、そのうち、事業用自動車は 51,061 件となった。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン 2009（平成 21 年 3 月）」において、平成 30 年までの 10 年間で人身事故件数を半減（3 万件以下）、中間年である平成 25 年には 4 万 3 千件とする目標値が示されている。

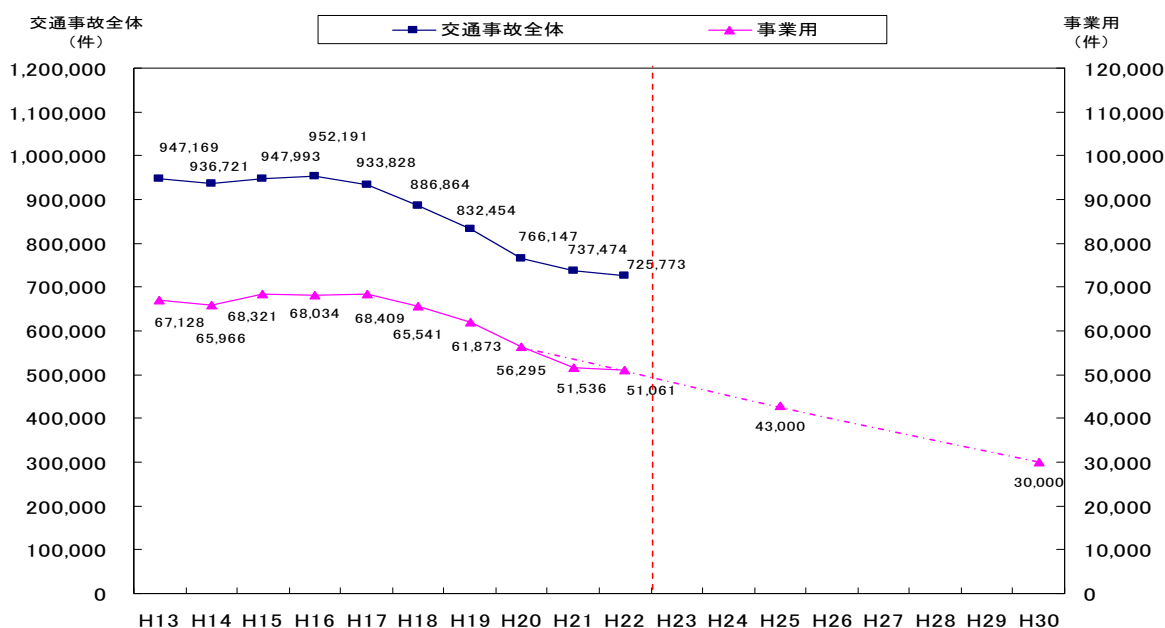


図1 交通事故件数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表1 交通事故件数の推移 (件)

区分	交通事故件数	
	交通事故全体	事業用
年		
H13	947,169	67,128
H14	936,721	65,966
H15	947,993	68,321
H16	952,191	68,034
H17	933,828	68,409
H18	886,864	65,541
H19	832,454	61,873
H20	766,147	56,295
H21	737,474	51,536
H22	725,773	51,061

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 交通事故死者数の推移

平成 22 年中に全国で発生した交通事故全体における死者数は 4,863 人であり、そのうち、事業用自動車での交通事故死者数は 490 人となっている。

なお、平成 21 年 1 月に政府が掲げた、平成 20 年から平成 30 年の 10 年間に交通事故死者数を半減させ、2,500 人以下とする目標値を受けて、「事業用自動車総合安全プラン 2009」においても、同 10 年間で事業用自動車での交通事故死者数を半減させ、平成 30 年には 250 人以下とする目標値が示されている。

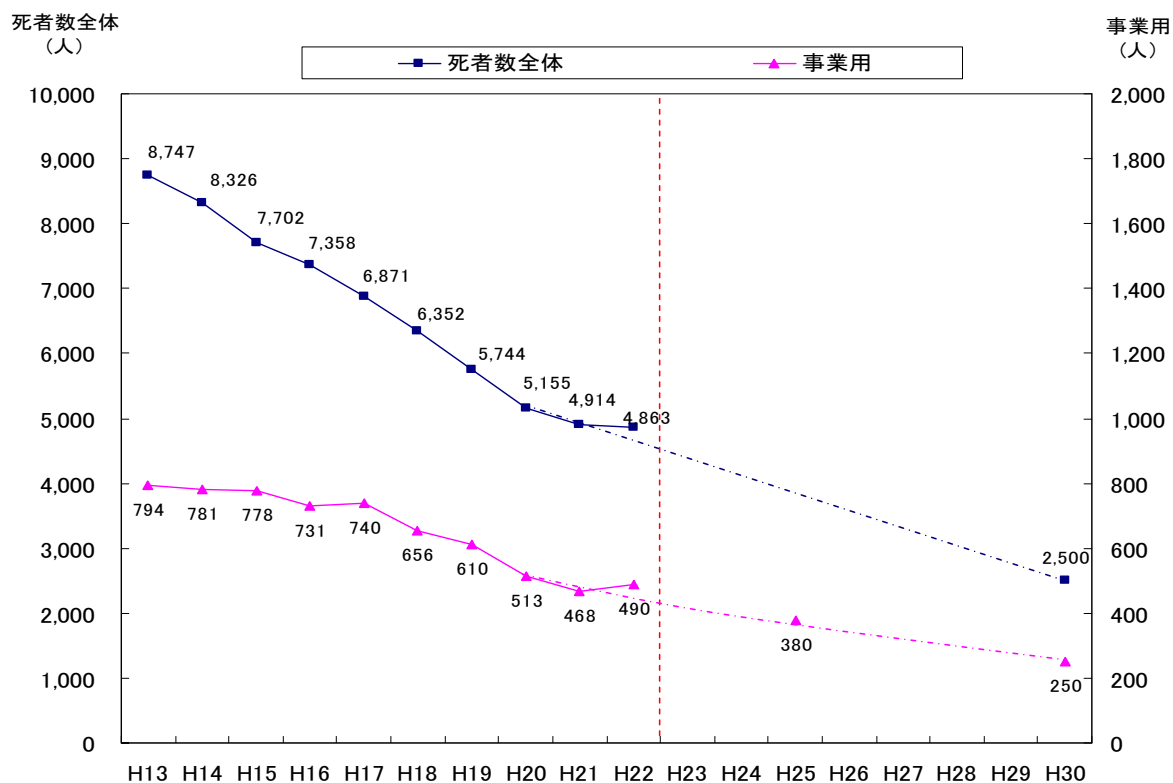


図 2 交通事故死者数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 2 交通事故死者数の推移 (人)

区分	死者数	
	死者数全体	事業用
年		
H13	8,747	794
H14	8,326	781
H15	7,702	778
H16	7,358	731
H17	6,871	740
H18	6,352	656
H19	5,744	610
H20	5,155	513
H21	4,914	468
H22	4,863	490

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 交通死亡事故件数の推移

平成 22 年中に全国で発生した交通死亡事故全体の件数は 4,726 件であり、前年より 47 件減少した。そのうち、事業用自動車は 469 件となっており、前年より 18 件増加した。

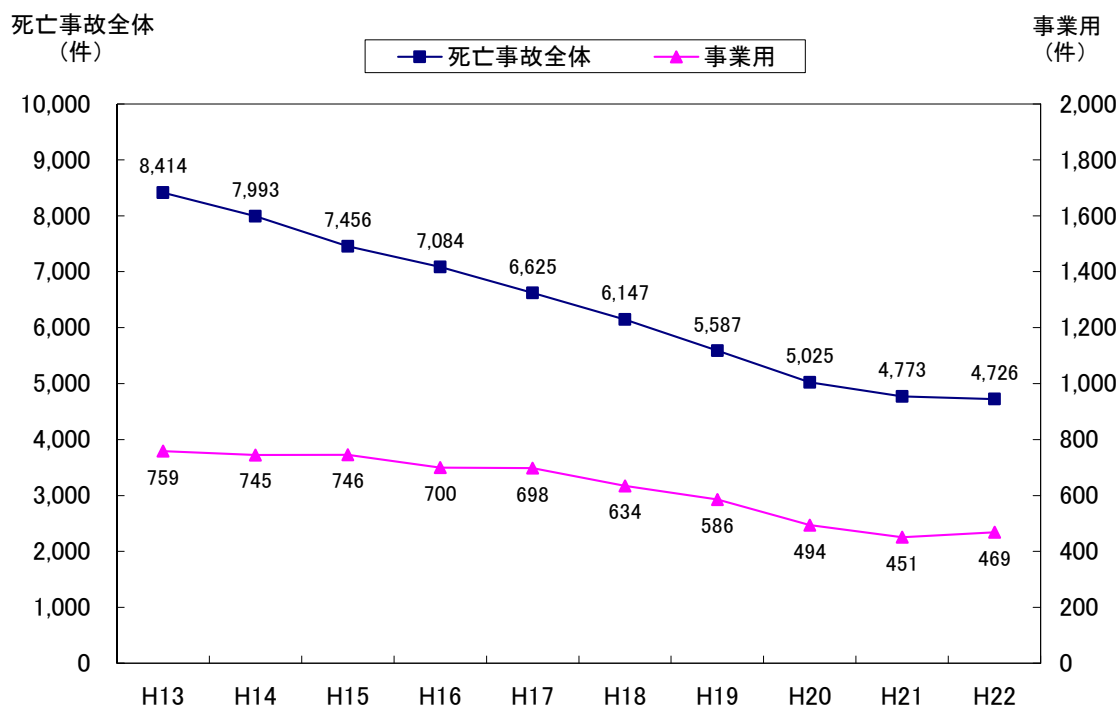


図 3 交通死亡事故件数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 3 交通死亡事故件数の推移 (件)

区分 年	死亡事故件数	
	死亡事故全体	事業用
H13	8,414	759
H14	7,993	745
H15	7,456	746
H16	7,084	700
H17	6,625	698
H18	6,147	634
H19	5,587	586
H20	5,025	494
H21	4,773	451
H22	4,726	469

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-2. 自動車事故件数の推移

「事業用自動車」・「自家用自動車」（自家用のバス、乗用車及びトラックをいう。以下同じ。）、及び「自動車全体」（事業用自動車と自家用自動車を合わせたものをいう。以下同じ。）について、「交通事故件数」、「交通事故死亡者数」、「交通死亡事故件数」の3つで比較した。

(1) 自動車事故件数の推移

平成22年中に全国で発生した自動車全体の交通事故件数は647,455件であり、そのうち、自家用自動車は596,394件、事業用自動車は51,061件となっている。

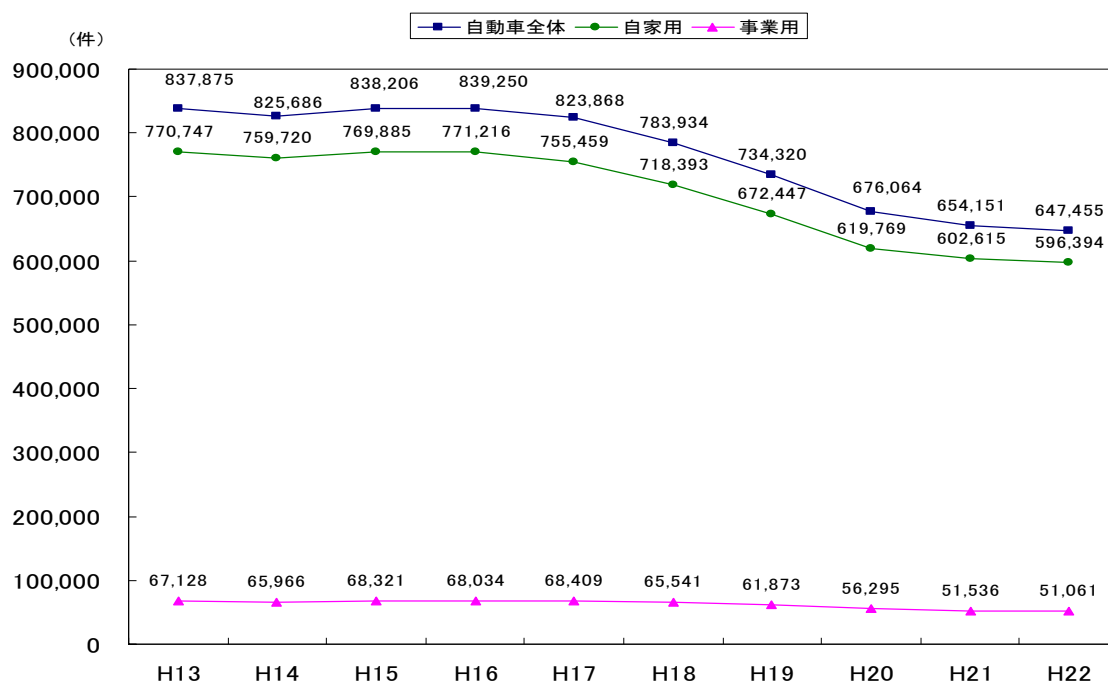


図4 自動車事故件数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表4 自動車事故件数の推移（件）

年	自動車全体	自家用	事業用
H13	837,875	770,747	67,128
H14	825,686	759,720	65,966
H15	838,206	769,885	68,321
H16	839,250	771,216	68,034
H17	823,868	755,459	68,409
H18	783,934	718,393	65,541
H19	734,320	672,447	61,873
H20	676,064	619,769	56,295
H21	654,151	602,615	51,536
H22	647,455	596,394	51,061

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

事業用自動車の交通事故件数を業態別に見ると、平成 22 年は、乗合バスとタクシーで前年に引き続き減少したものの、貸切バスとトラックでは、前年に比べ増加した。

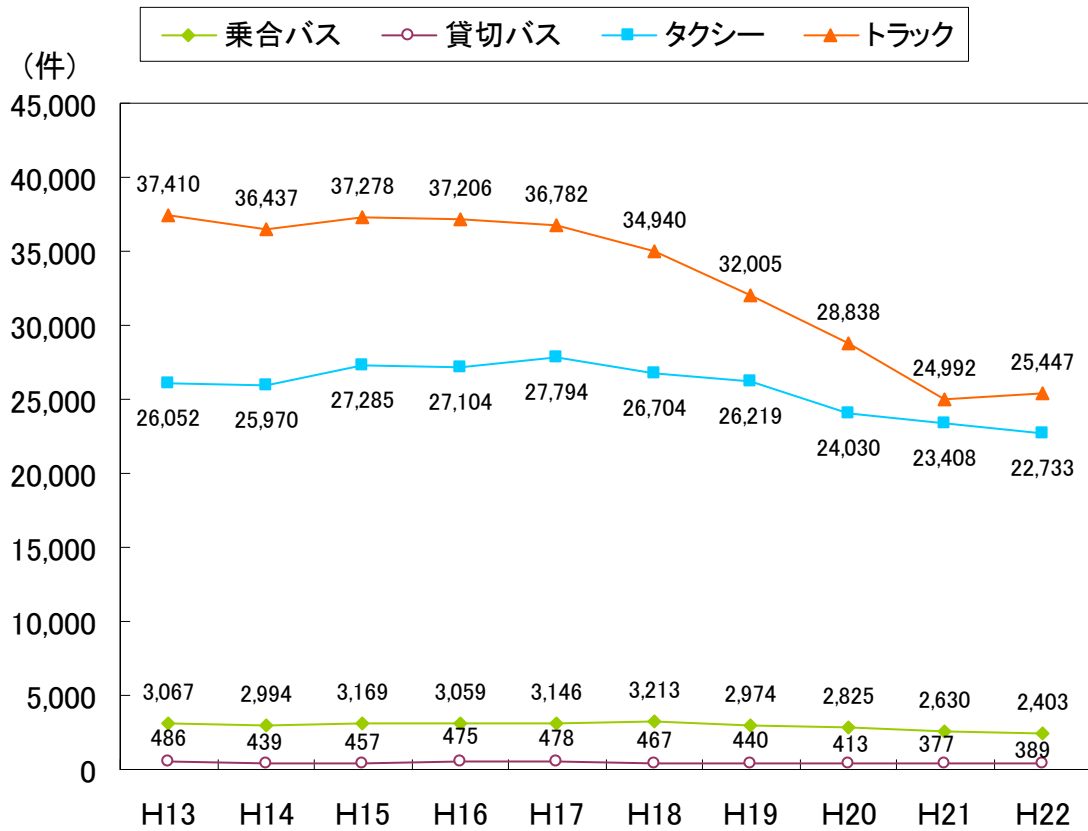


図 5 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 5 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移 (件)

区分 年	バス	バス			タクシー	トラック
		乗合バス	貸切バス	その他		
H13	3,666	3,067	486	113	26,052	37,410
H14	3,559	2,994	439	126	25,970	36,437
H15	3,758	3,169	457	132	27,285	37,278
H16	3,724	3,059	475	190	27,104	37,206
H17	3,833	3,146	478	209	27,794	36,782
H18	3,897	3,213	467	217	26,704	34,940
H19	3,649	2,974	440	235	26,219	32,005
H20	3,427	2,825	413	189	24,030	28,838
H21	3,136	2,630	377	129	23,408	24,992
H22	2,881	2,403	389	89	22,733	25,447

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車事故件数の推移

自動車全体と自家用自動車は、平成17年以降減少が続いている。事業用自動車も平成17年以降減少が続いていたが、平成22年は横這いとなった。

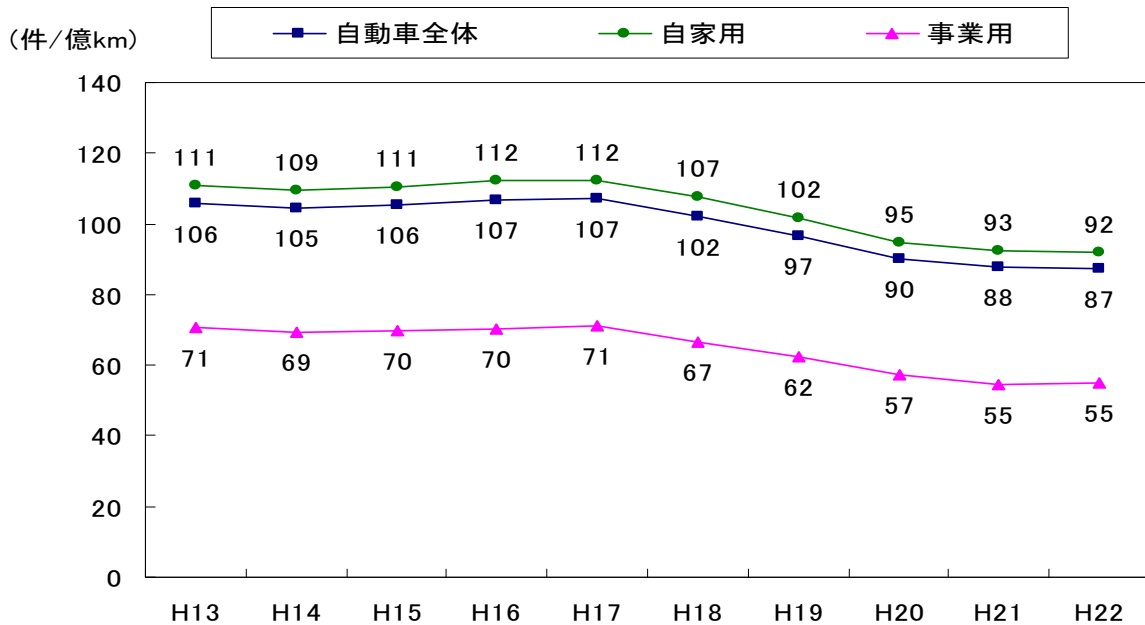


図6 走行距離1億キロあたり自動車事故件数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

表6 走行距離と自動車事故件数の推移

年	事故件数(件)			走行距離(億 km)		
	自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H13	837,875	770,747	67,128	7,910.2	6,958.3	951.9
H14	825,686	759,720	65,966	7,897.0	6,942.9	954.1
H15	838,206	769,885	68,321	7,939.8	6,960.9	978.9
H16	839,250	771,216	68,034	7,847.0	6,878.8	968.2
H17	823,868	755,459	68,409	7,681.0	6,717.6	963.4
H18	783,934	718,393	65,541	7,666.4	6,683.9	982.5
H19	734,320	672,447	61,873	7,606.8	6,613.2	993.6
H20	676,064	619,769	56,295	7,519.2	6,536.8	982.4
H21	654,151	602,615	51,536	7,452.1	6,508.9	943.2
H22	647,455	596,394	51,061	7,405.1	6,473.1	932.0

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

注：1. 走行距離（営業用バスを除く）の調査については、平成22年10月より、「自動車輸送統計調査」から「自動車燃料消費量調査」に移行している。

2. 本表の平成22年値は、1月から9月までは旧統計数値、10月から12月は新統計数値となっているため、公表されている接続係数を使って、旧系列と比較可能な数値を作成した。

(走行距離の作成方法については、以下同様)

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

グラフから、タクシーと乗合バスの走行距離あたりの事故が多いことがわかるが、これは、これらの業態が市街地を走行する機会が多いことによると考えられる。他方、トラックと貸切バスの走行距離あたりの事故が少ないのは、走行距離に占める高速道路使用の割合が比較的高いことによると考えられる。

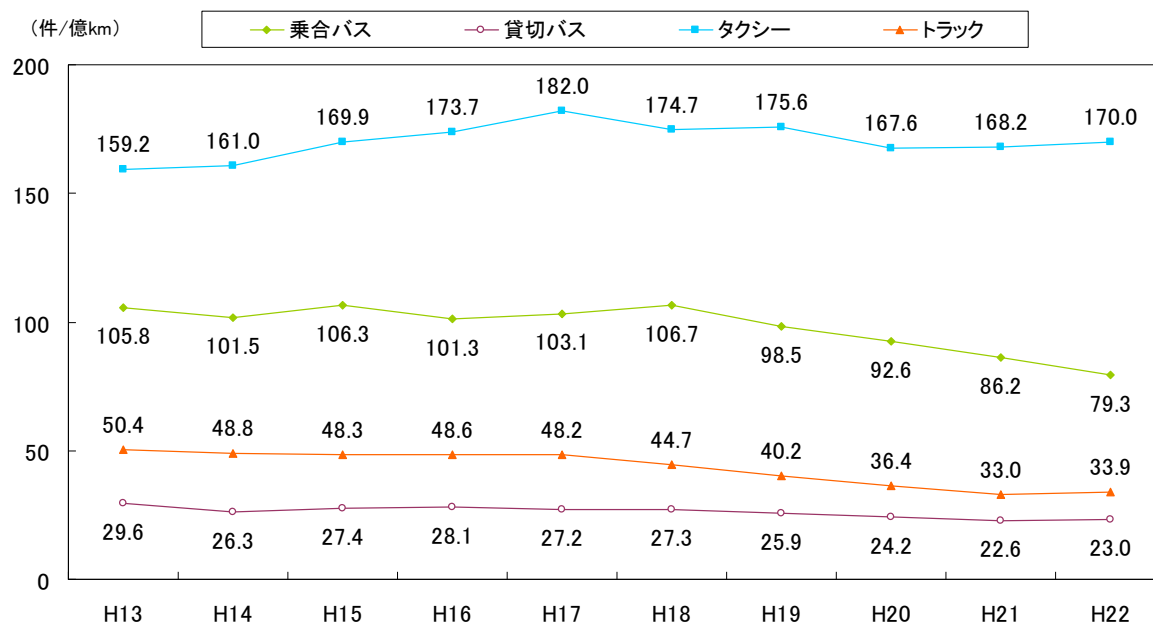


図7 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

表7 事業用自動車の業態別走行距離と交通事故件数の推移

区分 年	事故件数(件)							走行距離(億km)					
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	自動車全体	バス	乗合	貸切	タクシー	トラック	自動車全体
H13	3,666	3,067	486	113	26,052	37,410	837,875	45.4	29.0	16.4	163.6	742.9	7910.2
H14	3,559	2,994	439	126	25,970	36,437	825,686	46.2	29.5	16.7	161.3	746.6	7897.0
H15	3,758	3,169	457	132	27,285	37,278	838,206	46.5	29.8	16.7	160.6	771.8	7939.8
H16	3,724	3,059	475	190	27,104	37,206	839,250	47.2	30.2	16.9	156.0	765.0	7847.0
H17	3,833	3,146	478	209	27,794	36,782	823,868	48.1	30.5	17.6	152.7	762.6	7681.0
H18	3,897	3,213	467	217	26,704	34,940	783,934	47.2	30.1	17.1	152.9	782.4	7666.4
H19	3,649	2,974	440	235	26,219	32,005	734,320	47.2	30.2	17.0	149.3	797.1	7606.8
H20	3,427	2,825	413	189	24,030	28,838	676,064	47.6	30.5	17.1	143.4	791.4	7519.2
H21	3,136	2,630	377	129	23,408	24,992	654,151	47.1	30.5	16.7	139.2	756.9	7452.1
H22	2,881	2,403	389	89	22,733	25,447	647,455	47.2	30.3	16.9	133.7	751.1	7405.1

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

1-3. 自動車事故死者数の推移

(1) 自動車事故死者数の推移

平成22年中に全国で発生した自動車全体の交通事故死者数は3,904人であり、そのうち、事業用自動車は490人となっている。自動車全体と自家用自動車は前年に比べ減少したが、事業用自動車は増加した。

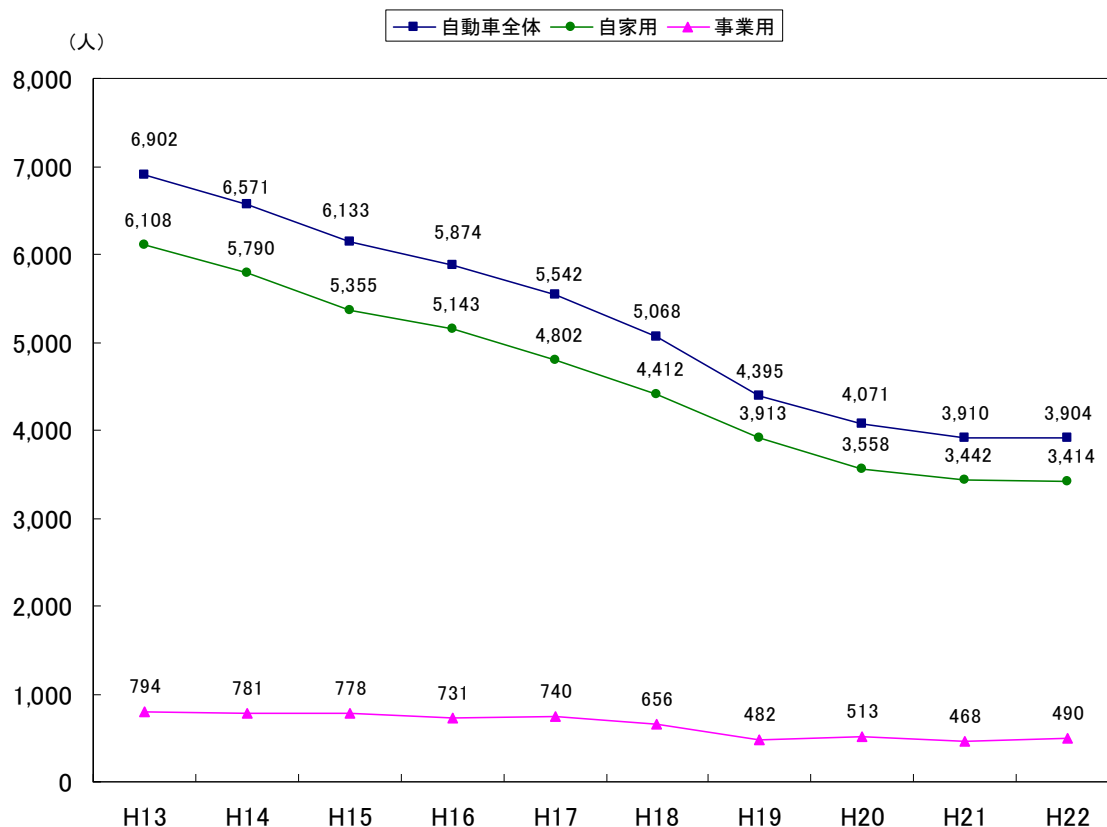


図8 自動車事故死者数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表8 自動車事故死者数の推移(人)

年	自動車全体	自家用	事業用
H13	6,902	6,108	794
H14	6,571	5,790	781
H15	6,133	5,355	778
H16	5,874	5,143	731
H17	5,542	4,802	740
H18	5,068	4,412	656
H19	4,395	3,913	482
H20	4,071	3,558	513
H21	3,910	3,442	468
H22	3,904	3,414	490

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

事業用自動車の交通事故死者数を業態別に見ると、トラックによる交通事故死者数が大半を占める。トラックによる交通事故死者数は、平成 18 年以降大きく減少してきたが、平成 22 年は前年に比べ増加した。他の業態についても、平成 22 年は前年に比べ増加している。

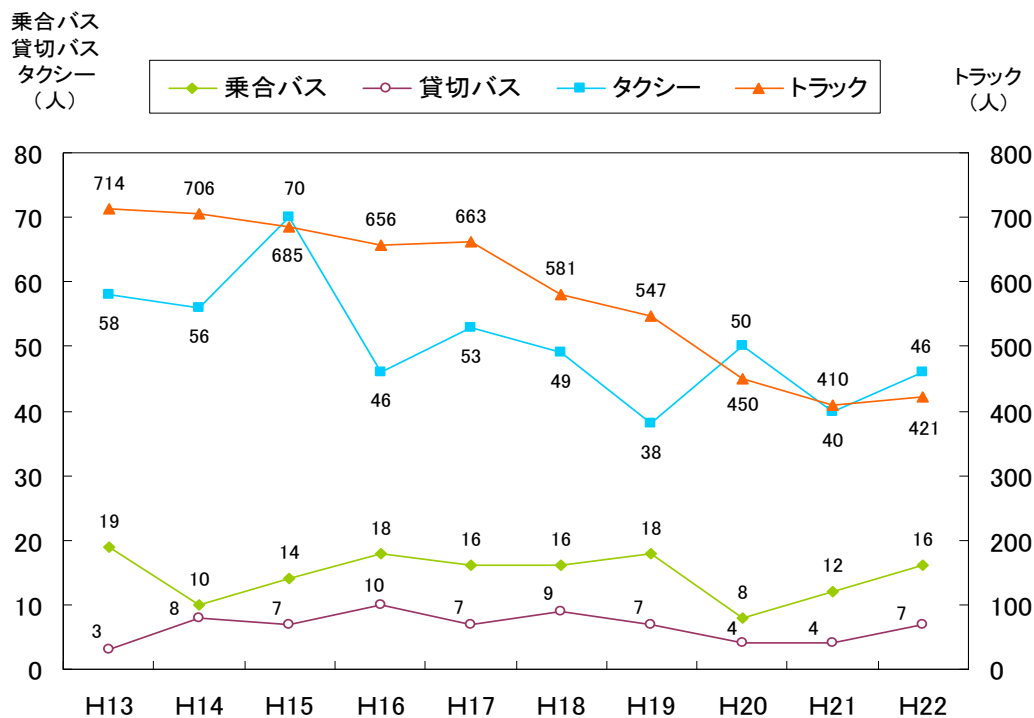


図9 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表9 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移 (人)

区分 年	バス	バス			タクシー	トラック
		乗合バス	貸切バス	その他		
H13	22	19	3	0	58	714
H14	19	10	8	1	56	706
H15	23	14	7	2	70	685
H16	29	18	10	1	46	656
H17	24	16	7	1	53	663
H18	26	16	9	1	49	581
H19	25	18	7	0	38	547
H20	13	8	4	1	50	450
H21	18	12	4	2	40	410
H22	23	16	7	0	46	421

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車事故死者数の推移

走行距離あたりの自動車事故死者数は、近年、減少が鈍化している。平成22年については、自動車全体と自家用自動車はほぼ横這いだが、事業用自動車は他と比べても増加幅が大きい。

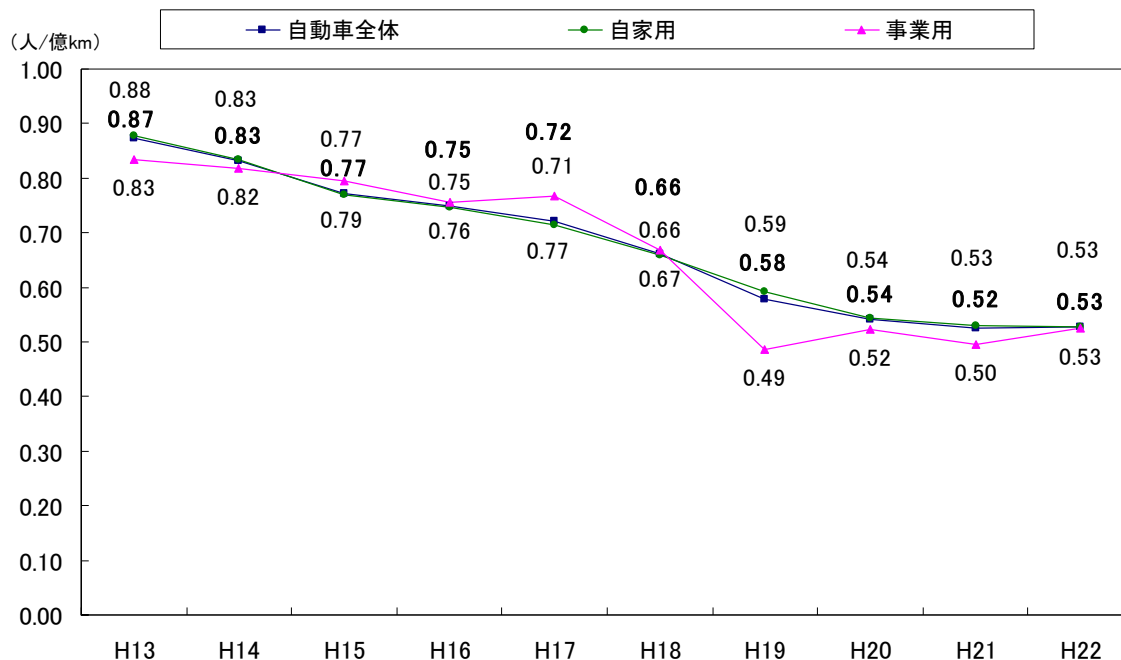


図10 走行距離1億キロあたり自動車事故死者数の推移

出典：警視庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

表10 走行距離と自動車事故死者数の推移

区分 年	死者数(人)			走行距離(億 km)		
	自動車全体	自家用	事業用	自動車	自家用	事業用
H13	6,902	6,108	794	7,910.2	6,958.3	951.9
H14	6,571	5,790	781	7,897.0	6,942.9	954.1
H15	6,133	5,355	778	7,939.8	6,960.9	978.9
H16	5,874	5,143	731	7,847.0	6,878.8	968.2
H17	5,542	4,802	740	7,681.0	6,717.6	963.4
H18	5,068	4,412	656	7,666.4	6,683.9	982.5
H19	4,395	3,913	482	7,606.8	6,613.2	993.6
H20	4,071	3,558	513	7,519.2	6,536.8	982.4
H21	3,910	3,442	468	7,452.1	6,508.9	943.2
H22	3,904	3,414	490	7,405.1	6,473.1	932.0

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

トラックは他の業態よりも走行距離あたりの死者数が多いが、その差は年々小さくなっている。平成22年は全ての業態で前年に比べ増加した。

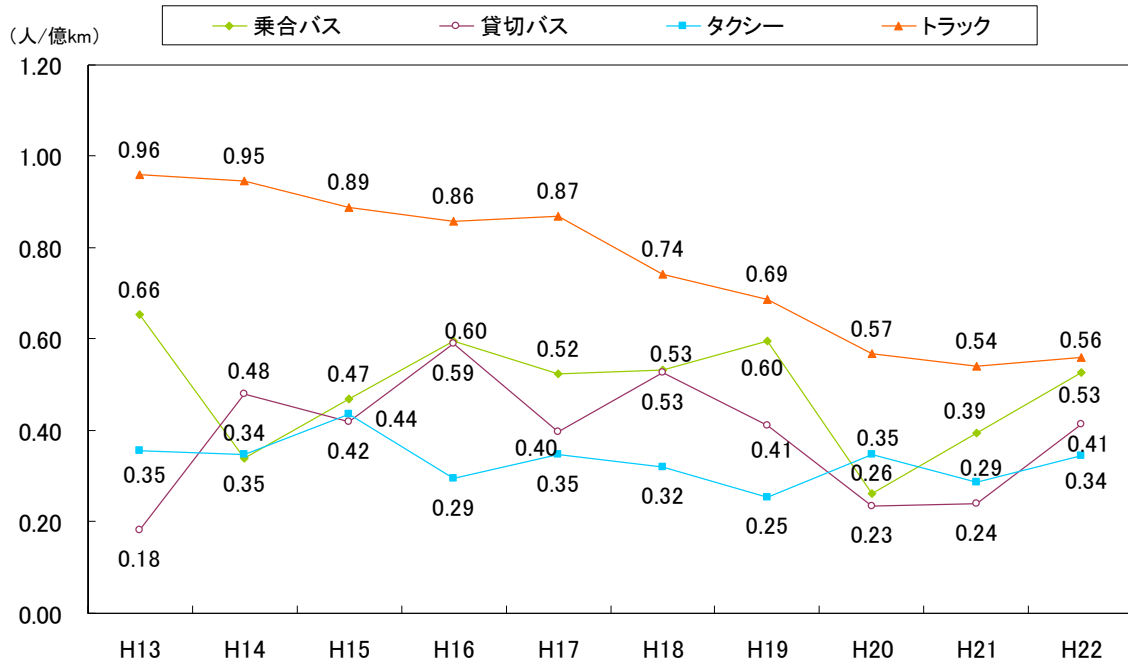


図11 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

表11 事業用自動車の業態別走行距離と交通事故死者数の推移

区分 年	死者数(人)							走行距離(億km)					
	バス				タクシー	トラック	自動車全体	バス			タクシー	トラック	自動車全体
	乗合	貸切	その他	乗合				貸切					
H13	22	19	3	0	58	714	6,902	45.4	29.0	16.4	163.6	742.9	7,910.2
H14	19	10	8	1	56	706	6,571	46.2	29.5	16.7	161.3	746.6	7,897.0
H15	23	14	7	2	70	685	6,133	46.5	29.8	16.7	160.6	771.8	7,939.8
H16	29	18	10	1	46	656	5,874	47.2	30.2	16.9	156.0	765.0	7,847.0
H17	24	16	7	1	53	663	5,542	48.1	30.5	17.6	152.7	762.6	7,681.0
H18	26	16	9	1	49	581	5,068	47.2	30.1	17.1	152.9	782.4	7,666.4
H19	25	18	7	0	38	547	4,395	47.2	30.2	17.0	149.3	797.1	7,606.8
H20	13	8	4	1	50	450	4,071	47.6	30.5	17.1	143.4	791.4	7,519.2
H21	18	12	4	2	40	410	3,910	47.1	30.5	16.7	139.2	756.9	7,452.1
H22	23	16	7	0	46	421	3,904	47.2	30.3	16.9	133.7	751.1	7,405.1

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

1-4. 自動車死亡事故件数の推移

(1) 自動車死亡事故件数の推移

平成22年中に全国で発生した自動車全体の交通死亡事故件数は3,771件であり、そのうち、自家用自動車は3,302件、事業用自動車は469件となっている。

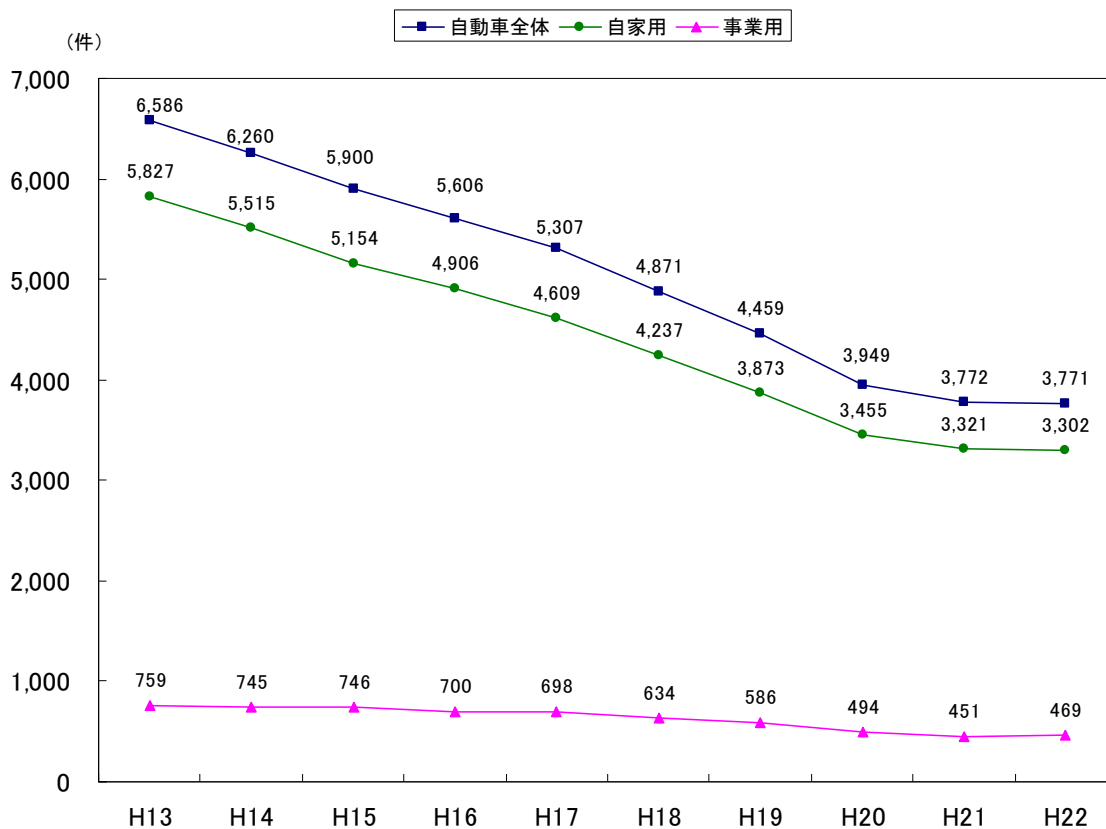


図12 自動車死亡事故件数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表12 自動車死亡事故件数の推移 (件)

年	自動車全体	自家用	事業用
H13	6,586	5,827	759
H14	6,260	5,515	745
H15	5,900	5,154	746
H16	5,606	4,906	700
H17	5,307	4,609	698
H18	4,871	4,237	634
H19	4,459	3,873	586
H20	3,949	3,455	494
H21	3,772	3,321	451
H22	3,771	3,302	469

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

事業用自動車の交通死亡事故件数を業態別に見ると、トラックによる死亡事故件数が大半を占める。トラックによる死亡事故件数は、平成18年以降大きく減少したが、平成22年は増加した。他の業態も、バス・タクシーともに前年に比べ増加している。

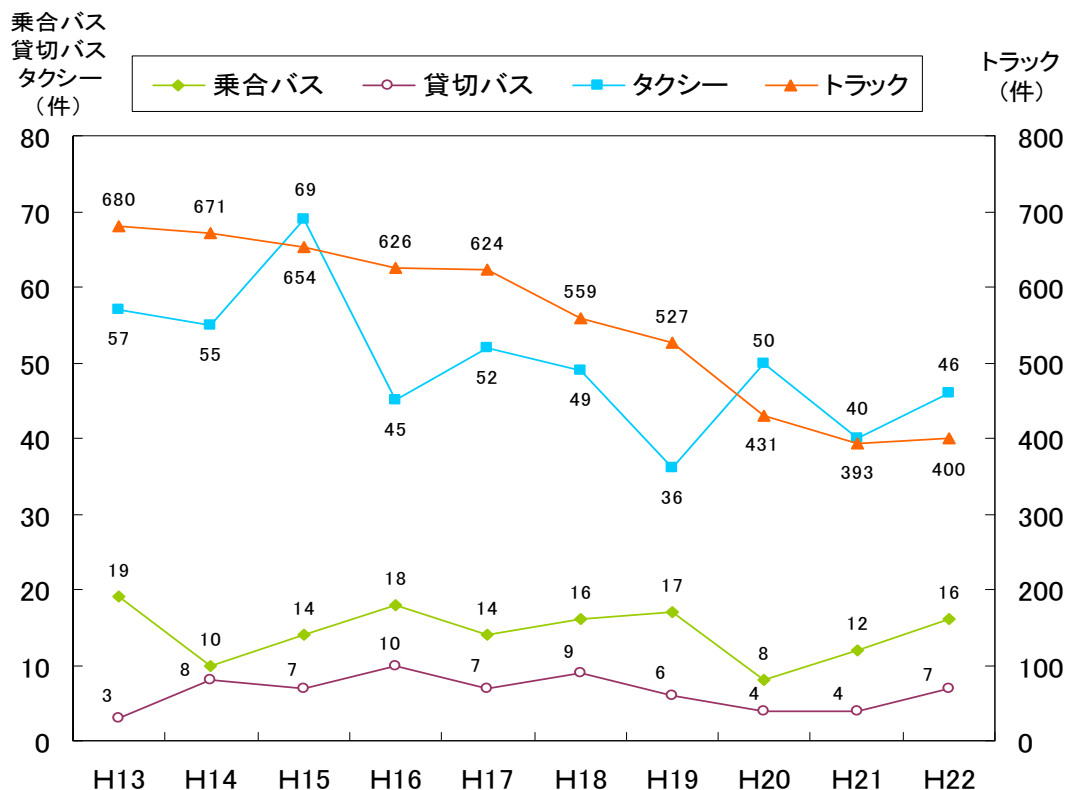


図13 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表13 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移 (件)

年	区分	バス			タクシー	トラック
		乗合バス	貸切バス	その他		
H13		19	3	0	57	680
H14		10	8	1	55	671
H15		14	7	2	69	654
H16		18	10	1	45	626
H17		14	7	1	52	624
H18		16	9	1	49	559
H19		17	6	0	36	527
H20		8	4	1	50	431
H21		12	4	2	40	393
H22		16	7	0	46	400

出典：警察庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車死亡事故件数の推移

走行距離あたりの自動車死亡事故件数は、近年、減少が鈍化している。平成22年には、自動車全体と自家用自動車はほぼ横這いだが、事業用自動車は他と比べても増加幅が大きい。

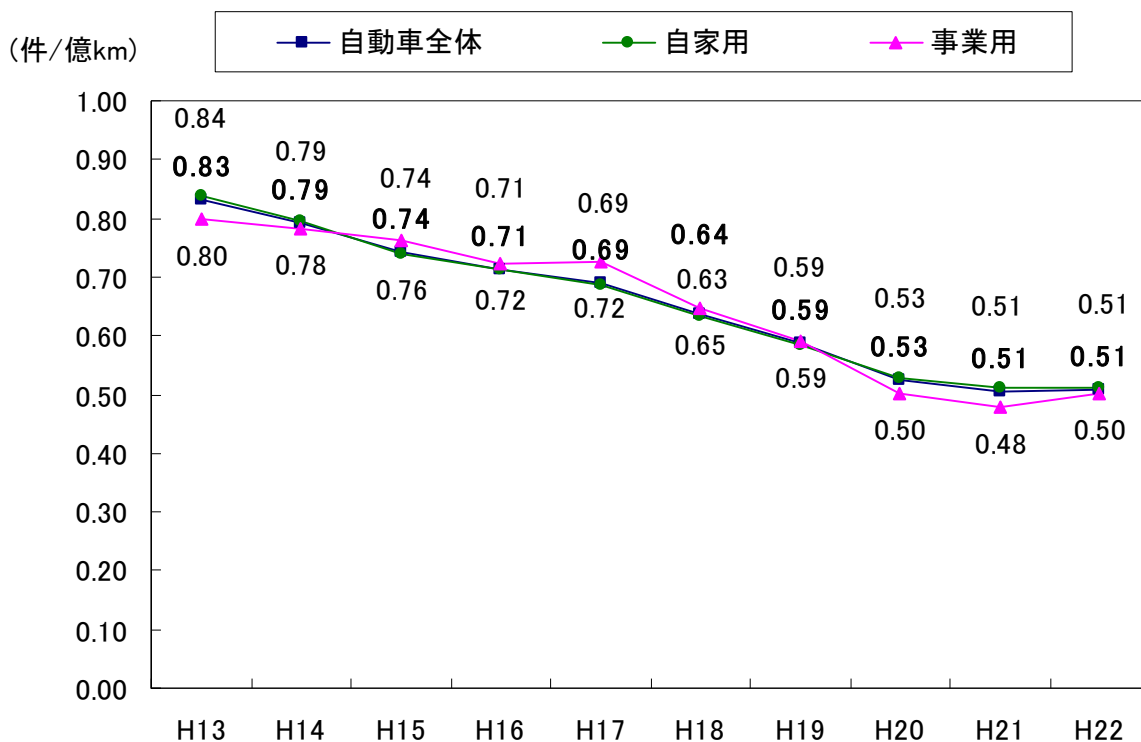


図14 走行距離1億キロあたり自動車死亡事故件数の推移

出典：警視庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

表14 走行距離と自動車死亡事故件数の推移

年	死亡事故件数(件)			走行距離(億 km)		
	自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H13	6,586	5,827	759	7,910.2	6,958.3	951.9
H14	6,260	5,515	745	7,897.0	6,942.9	954.1
H15	5,900	5,154	746	7,939.8	6,960.9	978.9
H16	5,606	4,906	700	7,847.0	6,878.8	968.2
H17	5,307	4,609	698	7,681.0	6,717.6	963.4
H18	4,871	4,237	634	7,666.4	6,683.9	982.5
H19	4,459	3,873	586	7,606.8	6,613.2	993.6
H20	3,949	3,455	494	7,519.2	6,536.8	982.4
H21	3,772	3,321	451	7,452.1	6,508.9	943.2
H22	3,771	3,302	469	7,405.1	6,473.1	932.0

出典：警視庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

トラックは他の業態に比べ走行距離あたりの死亡事故件数が多いが、その差は年々小さくなっている。平成22年は、他の業態が前年に比べ増加した影響もあり、より差が小さくなっている。

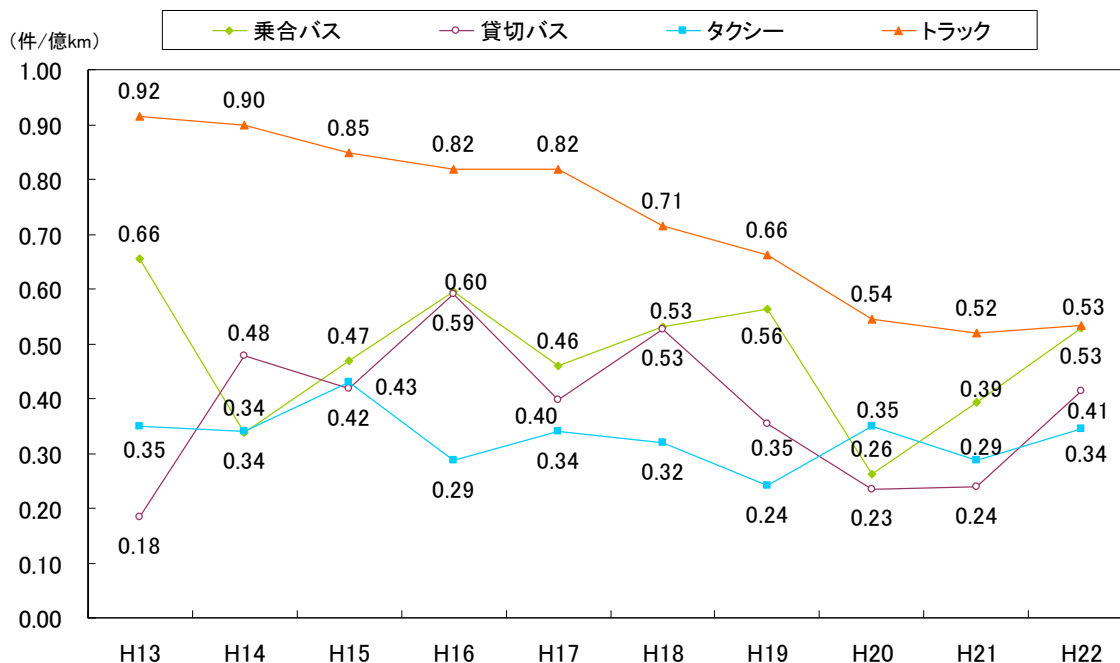


図15 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

出典：警視庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

表15 事業用自動車の業態別走行距離と交通死亡事故件数の推移

区分 年	死亡事故件数(件)							走行距離(億 km)					
	バス				タクシー	トラック	自動車全体	バス			タクシー	トラック	自動車全体
		乗合	貸切	その他					乗合	貸切			
H13	22	19	3	0	57	680	6,586	45.4	29.0	16.4	163.6	742.9	7,910.2
H14	19	10	8	1	55	671	6,260	46.2	29.5	16.7	161.3	746.6	7,897.0
H15	23	14	7	2	69	654	5,900	46.5	29.8	16.7	160.6	771.8	7,939.8
H16	29	18	10	1	45	626	5,606	47.2	30.2	16.9	156.0	765.0	7,847.0
H17	22	14	7	1	52	624	5,307	48.1	30.5	17.6	152.7	762.6	7,681.0
H18	26	16	9	1	49	559	4,871	47.2	30.1	17.1	152.9	782.4	7,666.4
H19	23	17	6	0	36	527	4,459	47.2	30.2	17.0	149.3	797.1	7,606.8
H20	13	8	4	1	50	431	3,949	47.6	30.5	17.1	143.4	791.4	7,519.2
H21	18	12	4	2	40	393	3,772	47.1	30.5	16.7	139.2	756.9	7,452.1
H22	23	16	7	0	46	400	3,771	47.2	30.3	16.9	133.7	751.1	7,405.1

出典：警視庁「交通統計」

(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」

1-5. 飲酒運転による事業用自動車の交通事故

飲酒運転による事業用自動車の交通事故は、トラック、タクシーともに減少傾向にあるが、近年は減少が鈍化している。

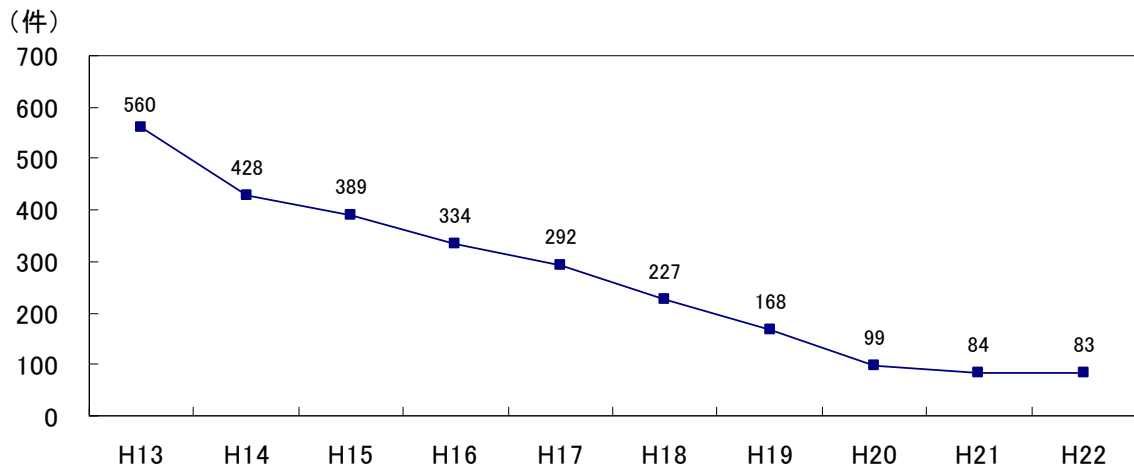
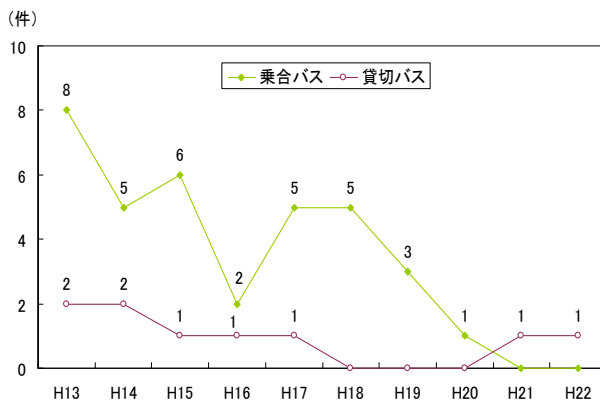
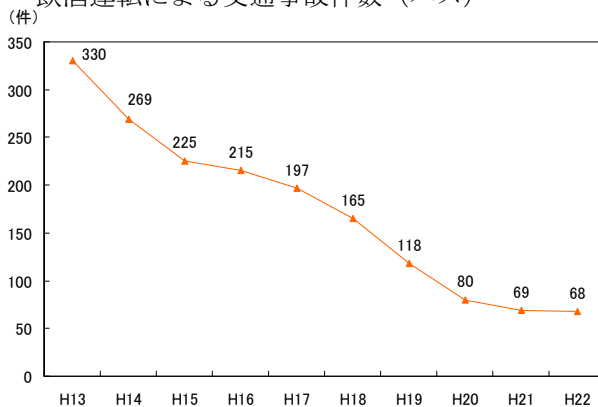


図 16 飲酒運転による事業用自動車の交通事故件数の推移

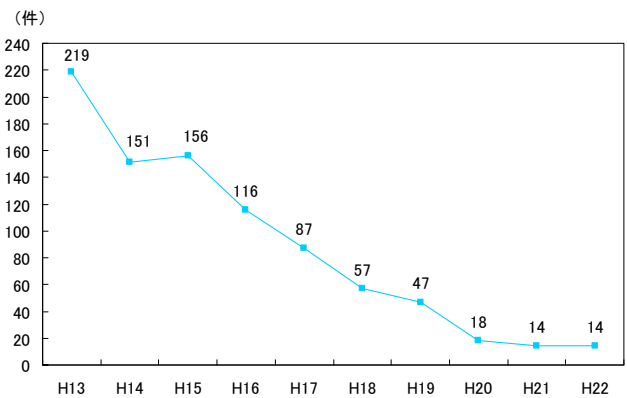
出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」



飲酒運転による交通事故件数（バス）



飲酒運転による交通事故件数（トラック）



飲酒運転による交通事故件数（タクシー）

図 17 業態別飲酒運転による交通事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 16 業態別飲酒運転による交通事故件数の推移（件）

区分 年	交通事故件数						
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	合計
H13	11	8	2	1	219	330	560
H14	8	5	2	1	151	269	428
H15	8	6	1	1	156	225	389
H16	3	2	1	0	116	215	334
H17	8	5	1	2	87	197	292
H18	5	5	0	0	57	165	227
H19	3	3	0	0	47	118	168
H20	1	1	0	0	18	80	99
H21	1	0	1	0	14	69	84
H22	1	0	1	0	14	68	83

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 17 業態別飲酒運転による交通死亡事故件数の推移（件）

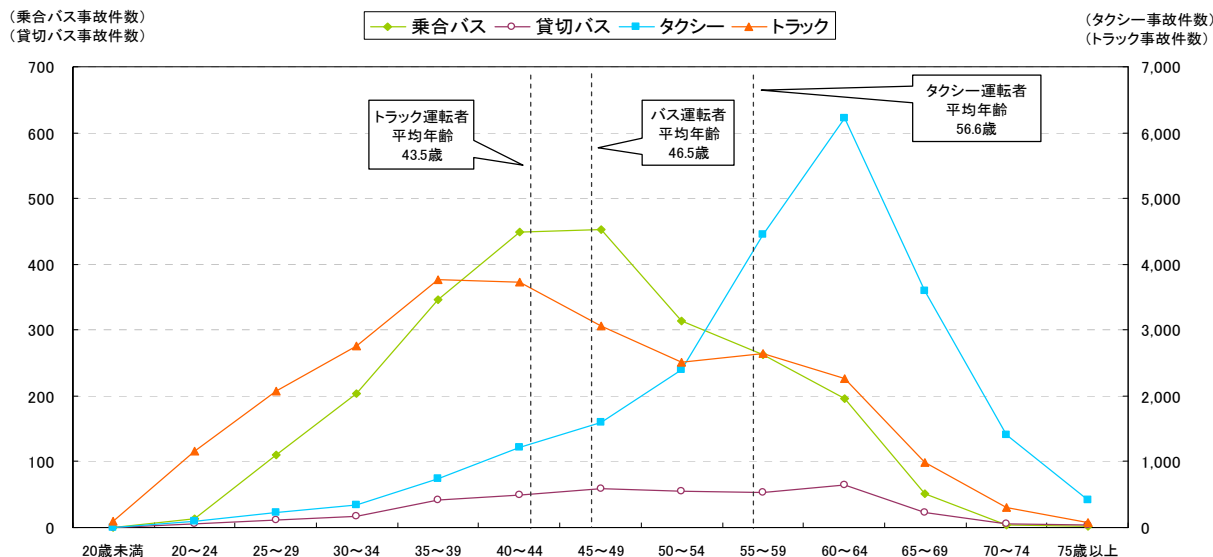
区分 年	交通死亡事故件数						
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	合計
H13	0	0	0	0	3	12	15
H14	1	1	0	0	0	18	20
H15	0	0	0	0	0	9	9
H16	0	0	0	0	0	16	16
H17	0	0	0	0	0	13	13
H18	0	0	0	0	0	9	9
H19	0	0	0	0	0	12	12
H20	0	0	0	0	0	1	1
H21	0	0	0	0	0	2	2
H22	0	0	0	0	0	3	3

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-6. 業態別運転者年齢層別の交通事故

(1) 業態別運転者年齢層別交通事故件数

業態別の事故惹起運転者の平均年齢は、バスは運転者の平均年齢とほぼ同じで、トラックでは若干高く、タクシーも若干高い状況となっており傾向は業態毎に異なっている。



業態	バス	タクシー	トラック
平均年齢 (運転者全体)	46.5	56.6	43.5
平均年齢 (事故あり)	47.0	58.2	44.8

※ 事故惹起運転者の平均年齢は、年齢層毎の年齢の加重平均により算出

図 18 業態別運転者年齢層別交通事故件数 (平成 22 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

厚生労働省「平成22年賃金構造基本統計調査(全国)」

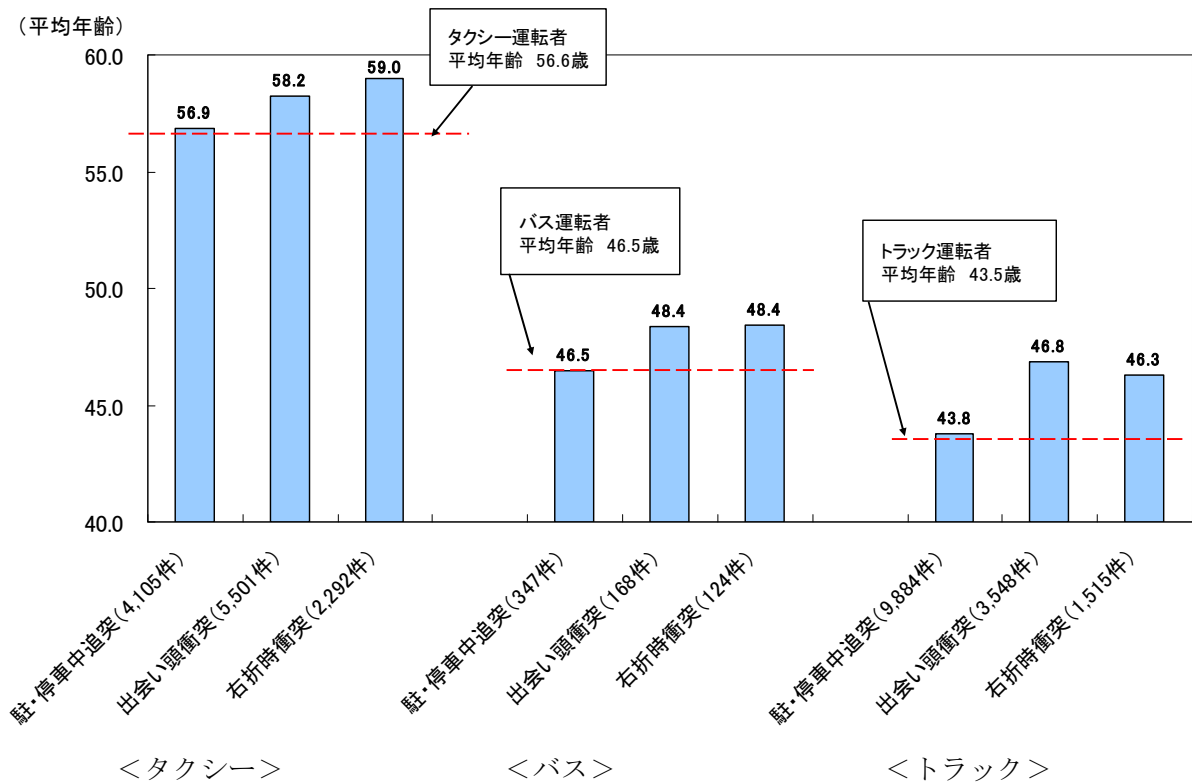
表 18 業態別運転者年齢層別交通事故件数 (件) (平成 22 年)

		20歳未満	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75歳以上	合計
バス	乗合	0	14	110	204	347	448	452	314	262	196	52	3	1	2,403
	貸切	0	5	12	17	41	49	59	56	54	64	23	6	3	389
	その他	0	0	1	7	11	12	9	11	9	20	6	3	0	89
	小計	0	19	123	228	399	509	520	381	325	280	81	12	4	2,881
ハイタク	法人	0	60	163	296	664	1,102	1,464	2,242	4,090	5,581	3,148	1,164	274	20,248
	個人	1	0	7	6	18	32	64	92	246	457	340	199	133	1,595
その他乗用		8	39	49	39	60	81	75	60	120	190	113	44	12	890
小計		9	99	219	341	742	1,215	1,603	2,394	4,456	6,228	3,601	1,407	419	22,733
貨物自動車	大型	0	127	544	913	1,398	1,441	1,148	846	792	585	185	21	3	8,003
	中型	5	538	911	1,113	1,433	1,385	1,024	851	853	689	214	39	4	9,059
	普通	50	324	412	491	596	522	397	327	361	299	147	45	11	3,982
	軽	33	165	214	248	335	385	497	494	638	698	446	198	52	4,403
小計		88	1,154	2,081	2,765	3,762	3,733	3,066	2,518	2,644	2,271	992	303	70	25,447
合計		97	1,272	2,423	3,334	4,903	5,457	5,189	5,293	7,425	8,779	4,674	1,722	493	51,061
トレーラ(トラックの内数)		0	23	112	179	256	312	241	170	143	105	23	1	0	1,565

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 業態別事故類型別事故惹起運転者平均年齢

事故惹起運転者の平均年齢を、運転者全体の平均年齢と比べると、出会い頭衝突、右左折時衝突は業態問わず、より高い年齢となっていることがわかる。



注：() 内は事故件数

図 19 業態別事故類型別事故惹起運転者平均年齢 (車両との事故) (平成 22 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
厚生労働省「平成 22 年賃金構造基本統計調査 (全国)」

- ※ 事故惹起運転者の平均年齢は、年齢層毎の年齢の加重平均により算出
- ※ 上記事故類型は「車両との事故」の事故類型から事故件数の多い3つを抽出

1-7. 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故

(1) 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数

表 19 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数（件）（平成 22 年）

都道府県	事業の種類				タクシー	トラック	計
	バス	乗合	貸切	その他			
北海道	96 (9)	81 (10)	13 (10)	2 (11)	922 (5)	722 (11)	1,740 (9)
青森県	19 (25)	13 (29)	3 (27)	3 (8)	120 (24)	165 (36)	304 (35)
岩手県	10 (41)	9 (35)	1 (41)	0 (26)	75 (35)	151 (38)	236 (39)
宮城県	12 (35)	10 (33)	2 (35)	0 (26)	263 (14)	342 (19)	617 (16)
秋田県	6 (47)	4 (46)	2 (35)	0 (26)	42 (43)	87 (44)	135 (45)
山形県	12 (35)	9 (35)	2 (35)	1 (16)	67 (36)	169 (34)	248 (37)
福島県	17 (29)	9 (35)	7 (17)	1 (16)	122 (23)	335 (20)	474 (22)
茨城県	41 (16)	27 (17)	10 (13)	4 (6)	98 (28)	727 (10)	866 (13)
栃木県	17 (29)	8 (40)	7 (17)	2 (11)	57 (39)	348 (18)	422 (26)
群馬県	13 (34)	12 (30)	1 (41)	0 (26)	96 (29)	516 (14)	625 (15)
埼玉県	88 (10)	57 (12)	22 (4)	9 (3)	604 (9)	2,028 (3)	2,720 (5)
千葉県	115 (7)	82 (9)	33 (3)	0 (26)	480 (11)	1,161 (7)	1,756 (8)
東京都	376 (1)	327 (1)	34 (2)	15 (1)	6,616 (1)	2,673 (1)	9,665 (1)
神奈川県	301 (3)	281 (3)	14 (7)	6 (5)	1,654 (4)	1,738 (4)	3,693 (3)
山梨県	9 (43)	2 (47)	3 (27)	4 (6)	52 (41)	121 (41)	182 (43)
新潟県	31 (20)	27 (17)	3 (27)	1 (16)	125 (22)	266 (24)	422 (26)
富山県	7 (46)	7 (41)	0 (47)	0 (26)	35 (45)	174 (33)	216 (40)
石川県	33 (19)	24 (19)	9 (14)	0 (26)	106 (26)	207 (30)	346 (32)
長野県	34 (18)	19 (22)	14 (7)	1 (16)	93 (30)	299 (21)	426 (25)
福井県	8 (45)	5 (45)	1 (41)	2 (11)	40 (44)	117 (42)	165 (44)
岐阜県	31 (20)	21 (21)	8 (16)	2 (11)	89 (32)	371 (17)	491 (19)
静岡県	55 (14)	39 (15)	13 (10)	3 (8)	453 (12)	939 (9)	1,447 (11)
愛知県	107 (8)	86 (7)	18 (6)	3 (8)	908 (6)	1,526 (5)	2,541 (6)
三重県	20 (24)	15 (24)	4 (23)	1 (16)	52 (41)	375 (16)	447 (24)
滋賀県	18 (28)	15 (24)	3 (27)	0 (26)	79 (34)	252 (25)	349 (31)
京都府	133 (6)	119 (6)	13 (10)	1 (16)	879 (7)	598 (12)	1,610 (10)
大阪府	362 (2)	302 (2)	47 (1)	13 (2)	2,603 (2)	2,657 (2)	5,622 (2)
奈良県	26 (23)	15 (24)	3 (27)	8 (4)	62 (38)	267 (23)	355 (30)
和歌山県	19 (25)	17 (23)	1 (41)	1 (16)	65 (37)	163 (37)	247 (38)
兵庫県	178 (5)	164 (5)	14 (7)	0 (26)	859 (8)	1,037 (8)	2,074 (7)
鳥取県	9 (43)	6 (44)	3 (27)	0 (26)	28 (46)	49 (47)	86 (47)
島根県	11 (40)	9 (35)	1 (41)	1 (16)	25 (47)	58 (45)	94 (46)
岡山県	39 (17)	30 (16)	9 (14)	0 (26)	249 (16)	467 (15)	755 (14)
広島県	88 (10)	83 (8)	4 (23)	1 (16)	529 (10)	565 (13)	1,182 (12)
山口県	29 (22)	23 (20)	6 (19)	0 (26)	105 (27)	187 (32)	321 (34)
徳島県	12 (35)	11 (31)	1 (41)	0 (26)	53 (40)	133 (40)	198 (41)
香川県	12 (35)	7 (41)	5 (20)	0 (26)	188 (20)	287 (22)	487 (21)
愛媛県	10 (41)	7 (41)	3 (27)	0 (26)	162 (21)	234 (29)	406 (29)
高知県	14 (33)	9 (35)	4 (23)	1 (16)	91 (31)	91 (43)	196 (42)
福岡県	205 (4)	186 (4)	19 (5)	0 (26)	1,883 (3)	1,259 (6)	3,347 (4)
佐賀県	16 (32)	11 (31)	5 (20)	0 (26)	87 (33)	235 (28)	338 (33)
長崎県	61 (12)	58 (11)	3 (27)	0 (26)	261 (15)	168 (35)	490 (20)
熊本県	56 (13)	51 (13)	5 (20)	0 (26)	244 (17)	240 (27)	540 (17)
大分県	12 (35)	10 (33)	2 (35)	0 (26)	116 (25)	137 (39)	265 (36)
宮崎県	17 (29)	15 (24)	2 (35)	0 (26)	203 (19)	188 (31)	408 (28)
鹿児島県	51 (15)	47 (14)	2 (35)	2 (11)	221 (18)	243 (26)	515 (18)
沖縄県	19 (25)	15 (24)	4 (23)	0 (26)	391 (13)	53 (46)	463 (23)
計	2,881	2,403	389	89	22,733	25,447	51,061

注 1：数値横のカッコ内は順位

注 2：都道府県合計には、不明を含む

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通死亡事故件数

表 20 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通死亡事故件数（件）（平成 22 年）

都道府県	事業の種類				タクシー	トラック	計
	バス	乗合	貸切	その他			
北海道	1 (4)	1 (2)	0 (6)	0	2 (8)	18 (5)	21 (6)
青森県	1 (4)	1 (2)	0 (6)	0	1 (11)	6 (18)	8 (20)
岩手県	1 (4)	1 (2)	0 (6)	0	1 (11)	5 (22)	7 (21)
宮城県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	2 (8)	9 (17)	11 (14)
秋田県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	3 (36)	3 (37)
山形県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	5 (22)	5 (28)
福島県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	5 (22)	5 (28)
茨城県	1 (4)	1 (2)	0 (6)	0	0 (21)	18 (5)	19 (8)
栃木県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	11 (14)	11 (14)
群馬県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	10 (15)	10 (17)
埼玉県	1 (4)	1 (2)	0 (6)	0	1 (11)	17 (8)	19 (8)
千葉県	3 (1)	1 (2)	2 (1)	0	0 (21)	19 (4)	22 (5)
東京都	3 (1)	2 (1)	1 (2)	0	5 (2)	15 (10)	23 (4)
神奈川県	1 (4)	1 (2)	0 (6)	0	4 (3)	14 (11)	19 (8)
山梨県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	2 (8)	5 (22)	7 (21)
新潟県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	2 (40)	2 (41)
富山県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	4 (33)	4 (33)
石川県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	1 (11)	10 (15)	11 (14)
長野県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	5 (22)	5 (28)
福井県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	5 (22)	5 (28)
岐阜県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	5 (22)	5 (28)
静岡県	1 (4)	1 (2)	0 (6)	0	0 (21)	13 (12)	14 (12)
愛知県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	1 (11)	16 (9)	17 (11)
三重県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	3 (36)	3 (37)
滋賀県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	1 (11)	5 (22)	6 (24)
京都府	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	4 (3)	5 (22)	9 (19)
大阪府	2 (3)	1 (2)	1 (2)	0	6 (1)	34 (1)	42 (1)
奈良県	1 (4)	0 (16)	1 (2)	0	0 (21)	3 (36)	4 (33)
和歌山県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	2 (40)	2 (41)
兵庫県	1 (4)	1 (2)	0 (6)	0	4 (3)	21 (2)	26 (2)
鳥取県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	1 (46)	1 (46)
島根県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	2 (40)	2 (41)
岡山県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	1 (11)	12 (13)	13 (13)
広島県	1 (4)	1 (2)	0 (6)	0	3 (6)	21 (2)	25 (3)
山口県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	1 (11)	5 (22)	6 (24)
徳島県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	1 (11)	2 (40)	3 (37)
香川県	1 (4)	0 (16)	1 (2)	0	0 (21)	6 (18)	7 (21)
愛媛県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	3 (36)	3 (37)
高知県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	2 (40)	2 (41)
福岡県	1 (4)	1 (2)	0 (6)	0	1 (11)	18 (5)	20 (7)
佐賀県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	4 (33)	4 (33)
長崎県	1 (4)	1 (2)	0 (6)	0	3 (6)	6 (18)	10 (17)
熊本県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	6 (18)	6 (24)
大分県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	2 (40)	2 (41)
宮崎県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	4 (33)	4 (33)
鹿児島県	1 (4)	1 (2)	0 (6)	0	0 (21)	5 (22)	6 (24)
沖縄県	0 (18)	0 (16)	0 (6)	0	0 (21)	1 (46)	1 (46)
計	23	16	7	0	46	400	469

注 1：数値横のカッコ内は順位

注 2：都道府県合計には、不明を含む

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2. バスの事故

(1) バスの事故件数、死傷事故件数の推移

平成22年のバスによる事故は、平成18年まで増加傾向にあったが、平成19年以降は減少している。

平成22年は死亡事故件数が前年より増え、重傷事故件数は大きく減少している。

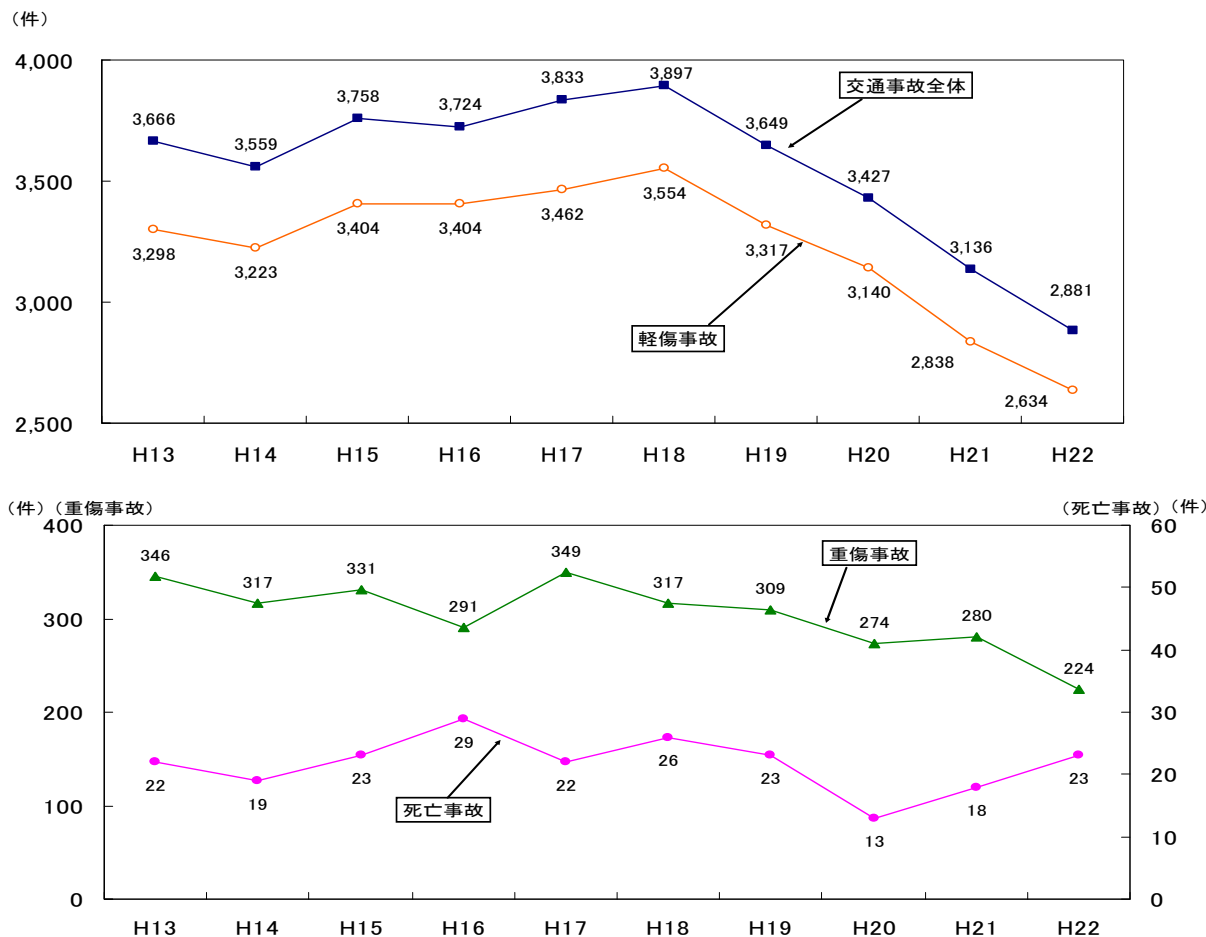


図 20 バスの全事故及び死傷事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 21 バスの事故件数の推移 (件)

区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H13	22	346	3,298	3,666
H14	19	317	3,223	3,559
H15	23	331	3,404	3,758
H16	29	291	3,404	3,724
H17	22	349	3,462	3,833
H18	26	317	3,554	3,897
H19	23	309	3,317	3,649
H20	13	274	3,140	3,427
H21	18	280	2,838	3,136
H22	23	224	2,634	2,881

(バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値を示す。)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) バス事故の死傷者数の推移

バスの事故による、重傷者数は、平成13年の366人から増減を繰り返し、平成17年以降、減少傾向にある。

死者数は、平成20年に大きく減少し年間13人となったが、平成22年は前年より増加し年間23人となっている。

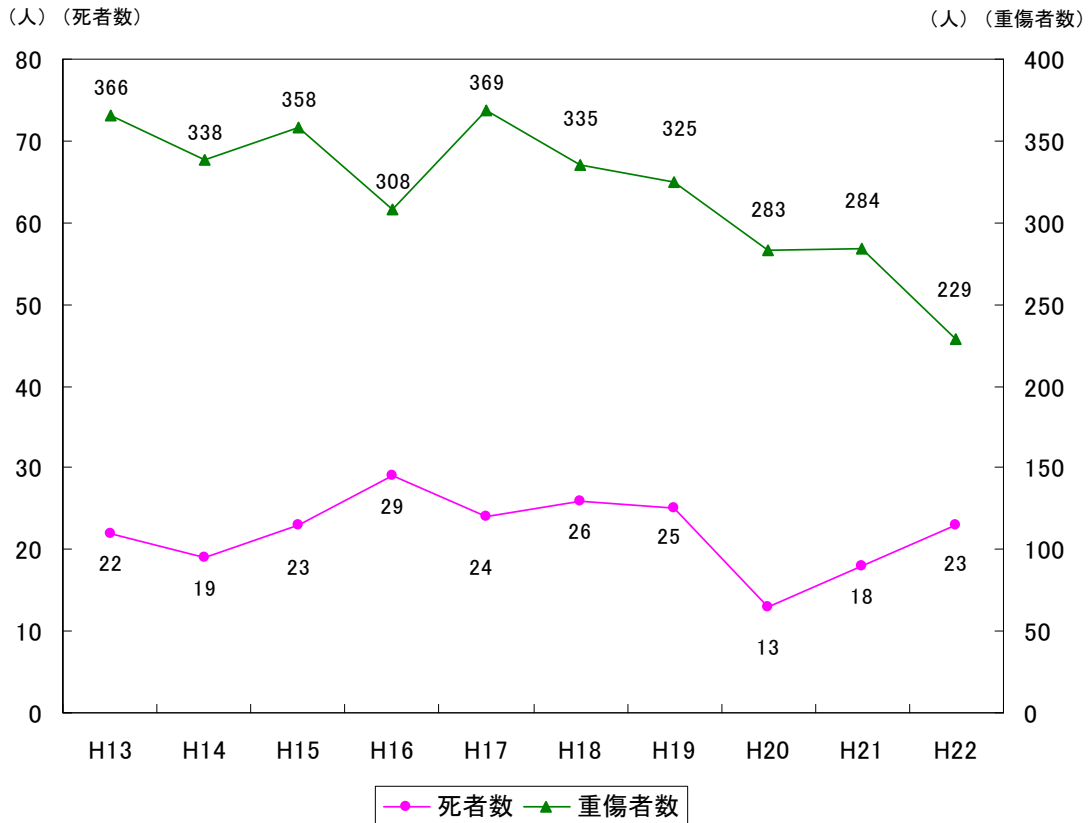


図 21 バス事故の死傷者数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 22 バスの死傷者数の推移(人)

区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H13	22	366	4,477	4,865
H14	19	338	4,176	4,533
H15	23	358	4,353	4,734
H16	29	308	4,306	4,643
H17	24	369	4,411	4,804
H18	26	335	4,693	5,054
H19	25	325	4,255	4,605
H20	13	283	3,950	4,246
H21	18	284	3,514	3,816
H22	23	229	3,299	3,551

(バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値を示す。)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2-1. 乗合バスの事故

(1) 乗合バスの事故件数、死傷事故件数の推移

平成22年の乗合バスによる事故は、平成18年まで増加傾向にあったが平成19年以降は減少している。

平成22年は死亡事故件数が増加し、重傷事故件数は前年より大きく減少している。

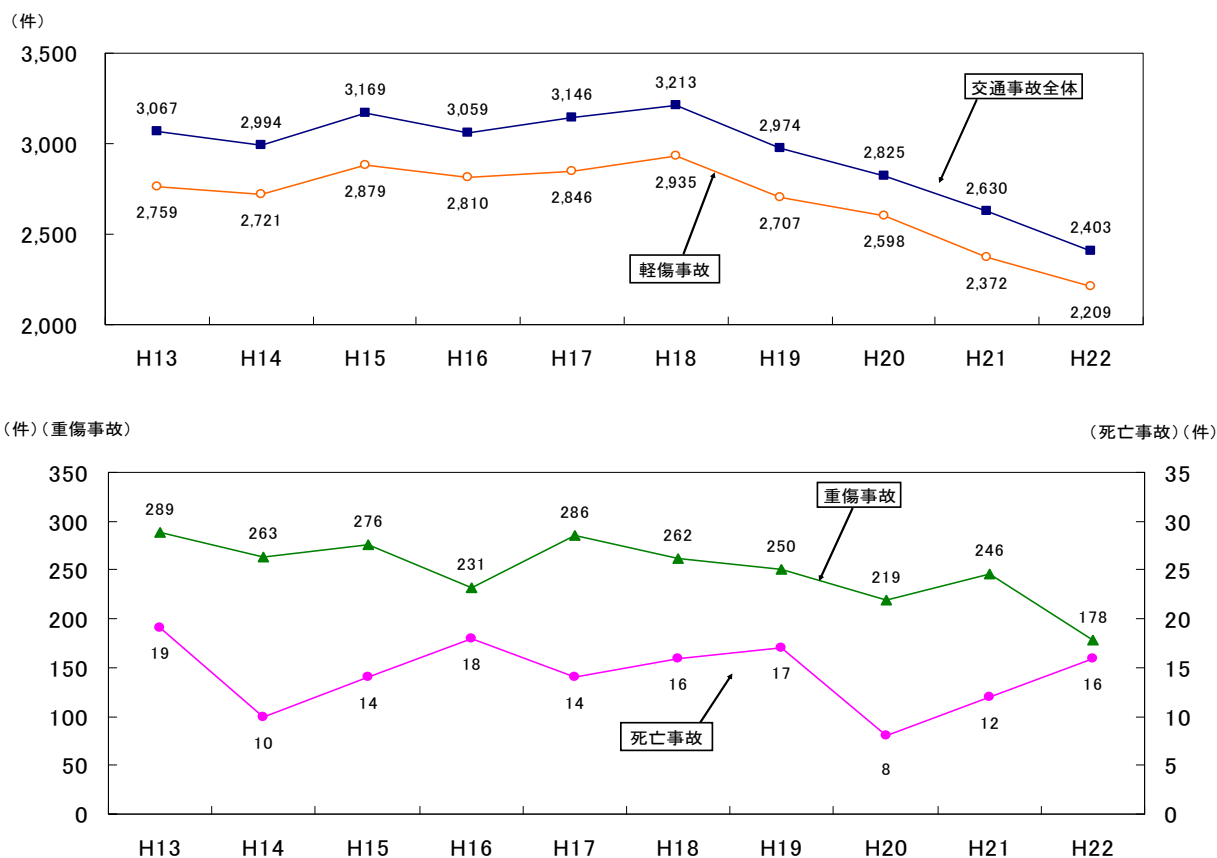


図22 乗合バスの全事故及び死傷事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表23 乗合バスの事故件数の推移 (件)

区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H13	19	289	2,759	3,067
H14	10	263	2,721	2,994
H15	14	276	2,879	3,169
H16	18	231	2,810	3,059
H17	14	286	2,846	3,146
H18	16	262	2,935	3,213
H19	17	250	2,707	2,974
H20	8	219	2,598	2,825
H21	12	246	2,372	2,630
H22	16	178	2,209	2,403

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 乗合バス事故の死傷者数の推移

平成 22 年の乗合バスの事故による死者数は増加し、重傷者数は、前年より大きく減少している。

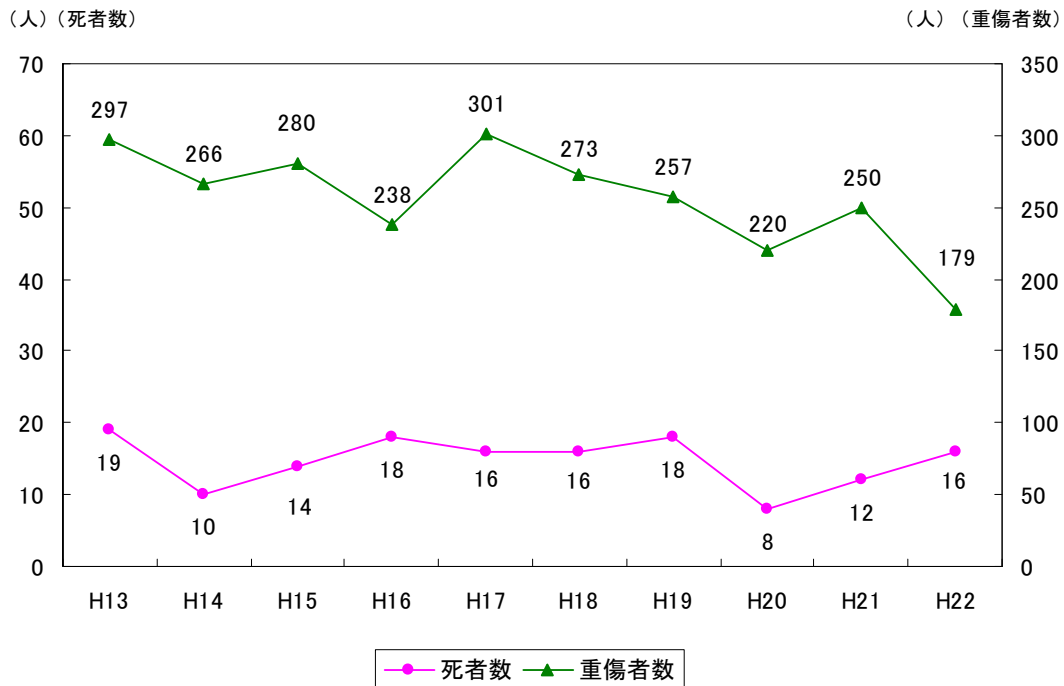


図 23 乗合バス事故の死傷者数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 24 乗合バス事故の死傷者数の推移 (人)

区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H13	19	297	3,330	3,646
H14	10	266	3,332	3,608
H15	14	280	3,390	3,684
H16	18	238	3,284	3,540
H17	16	301	3,417	3,734
H18	16	273	3,559	3,848
H19	18	257	3,187	3,462
H20	8	220	3,042	3,270
H21	12	250	2,818	3,080
H22	16	179	2,653	2,848

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 乗合バスの事故類型別事故件数

乗合バスは単独事故が最も多く、次いで他車との事故が多い。

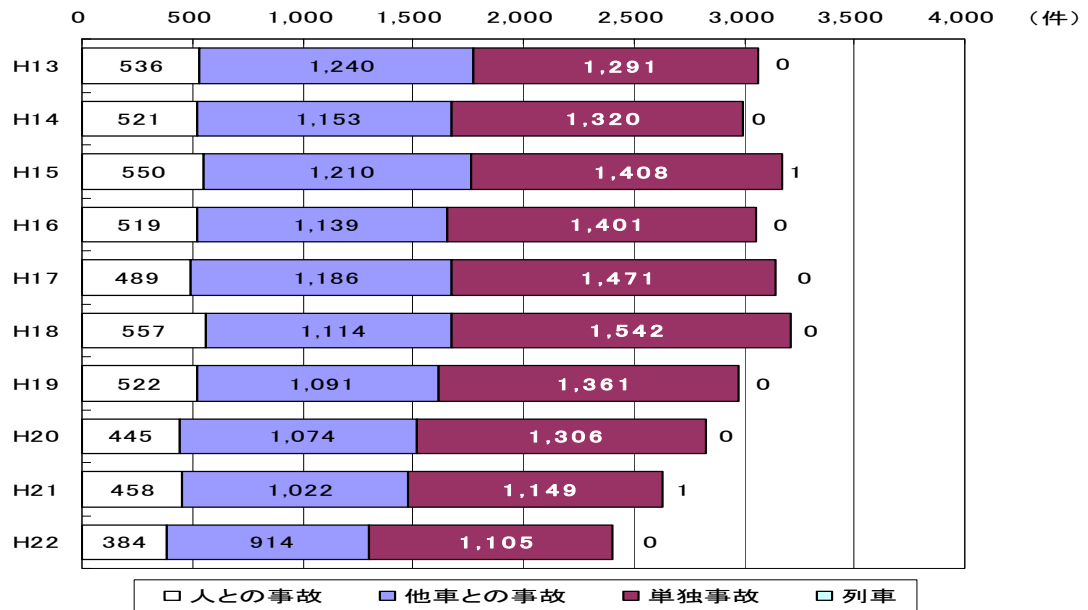


図 24 乗合バスの事故類型別事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

<人の事故>

<他車との事故>

<単独事故>

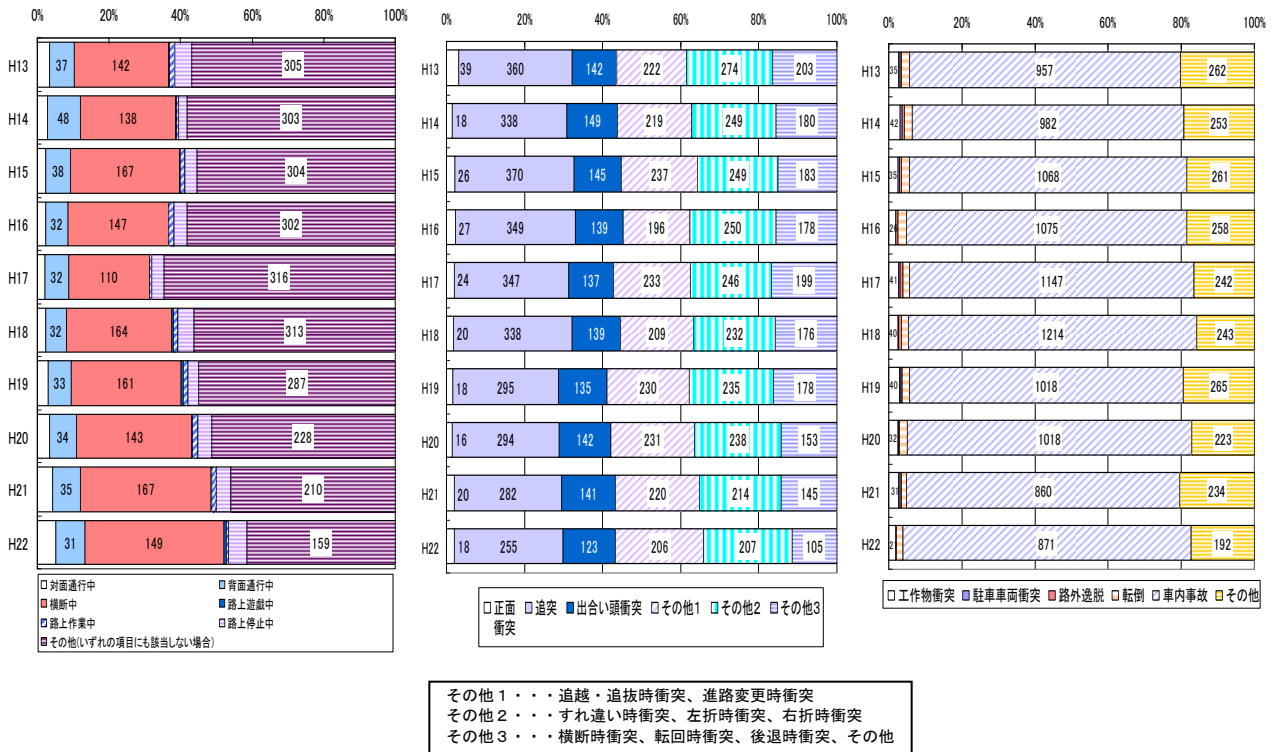


図 25 乗合バスの事故類型別事故件数の内訳

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数

事故類型別死亡事故件数は、人との事故が最も多く、次いで他車との事故が多い。

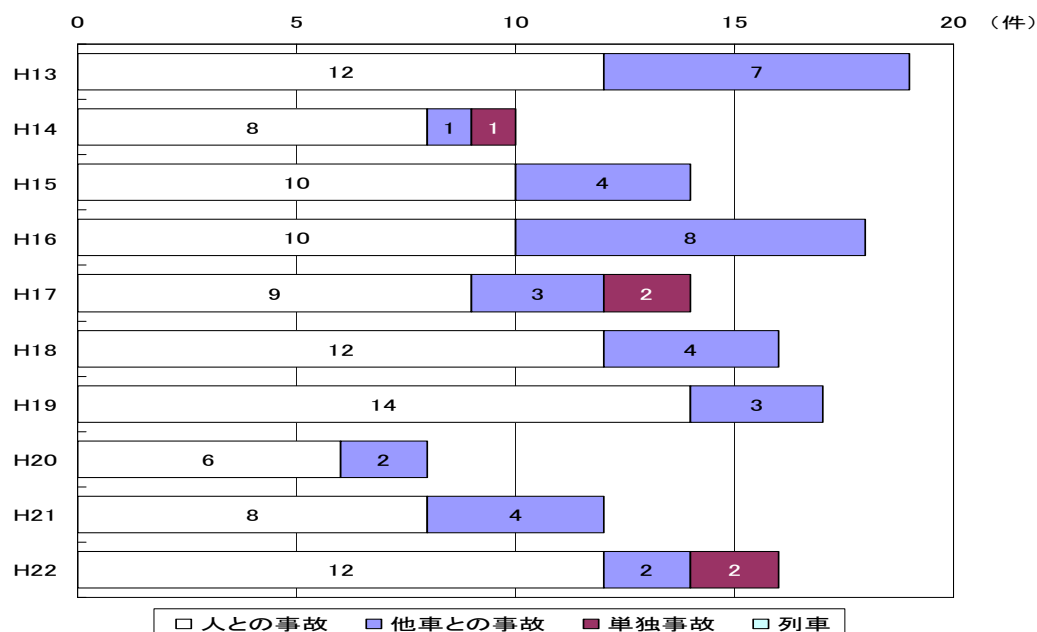


図 26 乗合バスの事故類型別死亡事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（人との事故）

人との死亡事故は、歩行者が横断中に発生する件数が多い。

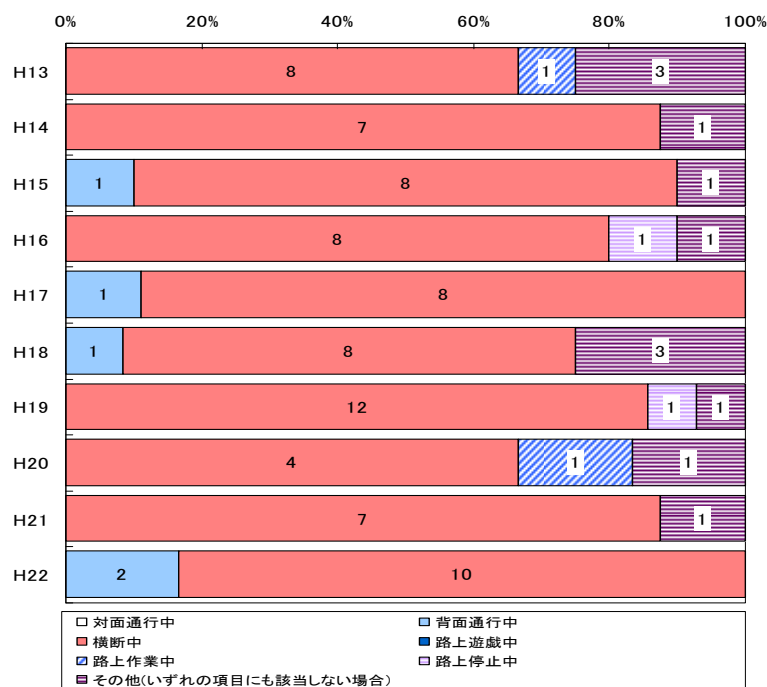


図 27 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（人との事故）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（他車との事故）

他車との事故は、平成 17 年以降は死亡事故件数は 2~4 件にとどまっている。

表 25 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（件）（他車との事故）

区分 年	正面 衝突	追突	出合い頭衝突	その他1	その他2	その他3
H13	1	0	3	2	0	1
H14	0	0	0	0	1	0
H15	0	1	0	0	2	1
H16	0	1	2	1	3	1
H17	0	0	0	0	2	1
H18	0	0	0	1	1	2
H19	0	0	0	1	0	2
H20	0	0	0	1	1	0
H21	0	0	1	2	0	1
H22	0	0	0	1	1	0

その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折時衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) 乗合バスの事故の法令違反別の事故件数の割合

乗合バスでは、「安全不確認」(32%)、「運転操作」(21%)、「動静不注視」(13%)
 といった法令違反の事故が多い。「運転操作」は車内事故発生の要因の一つと考えられ
 る。

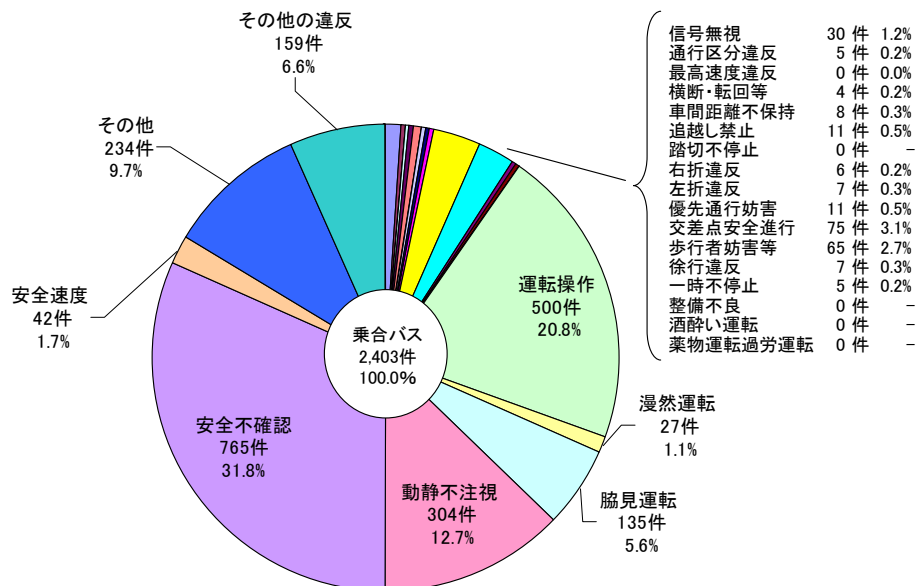


図 28 乗合バスの事故の法令違反別の事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) 行動類型別乗合バスの車内事故件数の推移

乗合バスの車内事故は、平成 18 年度まで増加傾向にあったが、平成 19 年以降は減少しており、平成 22 年は前年と比べて 11 件増加した。

また、平成 22 年に発生した車内事故 871 件のうち、行動類型別にみると、発進時が最も多く 343 件 (39.4%)、平成 20 年に増加したが、以後減少している。

次いで急停止時 134 件 (15.4%)、等速時 123 件 (14.1%)、減速時 111 件 (12.7%) となっている。

表 26 行動類型別乗合バスの車内事故件数の推移 (件)

年 区分	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
発進	342	355	419	427	435	413	348	422	351	343
直進	加速	47	41	49	28	53	64	46	36	27
	等速	145	145	148	132	167	187	156	140	123
	減速	134	161	160	162	159	187	152	133	111
急停止	160	154	159	196	188	223	155	148	131	134
右左折	45	49	45	46	61	43	47	56	37	55
その他	84	77	88	84	84	97	114	83	79	78
合計	957	982	1068	1075	1147	1214	1018	1018	860	871

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

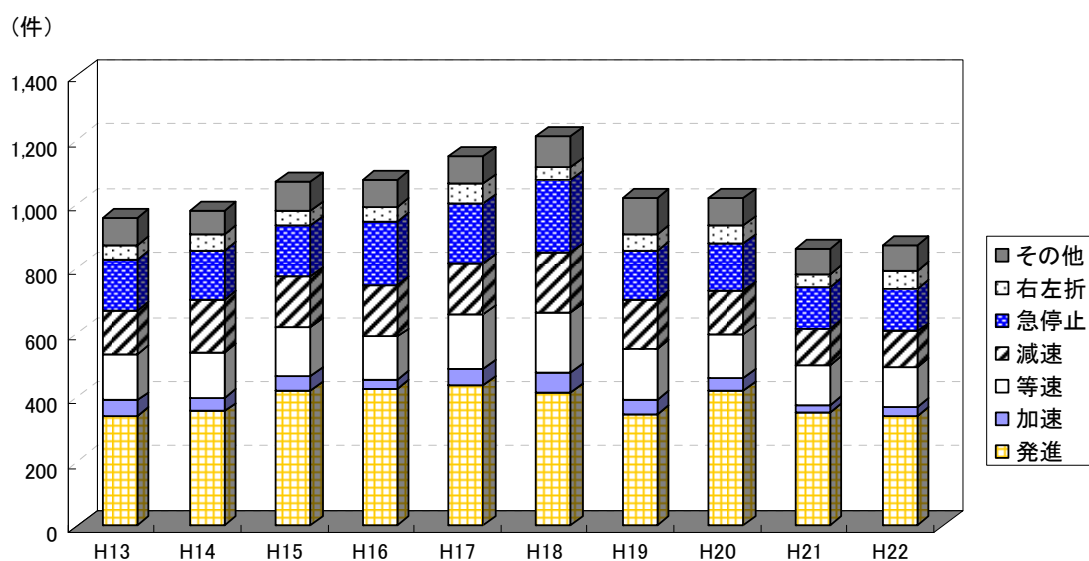


図 29 行動類型別乗合バスの車内事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

乗合バスの車内事故による重傷者数は、平成 17 年を除き、減少傾向にあるが、依然として多くの重傷者が発生している。

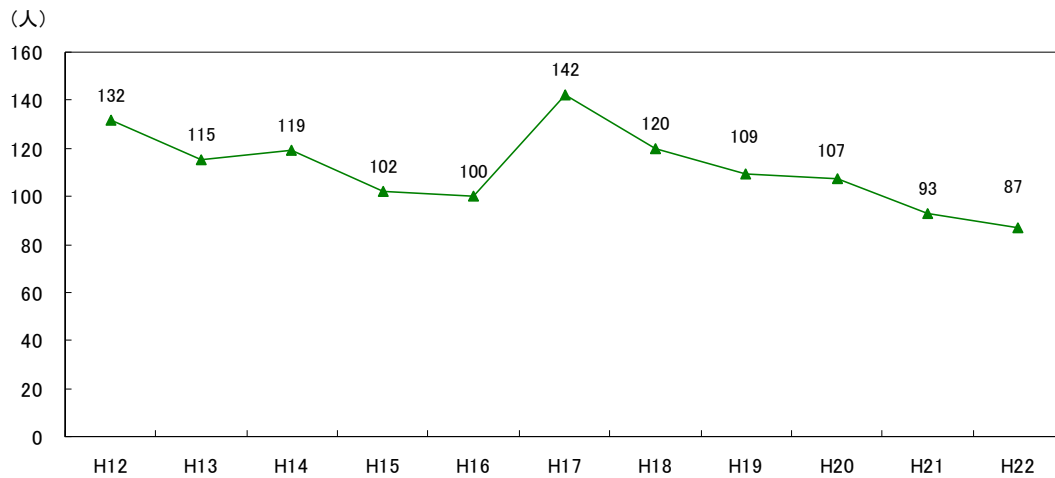


図 30 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) 乗合バスの車内事故による重傷者数の男女別年齢分布

乗合バスの車内事故による重傷者を性・年齢別にみると、女性の 65 歳以上に多く、そのうち 80~84 歳が最も多く 19 人となっている。

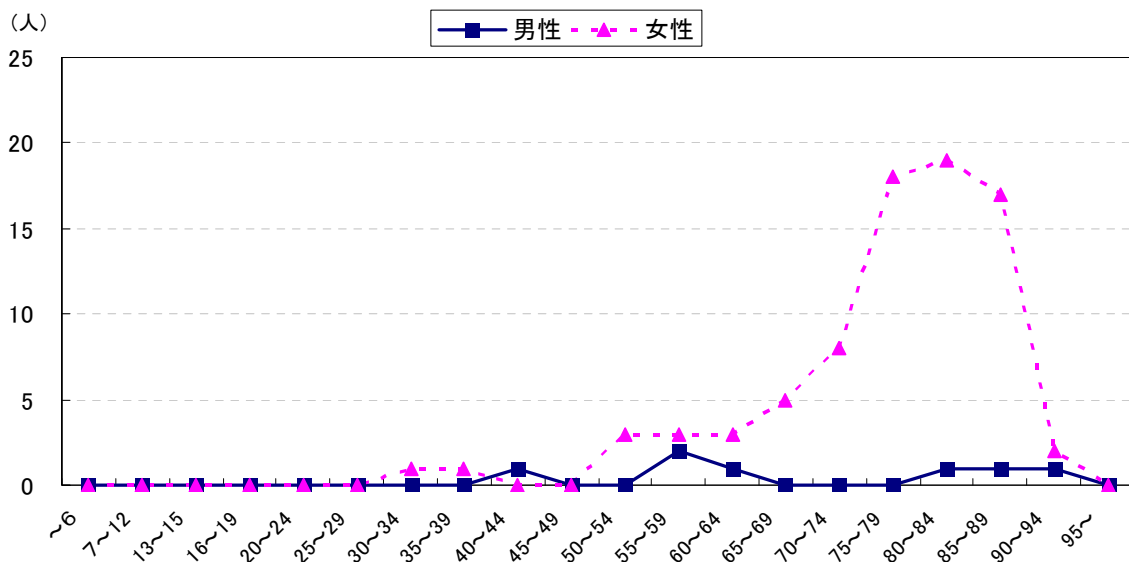


図 31 乗合バスの車内事故による重傷者数の男女別年齢分布 (平成 22 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) 輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり乗合バスの車内事故件数

輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり乗合バスの車内事故件数を見ると、乗合バスの輸送人員は平成 19 年までは微減、走行距離は変化がないことから、車内事故件数と同等の傾向を示している。

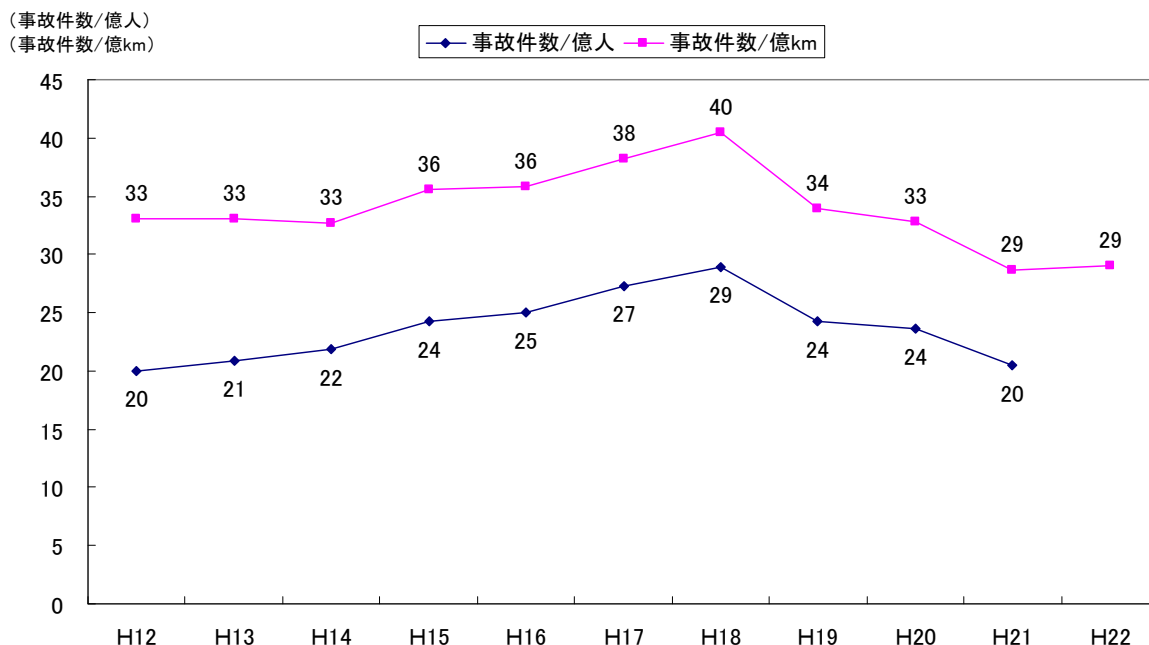


図 32 輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり乗合バスの車内事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」

表 27 乗合バスの車内事故件数、輸送人員及び走行距離の推移

	事故件数(件)	輸送人員(億人)	走行距離(億km)
H12	957	48	29
H13	957	46	29
H14	982	45	30
H15	1,068	44	30
H16	1,075	43	30
H17	1,147	42	30
H18	1,214	42	30
H19	1,018	42	30
H20	1,018	43	31
H21	860	42	30
H22	871	-	30

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」

注：「自動車輸送統計調査」は、平成 22 年 10 月より、調査方法及び集計方法を変更した。

したがって、平成 22 年 9 月以前の統計数値の公表値とは時系列上の連続性が担保されない。そのため、輸送人員については、平成 24 年 3 月現在時点では、平成 22 年の年間値が公表されていない。走行距離については、公表されている接続係数を使って、旧系列と比較可能な数値を作成した。(詳細は表 6 の注を参照)

(12) 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布

乗合バスの車内事故を時間帯別にみると、8時～17時台の日中の時間帯に特に多く発生している。

表 28 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布（平成 22 年）

時間帯	重傷事故	軽傷事故	負傷事故計
6～7	0	32	32
8～9	16	127	143
10～11	21	141	162
12～13	16	118	134
14～15	8	132	140
16～17	16	120	136
18～19	6	77	83
20～21	3	32	35
22～23	0	6	6
24～1	0	0	0
2～3	0	0	0
4～5	0	0	0
合計	86	785	871

※運転者が負傷した事故を含む。

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

乗合バスの車内事故は、8時～17時台の日中の時間帯に特に多く発生し、重傷事故でこの傾向は顕著である。

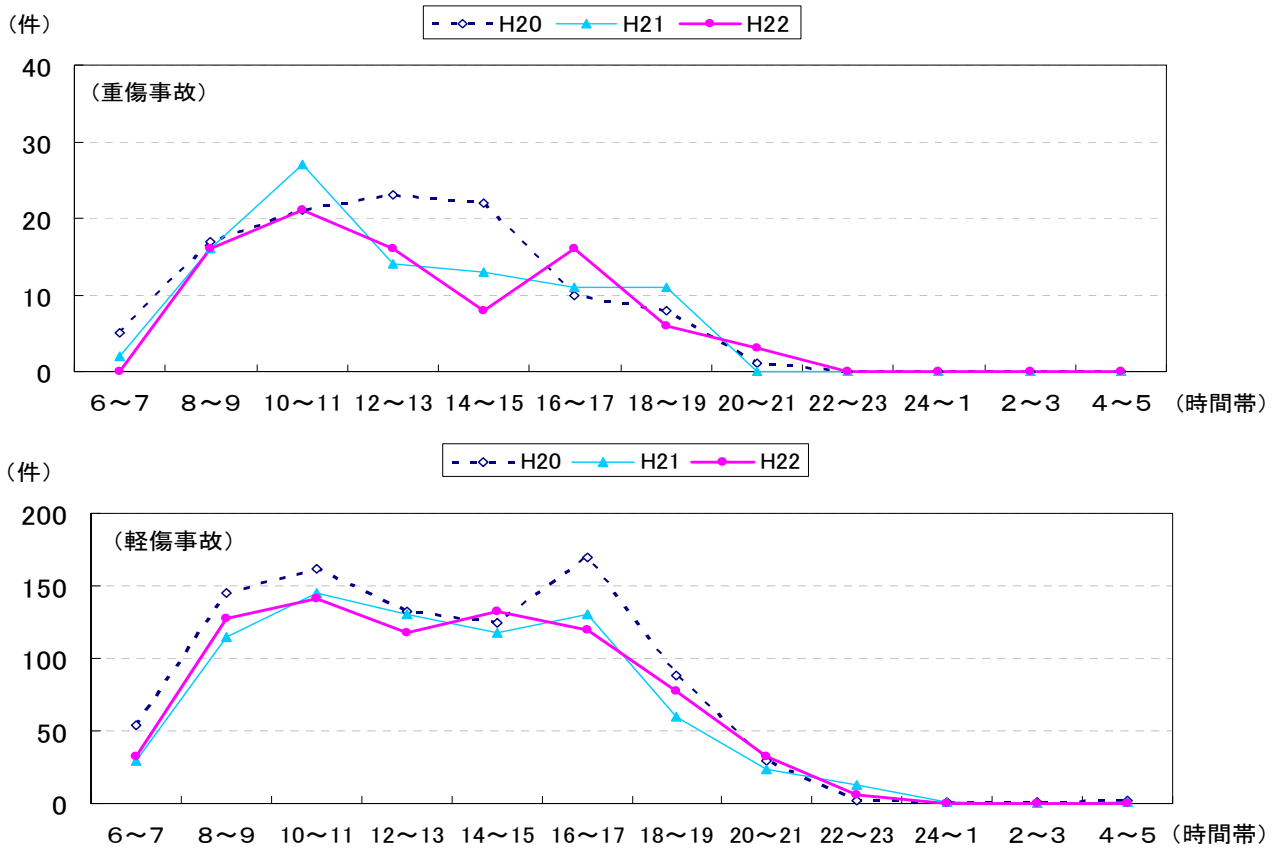


図 33 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(13) 乗合バスの車内事故による事故種別別負傷者数の年齢分布

乗合バスの車内事故による負傷者を年齢層別にみると 75～79 歳が最も多く、かつ、65 歳以上が 547 人 (56.6%) と高齢者が過半数を占めている。

さらに、重傷者では、65 歳以上が 87 人中 72 人 (82.8%) と高齢者の占める割合が顕著となっている。

表 29 乗合バスの車内事故による事故種別別負傷者数の年齢分布 (人) (平成 22 年)

年齢層	重傷者数	軽傷者数	負傷者計
～6	0	14	14
7～12	0	10	10
13～15	0	7	7
16～19	0	11	11
20～24	0	12	12
25～29	0	22	22
30～34	1	32	33
35～39	1	46	47
40～44	1	42	43
45～49	0	38	38
50～54	3	54	57
55～59	5	46	51
60～64	4	71	75
65～69	5	75	80
70～74	8	111	119
75～79	18	145	163
80～84	20	90	110
85～89	18	44	62
90～94	3	10	13
95～	0	0	0
合計	87	880	967

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

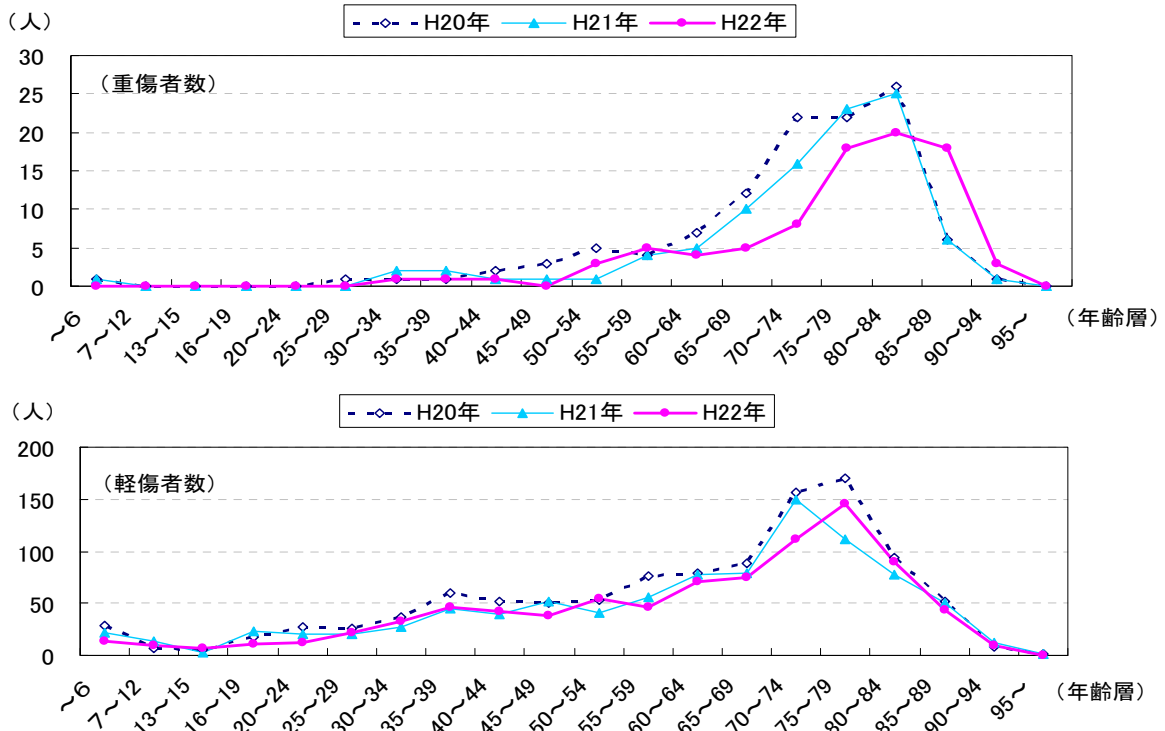


図 34 乗合バスの車内事故による事故種別別負傷者数の年齢分布

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

乗合バスの車内事故による負傷者を男女年齢層別に見ると男性は75～79歳が最も多く、かつ65歳以上が70人(39.3%)と高齢者が4割弱を占めている。

また、女性も75～79歳が最も多く(うち重傷者は18人)、かつ65歳以上が477人(60.5%)と高齢者が過半数を占めている。

さらに、男性と女性を比べてみると、女性が男性の4.43倍となっている。

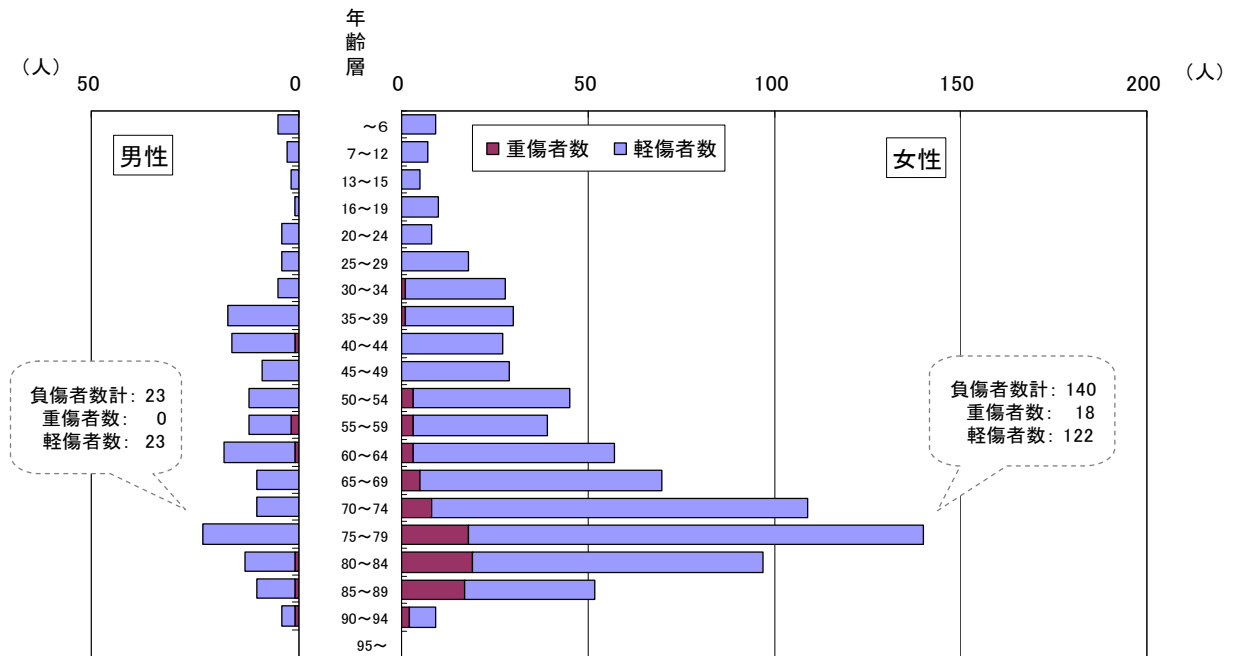


図 35 乗合バスの車内事故による男女別年齢層別負傷者数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2-2. 貸切バスの事故

(1) 貸切バスの事故件数、死傷事故件数の推移

平成22年の貸切バス事業者による事故は、死亡、重傷事故において増加している。

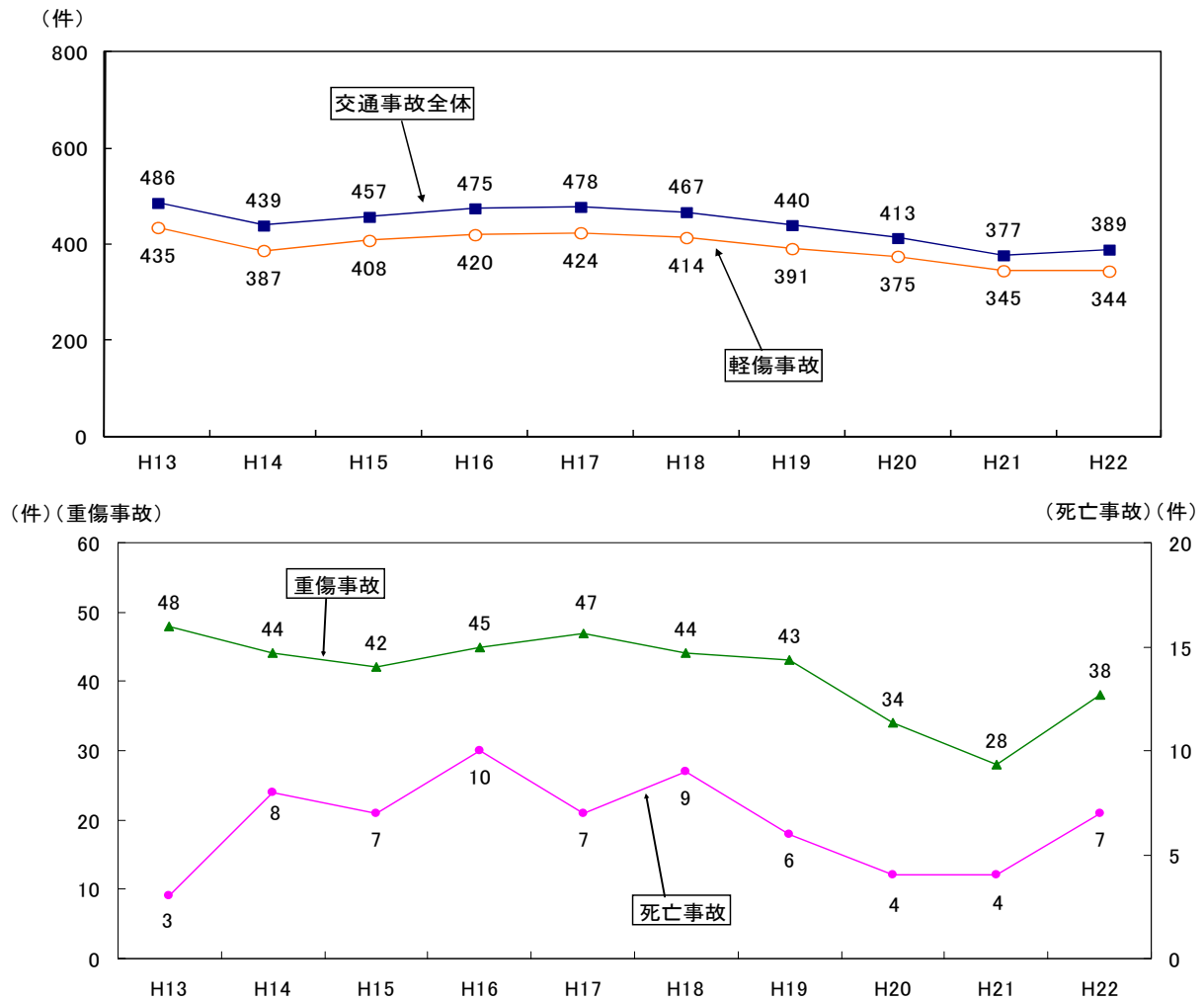


図 36 貸切バスの全事故及び死傷事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 30 貸切バスの事故件数の推移 (件)

区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H13	3	48	435	486
H14	8	44	387	439
H15	7	42	408	457
H16	10	45	420	475
H17	7	47	424	478
H18	9	44	414	467
H19	6	43	391	440
H20	4	34	375	413
H21	4	28	345	377
H22	7	38	344	389

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 貸切バス事故の死傷者数の推移

貸切バスの重傷事故は、平成 22 年に大きく増加している。

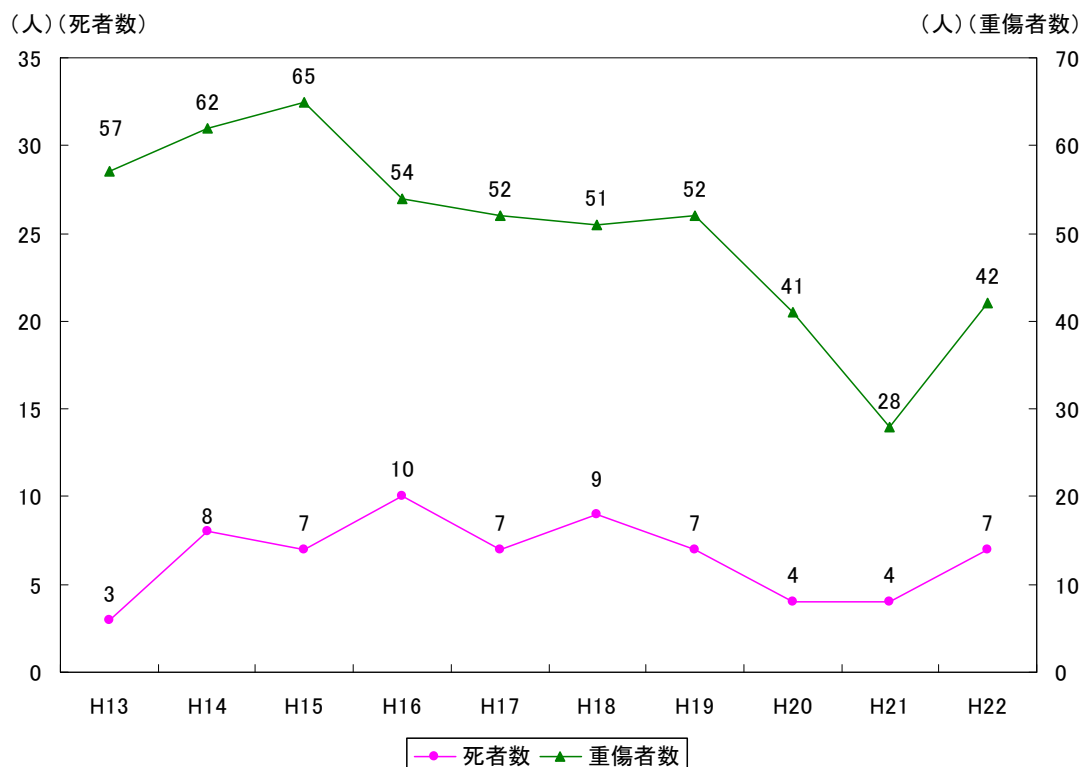


図 37 貸切バス事故の死傷者数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 31 貸切バス事故の死傷者数の推移 (人)

区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H13	3	57	943	1003
H14	8	62	700	770
H15	7	65	821	893
H16	10	54	802	866
H17	7	52	770	829
H18	9	51	852	912
H19	7	52	798	857
H20	4	41	698	743
H21	4	28	545	577
H22	7	42	554	603

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 貸切バスの事故類型別事故件数

貸切バスは他車との事故が他の事故と比べ圧倒的に多い。

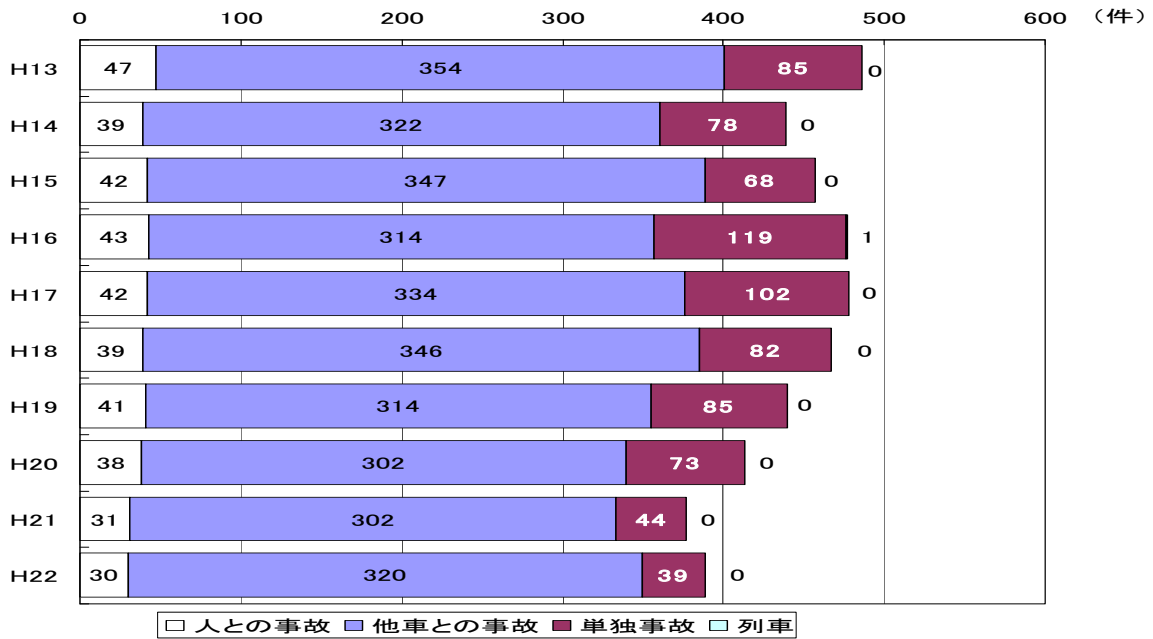


図 38 貸切バスの事故類型別事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

<人との事故>

<他車との事故>

<単独事故>

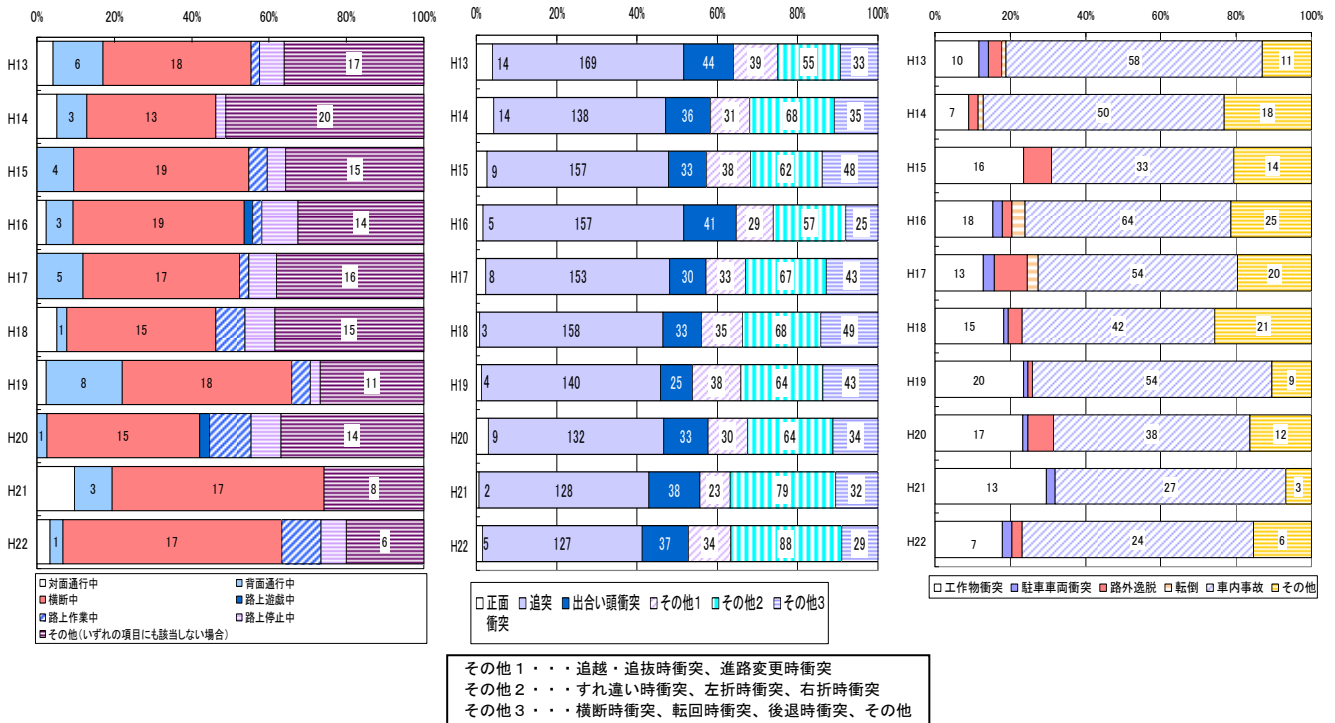


図 39 貸切バスの事故類型別事故件数の内訳

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) 貸切バスの事故類型別死亡事故件数

事故類型別死亡事故件数は、他車との事故の方が人との事故よりも若干多い。

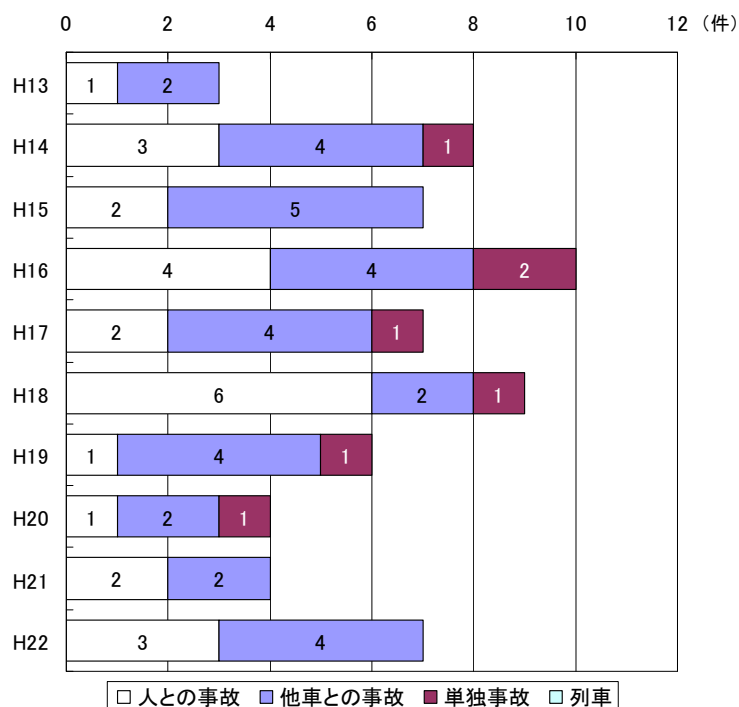


図 40 貸切バスの事故類型別死亡事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の内訳 (他車との事故)

他車との事故は、平成 16 年以降は死亡事故件数は 2~4 件にとどまっている。

表 32 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の内訳 (件) (他車との事故)

年	区分	正面衝突	追突	出会い頭衝突	その他1	その他2	その他3
H13		0	0	0	1	0	1
H14		0	1	2	0	1	0
H15		0	1	1	0	2	1
H16		0	0	1	0	2	1
H17		1	1	1	1	0	0
H18		1	0	0	0	0	1
H19		0	1	1	2	0	0
H20		1	0	0	0	1	0
H21		0	0	1	0	1	0
H22		1	0	2	1	0	0

その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折時衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) 貸切バスの事故の法令違反別の事故件数の割合

貸切バスでは、「安全不確認」(29.3%)、「動静不注視」(17.7%)、「脇見運転」(12.3%)
といった法令違反の事故が多い。

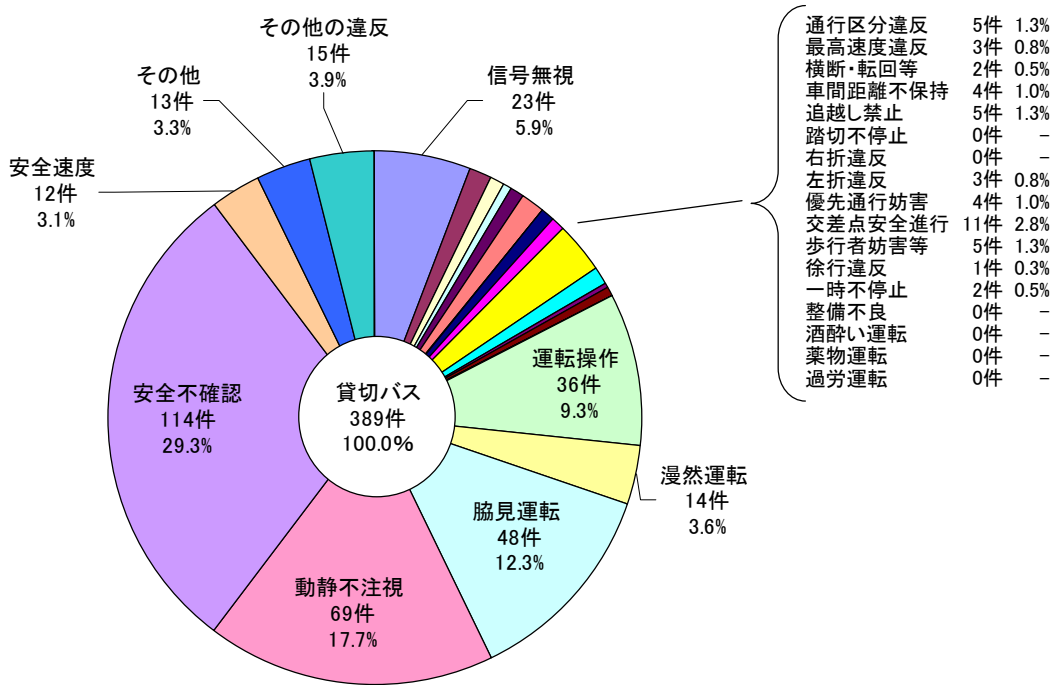


図 41 貸切バスの事故の法令違反別の事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) 貸切バスの危険認知速度別の事故件数

平成22年の貸切バスの危険認知速度別の事故件数は10km/h以下で131件と最も多く発生している。次いで20km/h以下で64件、40km/h以下で53件発生している。

死亡事故は、40～60 km/h以下で4件発生している。

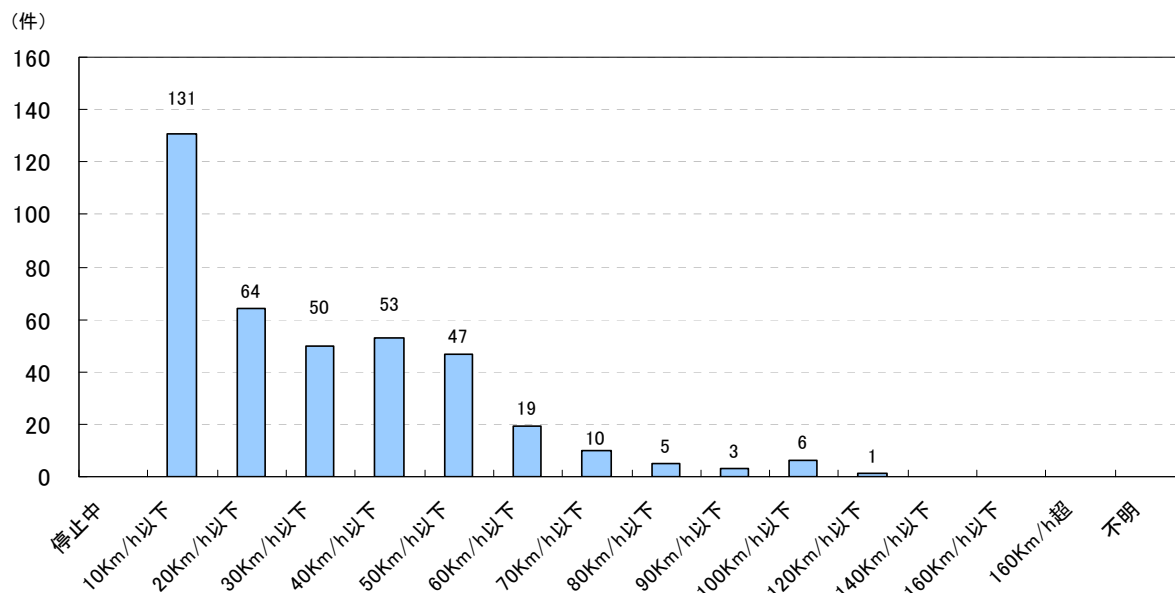


図42 貸切バスの危険認知速度別の事故件数 (平成22年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

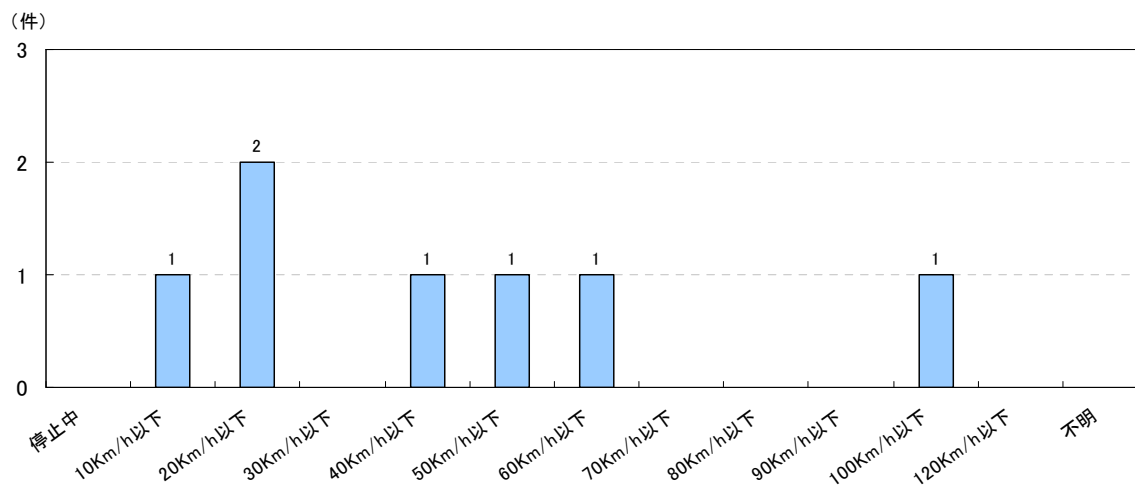


図43 貸切バスの危険認知速度別の死亡事故件数 (平成22年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

3. タクシーの事故

(1) タクシーの事故件数、死傷事故件数の推移

タクシー事故件数は、平成 17 年まで増加傾向にあったが、平成 18 年以降は減少している。また、死亡事故件数については、増減はあるものの、平成 18 年以降は概ね 50 件以下で推移している。

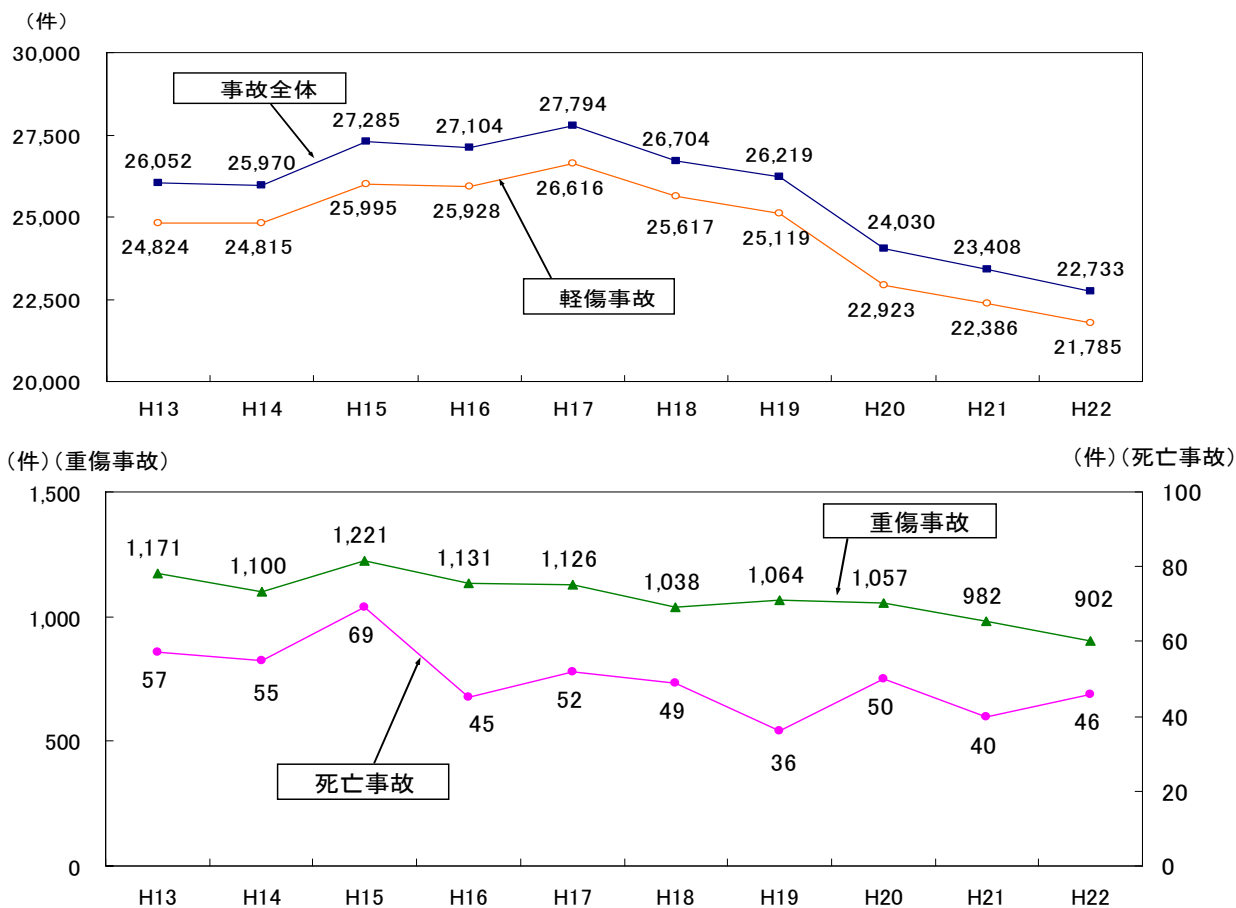


図 44 タクシーの全事故及び死傷事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 33 タクシーの事故件数の推移 (件)

区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H13	57	1,171	24,824	26,052
H14	55	1,100	24,815	25,970
H15	69	1,221	25,995	27,285
H16	45	1,131	25,928	27,104
H17	52	1,126	26,616	27,794
H18	49	1,038	25,617	26,704
H19	36	1,064	25,119	26,219
H20	50	1,057	22,923	24,030
H21	40	982	22,386	23,408
H22	46	902	21,785	22,733

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) タクシー事故の死傷者数の推移

タクシーの事故における重傷者数は平成 22 年では 923 人に減少し、死者数は逆に 46 人に増加している。

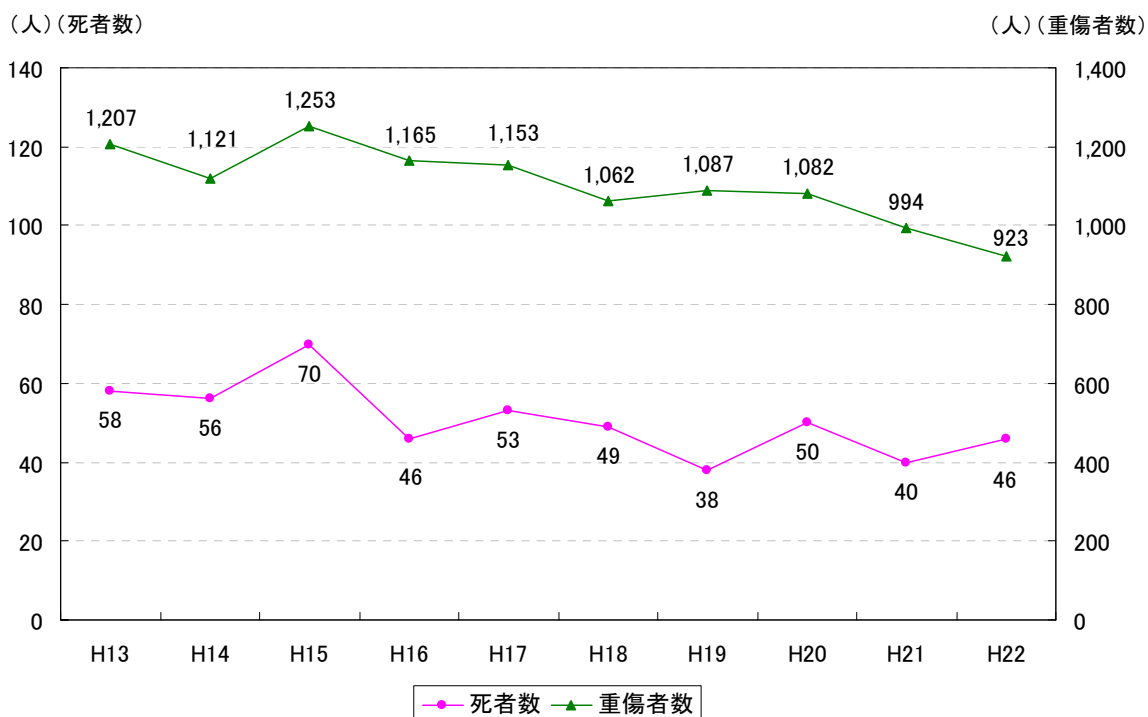


図 45 タクシー事故の死傷者数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 34 タクシー事故の死傷者数の推移 (人)

区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H13	58	1,207	29,255	30,520
H14	56	1,121	29,396	30,573
H15	70	1,253	30,627	31,950
H16	46	1,165	30,482	31,693
H17	53	1,153	31,161	32,367
H18	49	1,062	29,986	31,097
H19	38	1,087	29,813	30,938
H20	50	1,082	26,897	28,029
H21	40	994	25,963	26,997
H22	46	923	25,314	26,283

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) タクシーの行動類型別事故件数の割合

タクシーの行動類型別事故件数は、等速（直進）6,413件（28.2%）が最も多く、次いで右折3,614件（15.9%）である。

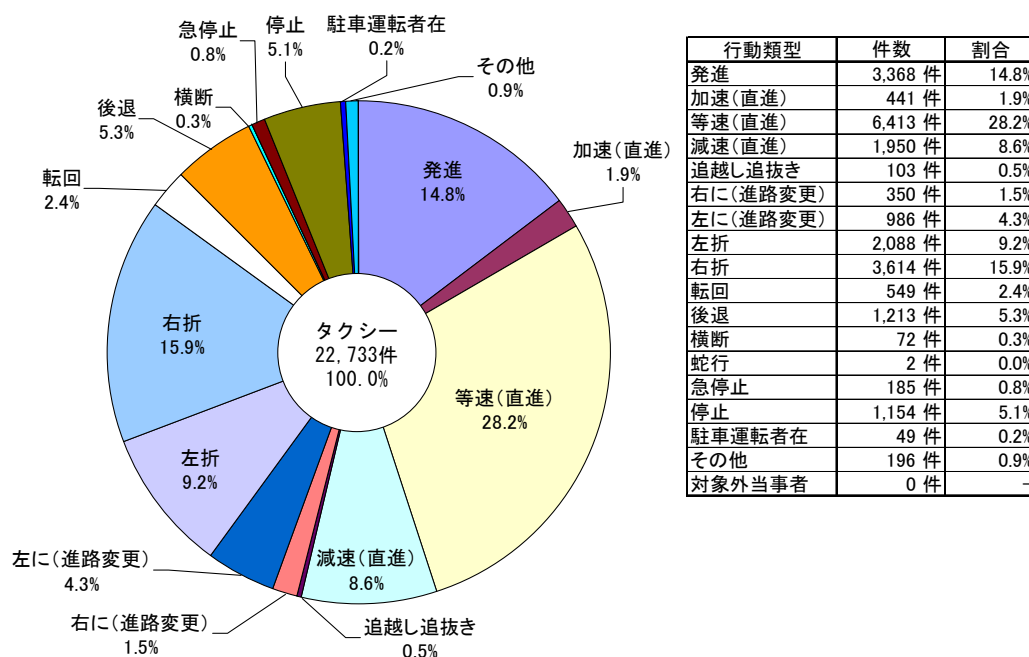


図 46 タクシーの行動類型別事故件数の割合（平成 22 年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) タクシーの行動類型別死亡事故件数の割合

タクシーの行動類型別死亡事故件数は、等速（直進）32件（69.6%）が最も多く、次いで右折8件（17.4%）である。

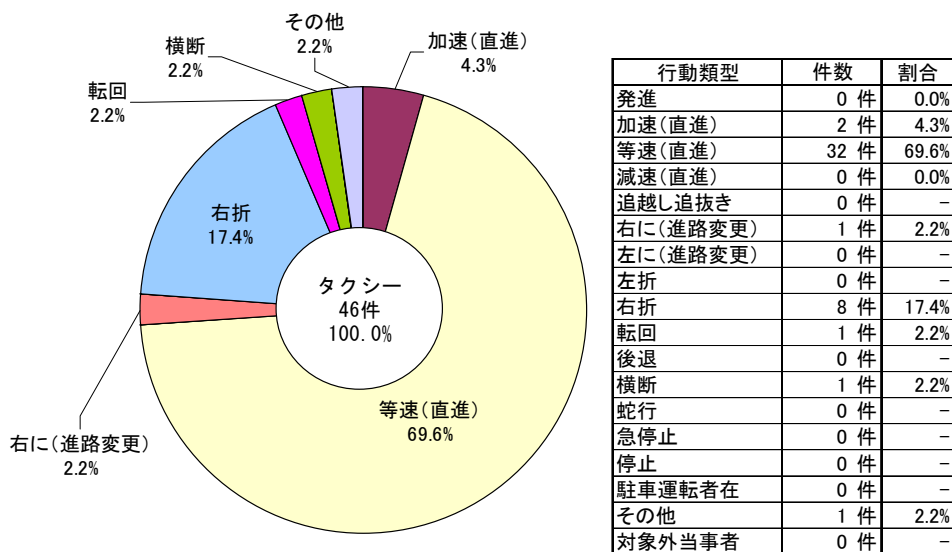


図 47 タクシーの行動類型別死亡事故件数の割合（平成 22 年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) タクシーの事故類型別事故件数の割合

平成 22 年のタクシーの事故は、他車との事故が 18,353 件で約 8 割を占めており、そのうち出会い頭衝突が 5,501 件と最も多く発生している。



図 48 タクシーの事故類型別事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

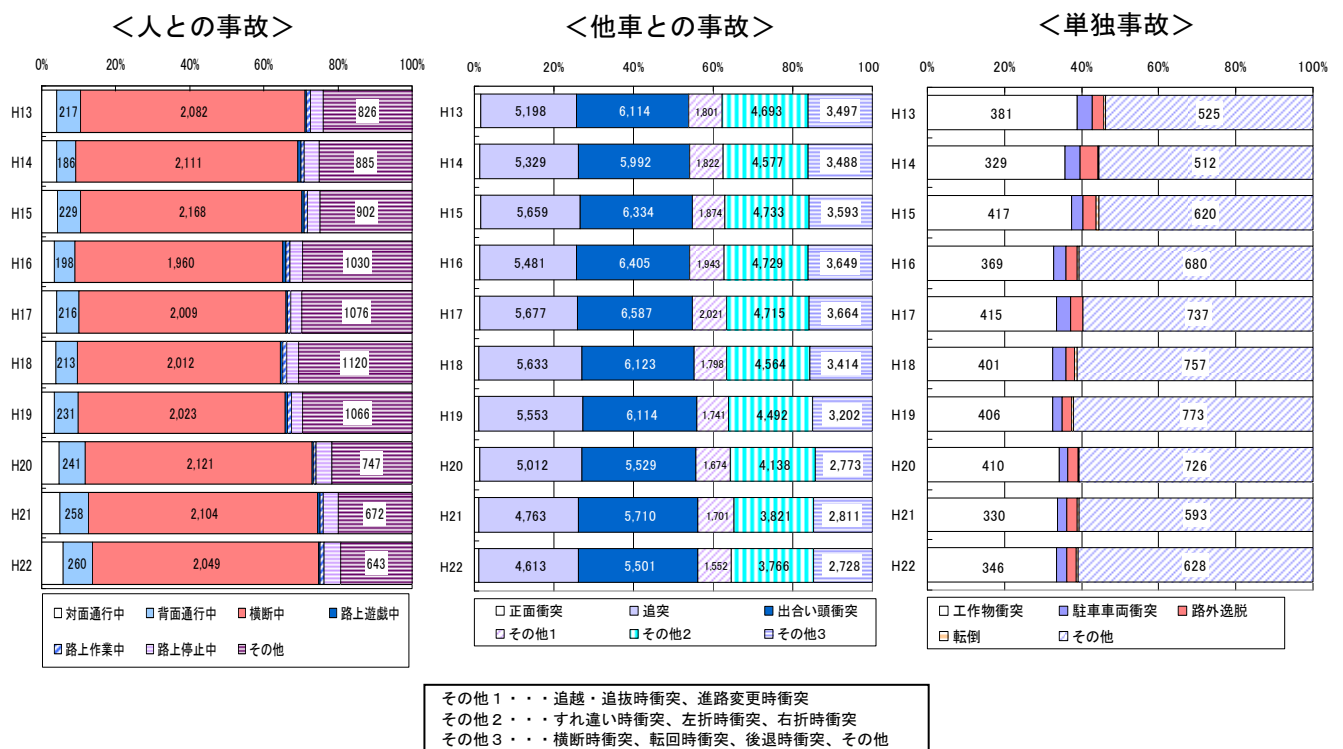


図 49 タクシーの事故類型別事故件数の内訳

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) タクシーの事故類型別死亡事故件数の割合

平成 22 年のタクシーの死亡事故は、人との事故が 26 件で 56.5%を占めており、そのうち横断中の事故が 12 件と最も多く発生している。

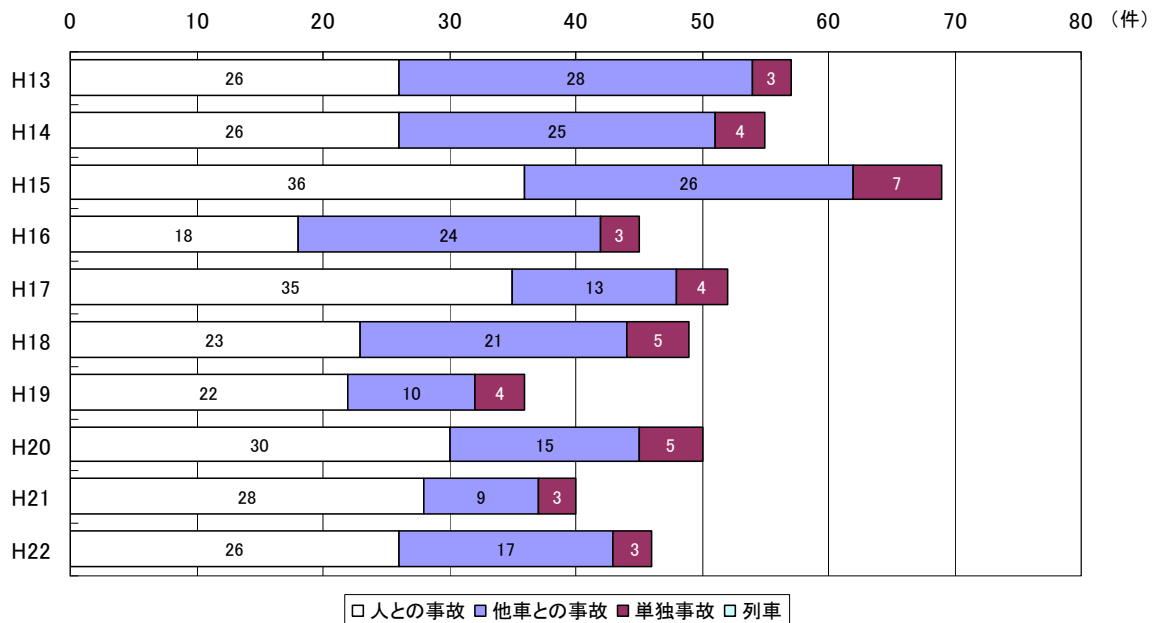


図 50 タクシーの事故類型別死亡事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

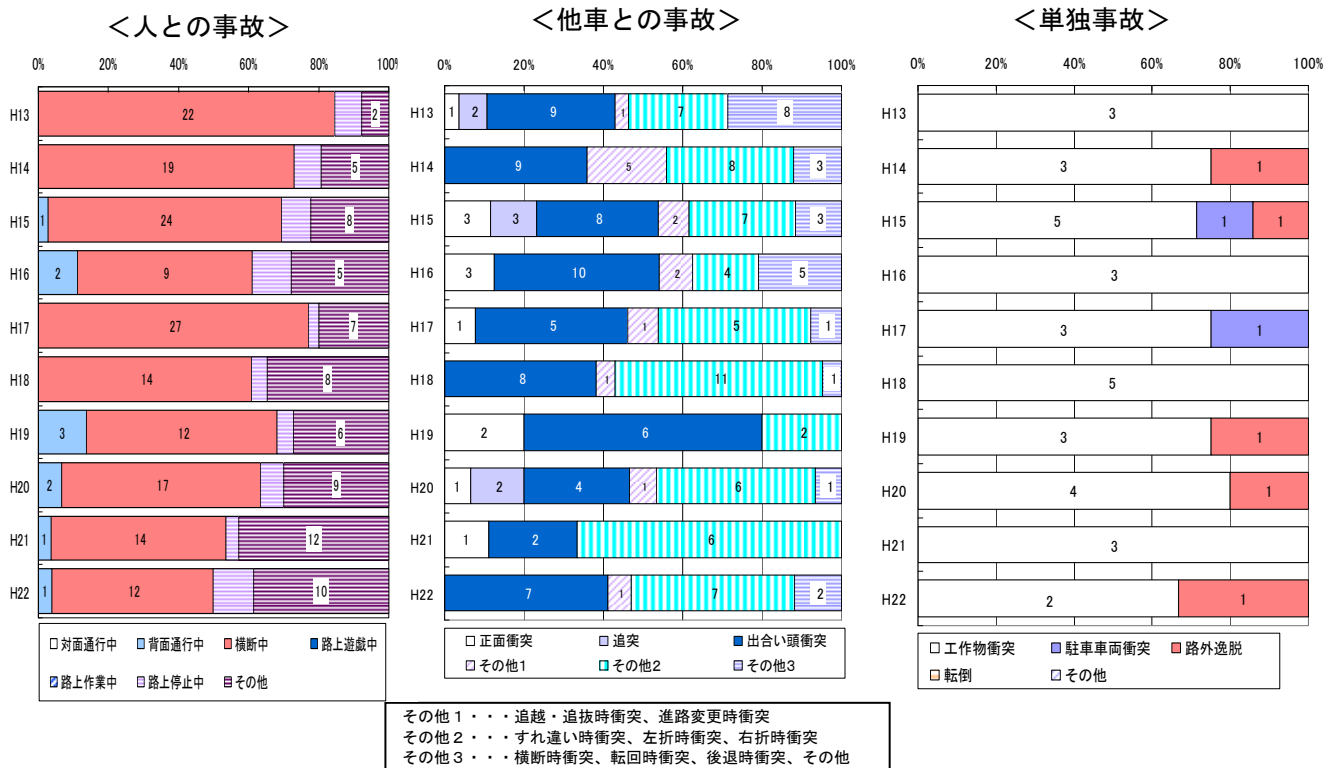


図 51 タクシーの事故類型別死亡事故件数の内訳

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) タクシーの法令違反別の事故件数の割合

法令違反別件数をみると、交通事故全体では「安全不確認」が 9,634 件 (42.4%) と最も多く、次いで「脇見運転」は 10.6%、「動静不注視」は 8.3%、「交差点安全進行」は 8.7%と続く。

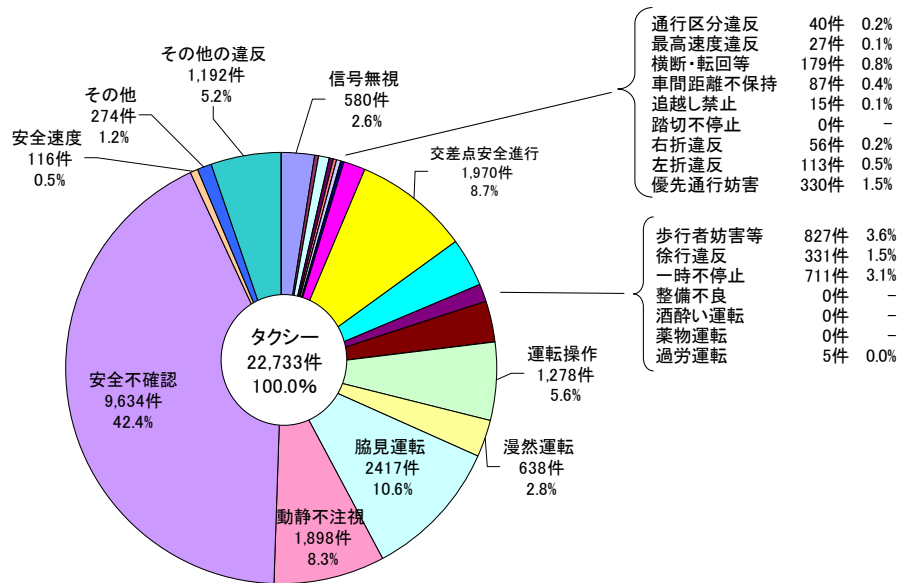


図 52 タクシーの法令違反別事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) タクシーの法令違反別の死亡事故件数の割合

法令違反別死亡事故件数をみると、「脇見運転」が 17.4%と最も多く、次いで「漫然運転」は 15.2%、「安全不確認」は 13.0%と続く。

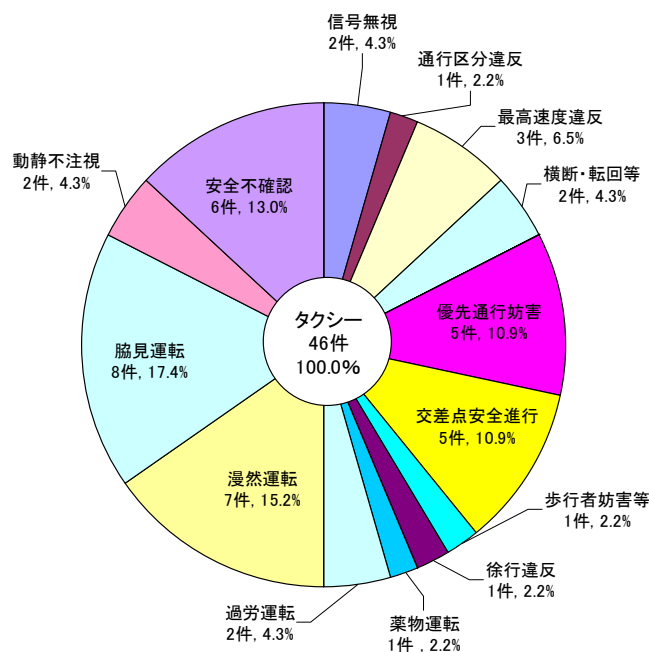


図 53 タクシーの法令違反別死亡事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) タクシーの走行距離 1 億キロあたりの事故件数 (空車キロ、実車キロ)

タクシーの走行距離 1 億キロあたりの事故件数 (空車キロ、実車キロ) は、空車時が実車時と比べて約 3 倍発生しており、平成 21 年は 1 億キロあたり 251 件である。

(空車時事故件数/億km)
(実車時事故件数/億km)

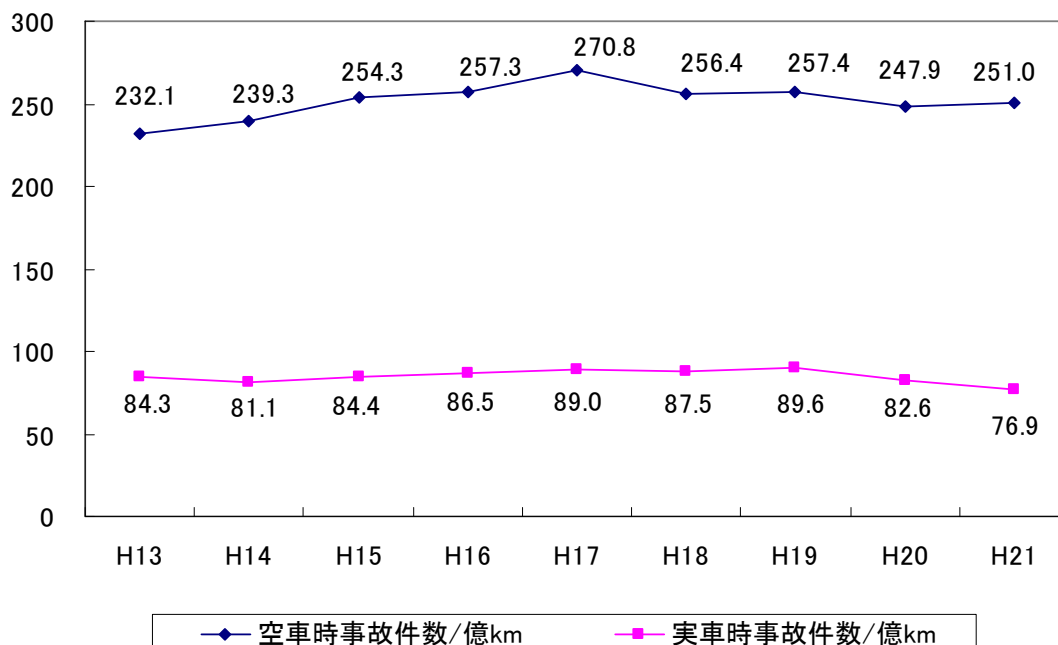


図 54 タクシーの走行距離 1 億キロあたりの事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」

- 注：1. () 内の数字は空車時と実写時を合わせた事故件数，単位は件
2. 「自動車輸送統計調査」は、平成 22 年 10 月より、調査方法及び集計方法を変更した。したがって、平成 22 年 9 月以前の統計数値の公表値とは時系列上の連続性が担保されない。そのため、空車時走行距離、実車時走行距離については、平成 24 年 3 月現在時点では、平成 22 年の年間値が公表されていない。

(10) タクシーの事故の相手方の割合

実車時は、平成 21 年までは空車時に比べて単独の事故が圧倒的に多かったが、平成 22 年は実車時の単独事故が 7.1%と大きく減少したため、差は小さくなっている。

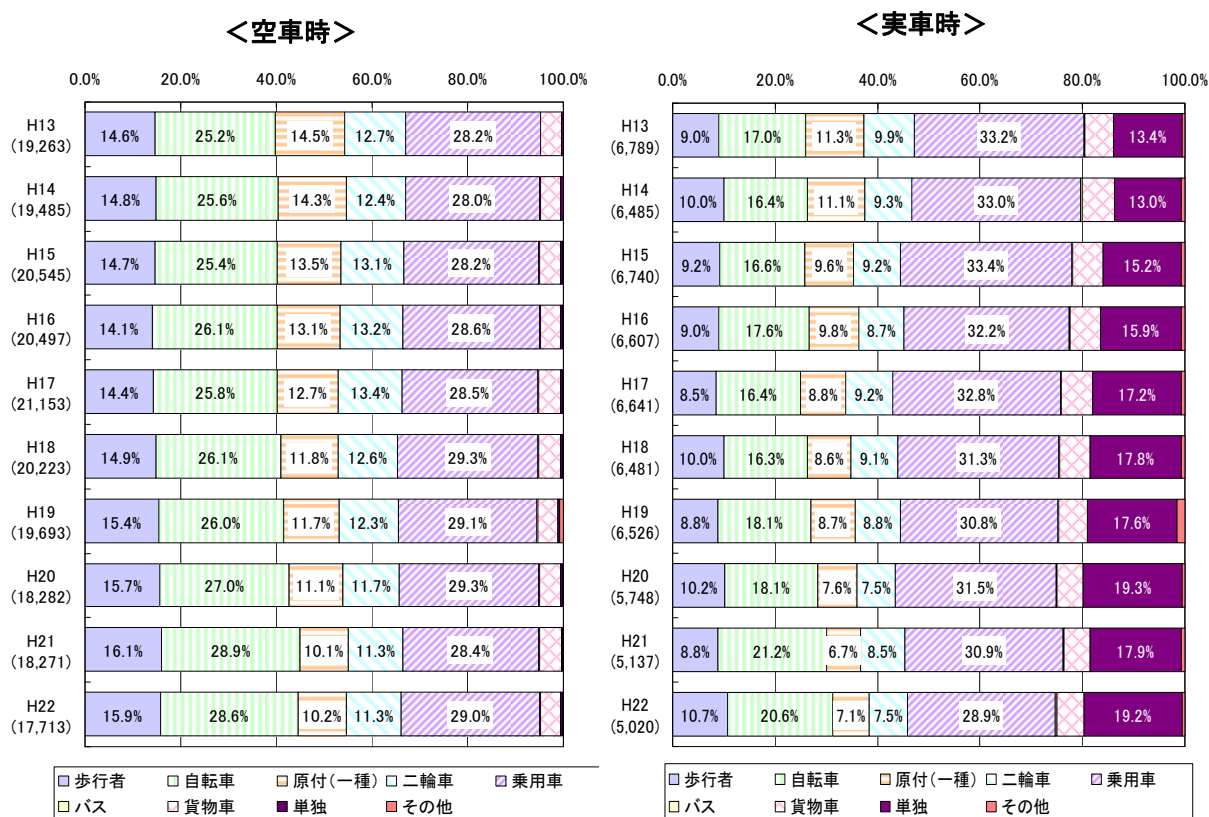


図 55 タクシーの事故の相手方の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

4. トラックの事故

(1) トラックの事故件数、死亡事故件数の推移

平成 22 年の事故件数は 25,447 件（対前年比 1.8%増）、トラックによる事故件数、死亡、軽傷事故件数は前年に比べ増加し、死亡事故件数は 400 件となっている。

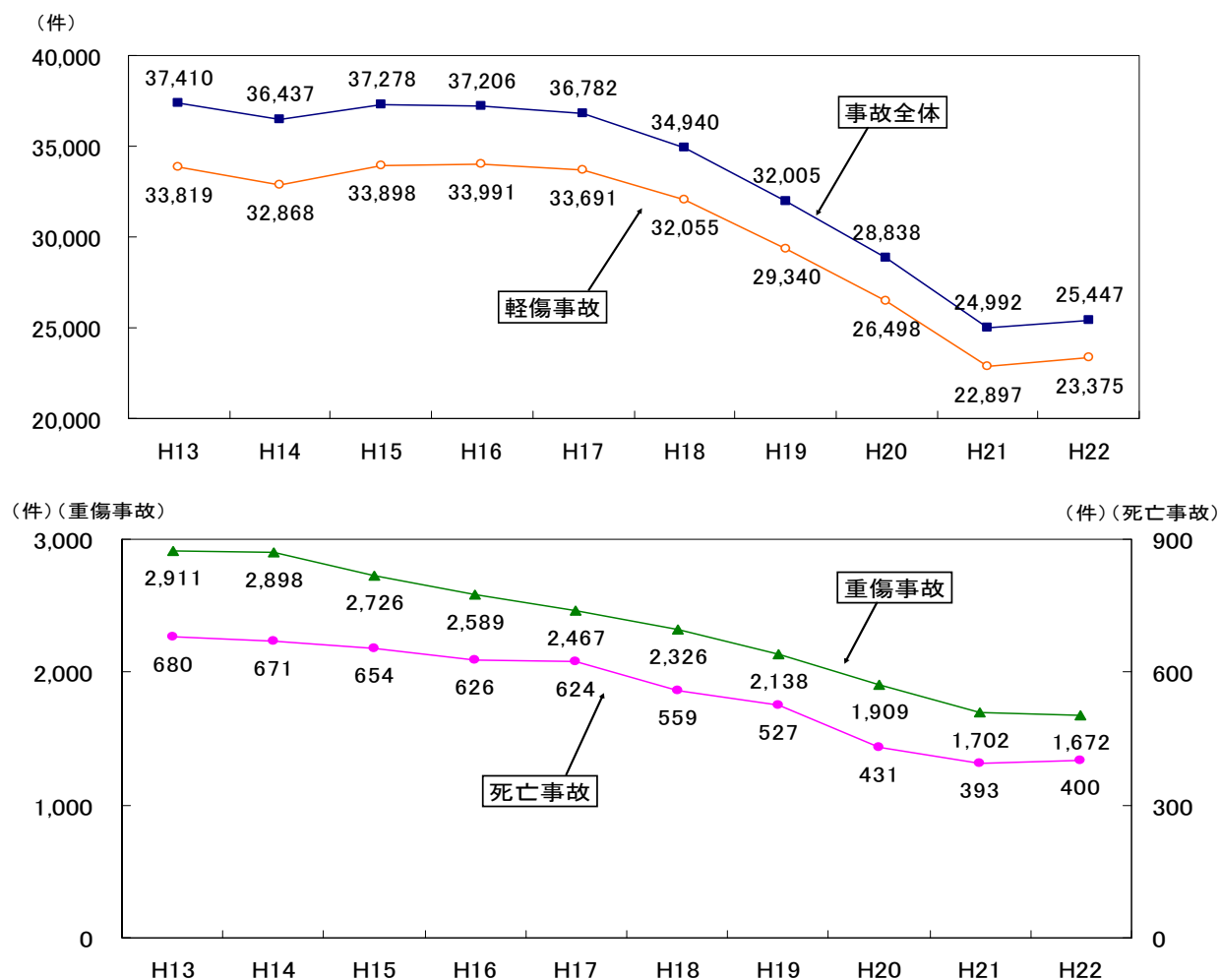


図 56 トラックの全事故及び死亡事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 35 トラックの事故件数の推移 (件)

区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H13	680	2,911	33,819	37,410
H14	671	2,898	32,868	36,437
H15	654	2,726	33,898	37,278
H16	626	2,589	33,991	37,206
H17	624	2,467	33,691	36,782
H18	559	2,326	32,055	34,940
H19	527	2,138	29,340	32,005
H20	431	1,909	26,498	28,838
H21	393	1,702	22,897	24,992
H22	400	1,672	23,375	25,447

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) トラック事故の死傷者数の推移

トラックの事故による死者、重傷者数は近年減少傾向にあったが、平成 22 年の死者数は 421 人、重傷者数は 1,811 人となり、重傷者数については 20 人増加した。

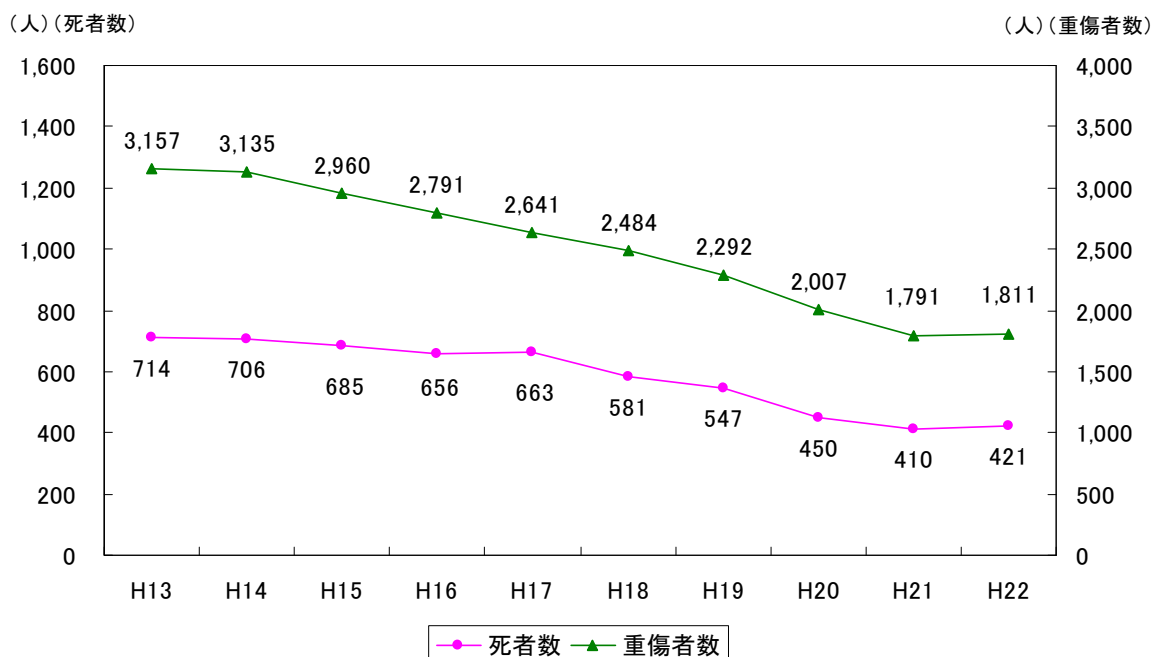


図 57 トラック事故の死傷者数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 36 トラック事故の死傷者数の推移 (人)

区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H13	714	3,157	46,188	50,059
H14	706	3,135	44,973	48,814
H15	685	2,960	46,287	49,932
H16	656	2,791	46,244	49,691
H17	663	2,641	45,513	48,817
H18	581	2,484	43,175	46,240
H19	547	2,292	39,418	42,257
H20	450	2,007	35,049	37,506
H21	410	1,791	30,226	32,427
H22	421	1,811	31,169	33,401

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) トラックの行動類型別事故件数の割合

トラックの行動類型別事故件数は、等速（直進）11,824件（46.5%）が、最も多く、次いで発進2,846件（11.2%）と続いている。

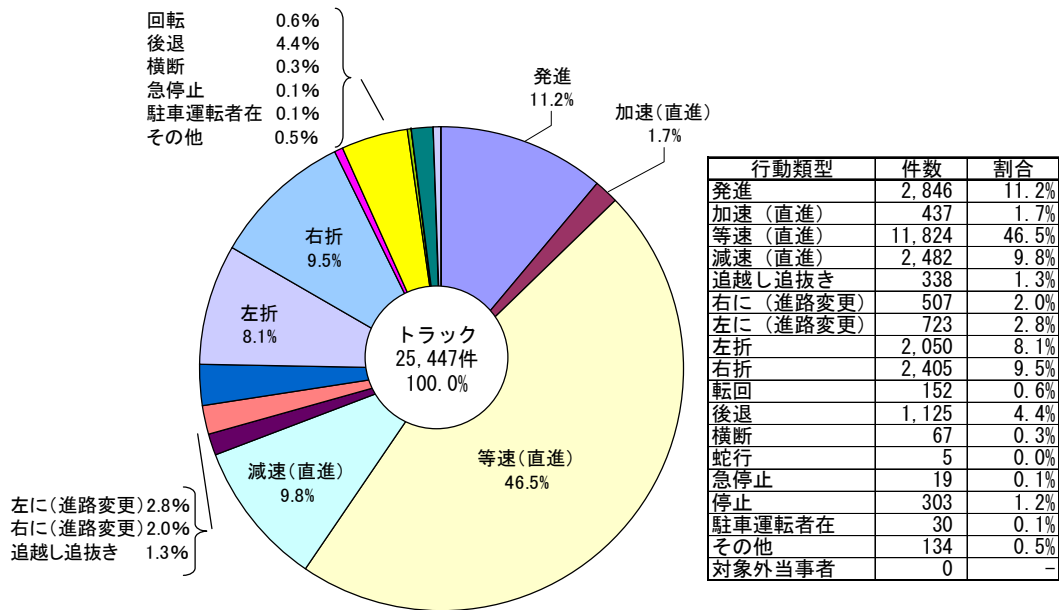


図 58 トラックの行動類型別事故件数の割合（平成 22 年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) トラックの行動類型別死亡事故件数の割合

トラックの行動類型別死亡事故件数は、等速（直進）267件（66.8%）、右折42件（10.5%）、左折37件（9.3%）と続いている。

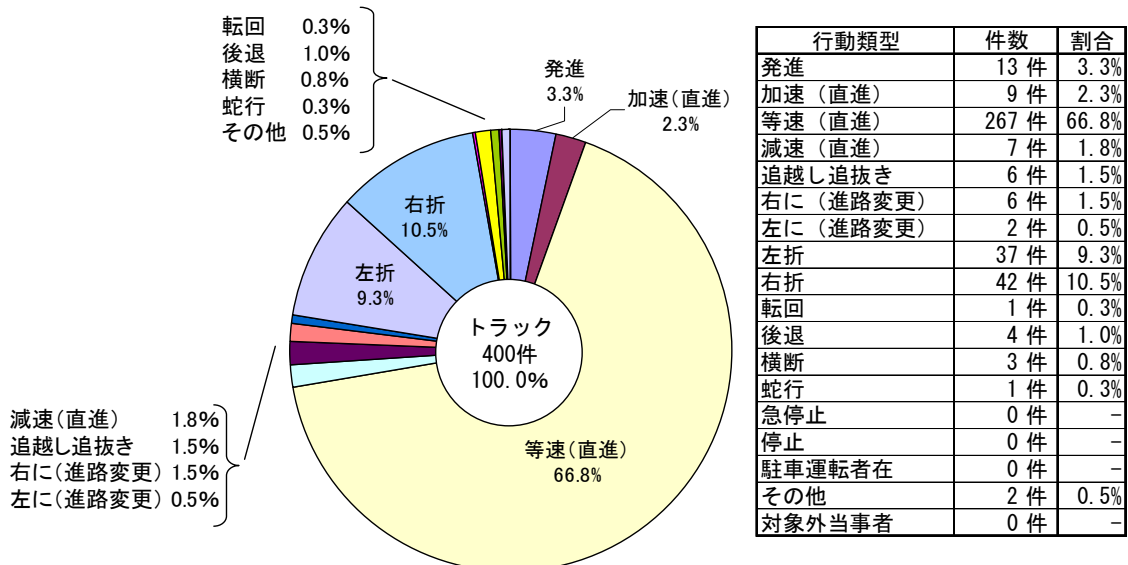


図 59 トラックの行動類型別死亡事故件数の割合（平成 22 年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) トラックの事故類型別事故件数の割合

トラックの事故は、他車との事故が大半を占めている。

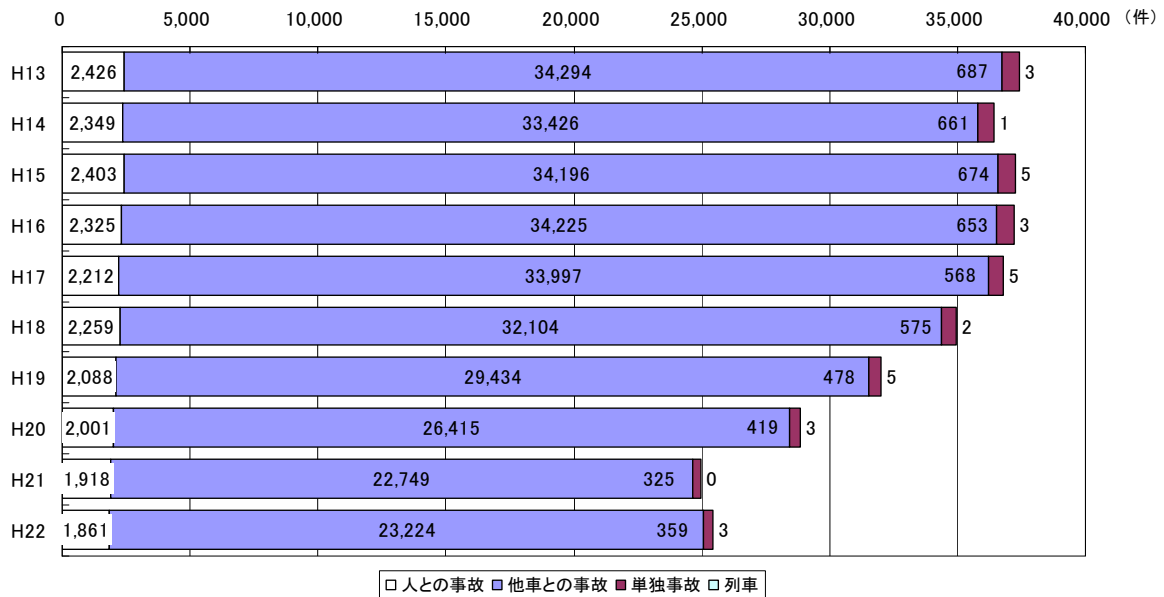


図 60 トラックの事故類型別事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

平成 22 年では、人との事故は横断中が 61.2%、他車との事故は追突が 51.7%、出会い頭衝突が 15.3%、単独事故は工作物衝突が 57.7%、駐車車両衝突が 17.0%を占めている。

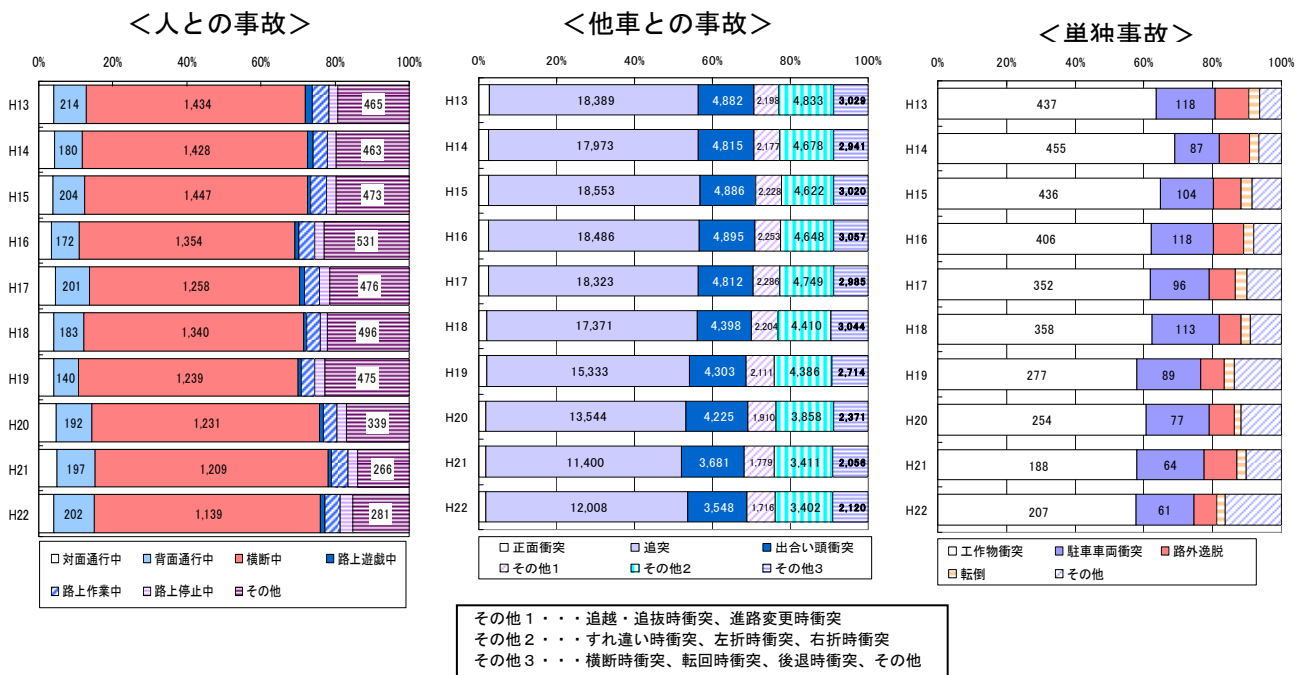


図 61 トラックの事故類型別事故件数の内訳

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) トラックの事故類型別死亡事故件数の割合

トラックの死亡事故は、他車との事故が半数以上を占めており、内訳をみると、追突が最も多い。

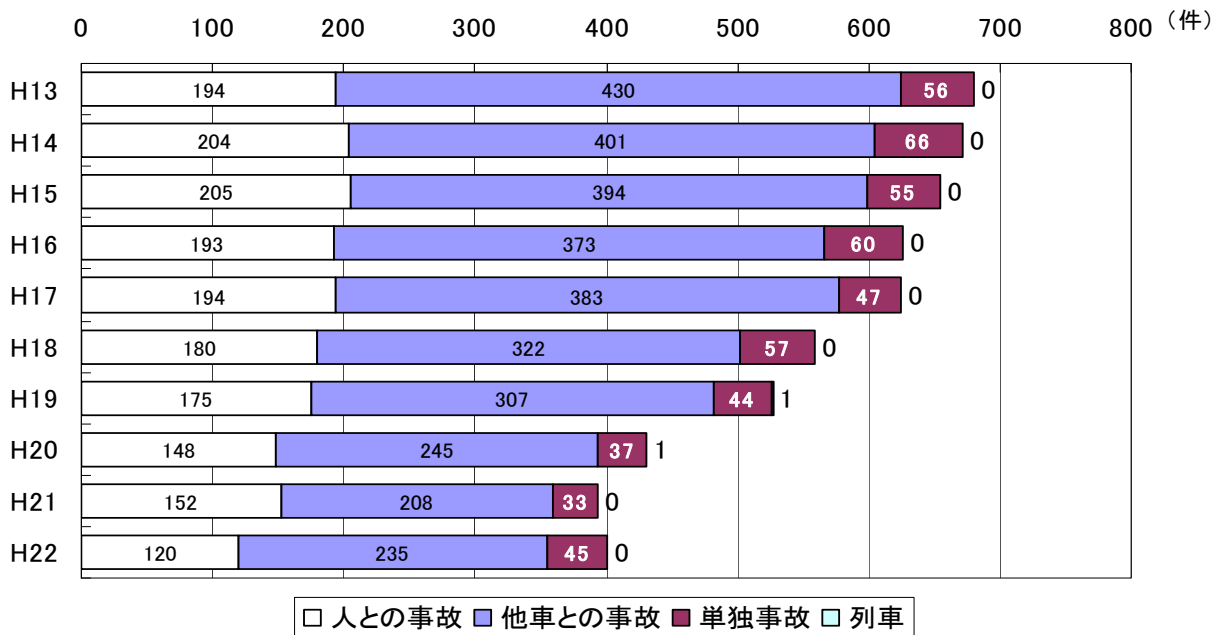


図 62 トラックの事故類型別死亡事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

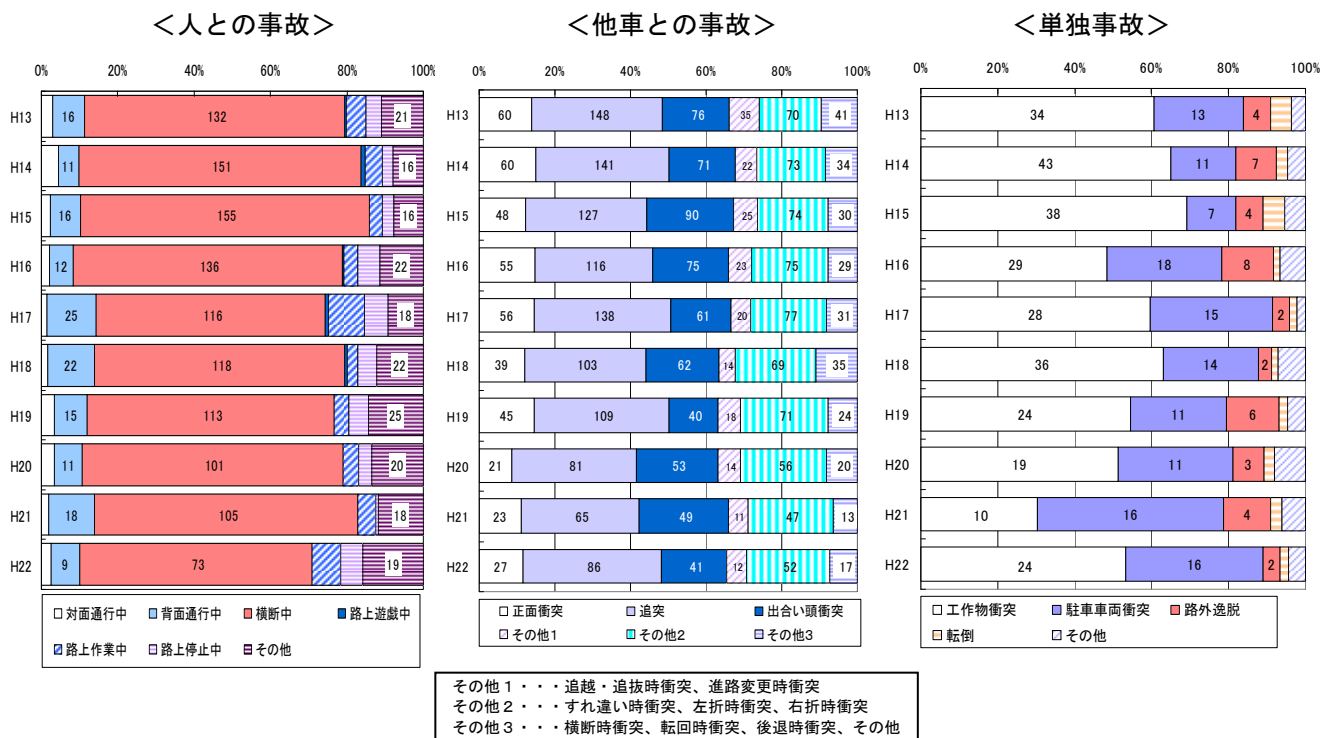


図 63 トラックの事故類型別死亡事故件数の内訳

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) トラックの法令違反別の事故件数の割合

トラックの事故を道路交通法における違反項目別に見ると、「安全不確認」7,176件(28.2%)、「脇見運転」5,595件(22.0%)、「動静不注視」3,659件(14.4%)、「漫然運転」2,228件(8.8%)と続いている。

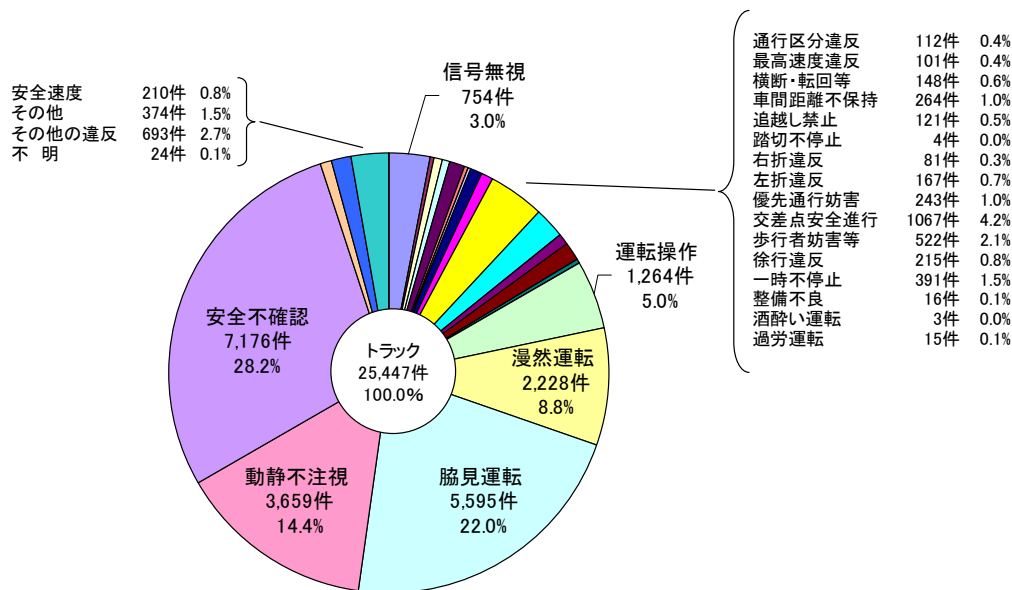


図 64 トラックの法令違反別の事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) トラックの法令違反別の死亡事故件数の割合

トラックの死亡事故を道路交通法における違反項目別に見ると、「漫然運転」101件(25.3%)、「脇見運転」74件(18.5%)、「安全不確認」51件(12.8%)と続いている。

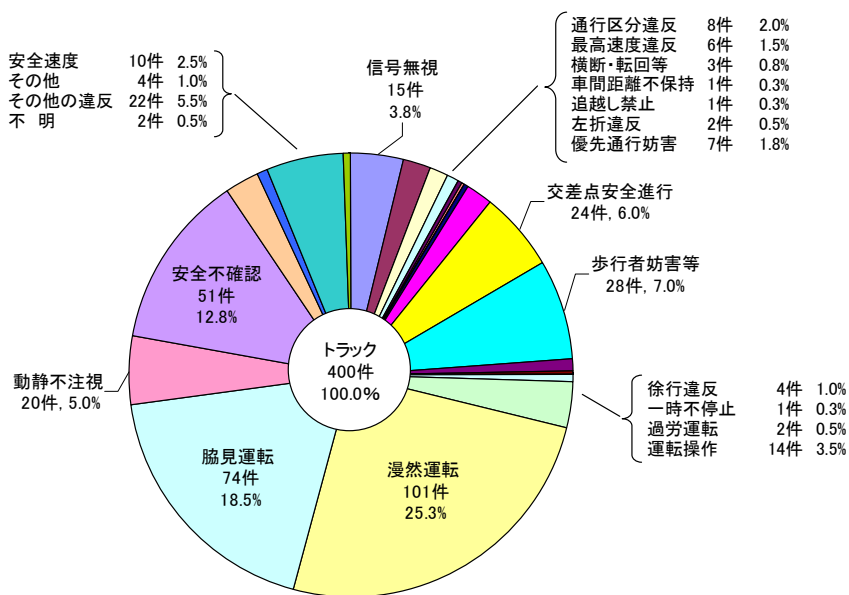


図 65 トラックの法令違反別の死亡事故件数の割合

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) トラックの高速道路における死亡・重傷事故件数の推移

平成 22 年のトラックの高速道路における死亡・重傷事故は、近年減少傾向にあったが、死亡事故は 54 件、重傷事故は 137 人と前年と増加している。

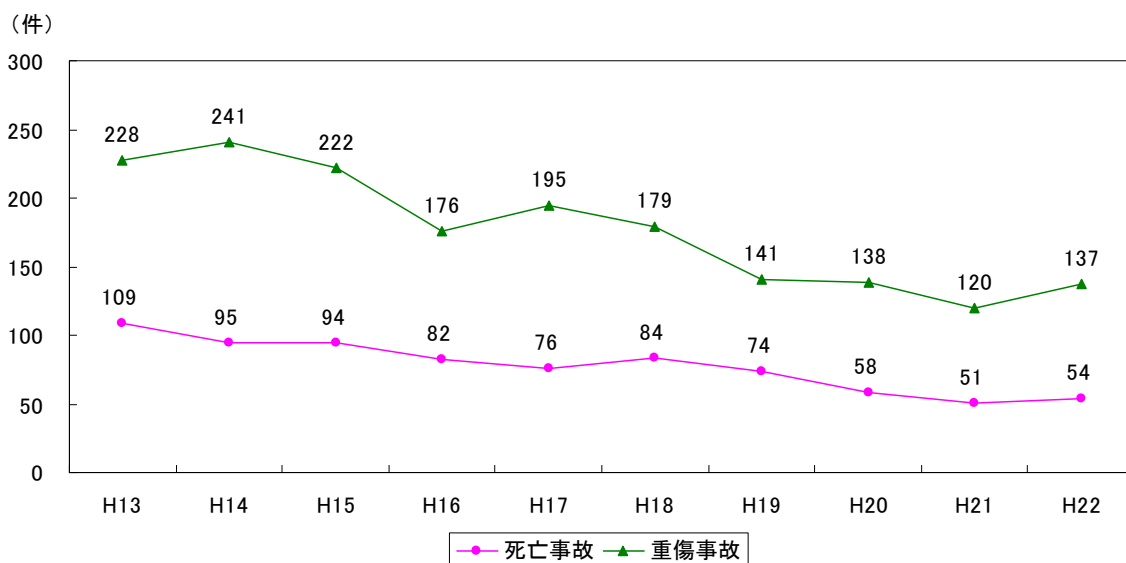


図 66 トラックの高速道路における死亡・重傷事故件数の推移

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) トラック追突の事故件数/死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布

トラックの追突事故における時間帯別危険認知速度別追突死亡事故件数をみると、0時～6時の危険認知速度が高い。交通量が少なく、スピードを出して運転できる環境が要因ではないかと推察される。

表 37 トラック追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布 (件) (平成 22 年)

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～ 2	2～ 4	4～ 6	6～ 8	8～ 10	10～ 12	12～ 14	14～ 16	16～ 18	18～ 20	20～ 22	22～ 24	
10km/h以下	31	21	41	214	368	442	330	368	219	103	46	32	2,215
20km/h以下	28	25	33	186	233	264	233	221	133	59	32	34	1,481
30km/h以下	21	38	49	171	259	295	236	190	148	95	42	34	1,578
40km/h以下	56	79	101	249	313	409	365	315	179	121	71	85	2,343
50km/h以下	69	81	108	221	257	334	312	228	152	98	90	99	2,049
60km/h以下	81	74	90	125	140	181	170	153	92	50	72	78	1,306
70km/h以下	24	31	31	26	35	58	19	32	27	15	18	26	342
80km/h以下	26	34	39	26	25	32	28	20	20	8	17	26	301
90km/h以下	51	55	59	16	8	6	8	6	4	9	9	23	254
100km/h以下	11	22	17	5	5	1	8	8	7	1	8	6	99
120km/h以下	4	3	7	1	2	0	1	5	1	1	3	2	30
120km/h超	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
不明	0	1	1	0	3	1	0	0	0	1	0	2	9
合計	402	464	576	1,240	1,648	2,023	1,711	1,546	982	561	408	447	12,008

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

表 38 トラック追突の死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布 (件) (平成 22 年)

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～ 2	2～ 4	4～ 6	6～ 8	8～ 10	10～ 12	12～ 14	14～ 16	16～ 18	18～ 20	20～ 22	22～ 24	
10km/h以下	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
20km/h以下	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
30km/h以下	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
40km/h以下	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
50km/h以下	1	1	0	2	0	2	1	1	1	0	4	0	13
60km/h以下	3	5	5	0	1	0	3	1	1	0	2	2	23
70km/h以下	2	5	0	1	3	1	1	1	0	0	1	2	17
80km/h以下	2	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10
90km/h以下	1	0	2	1	0	0	0	0	1	0	2	3	10
100km/h以下	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	6
120km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	10	17	12	5	4	6	6	3	3	0	10	10	86

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

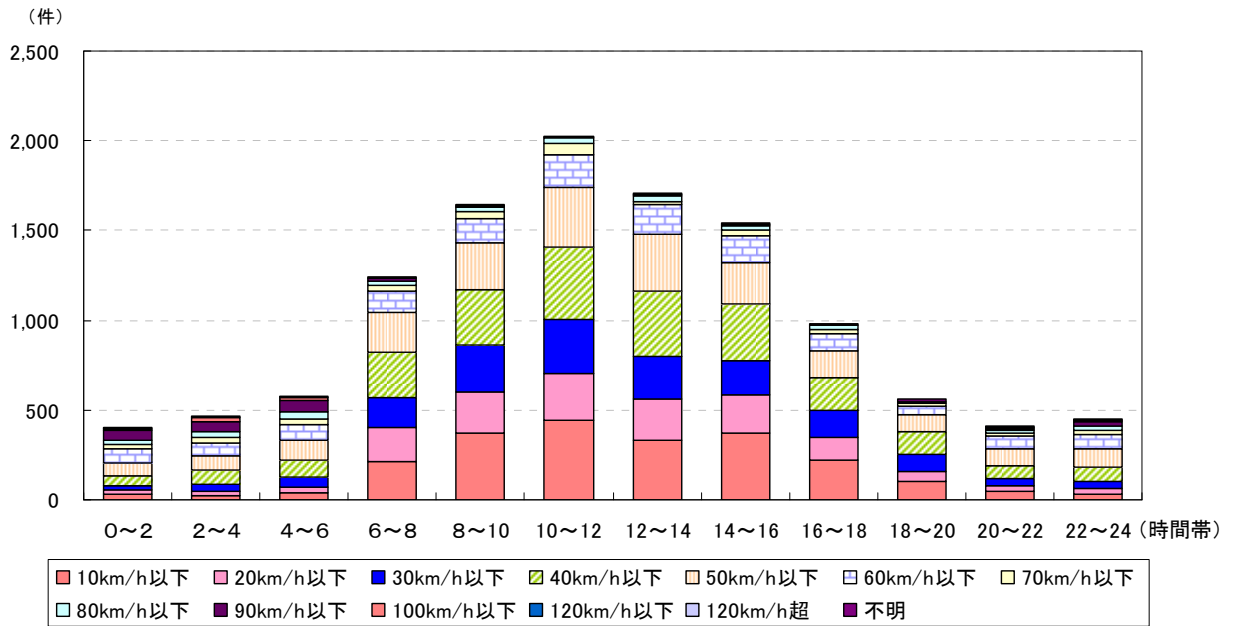


図 67 トラック追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布 (平成 22 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

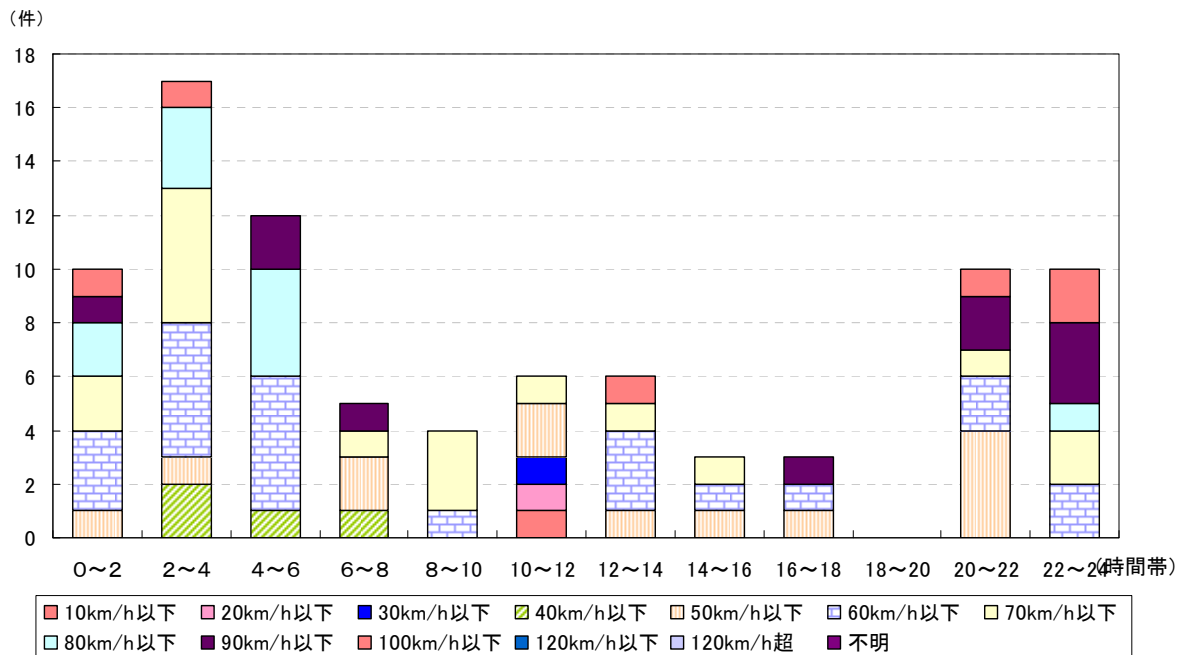


図 68 トラック追突の死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布 (平成 22 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

トラックの追突事故における危険認知速度をみると、追突事故全体と比較して、追突死亡事故は、危険認知速度が高くなっている。

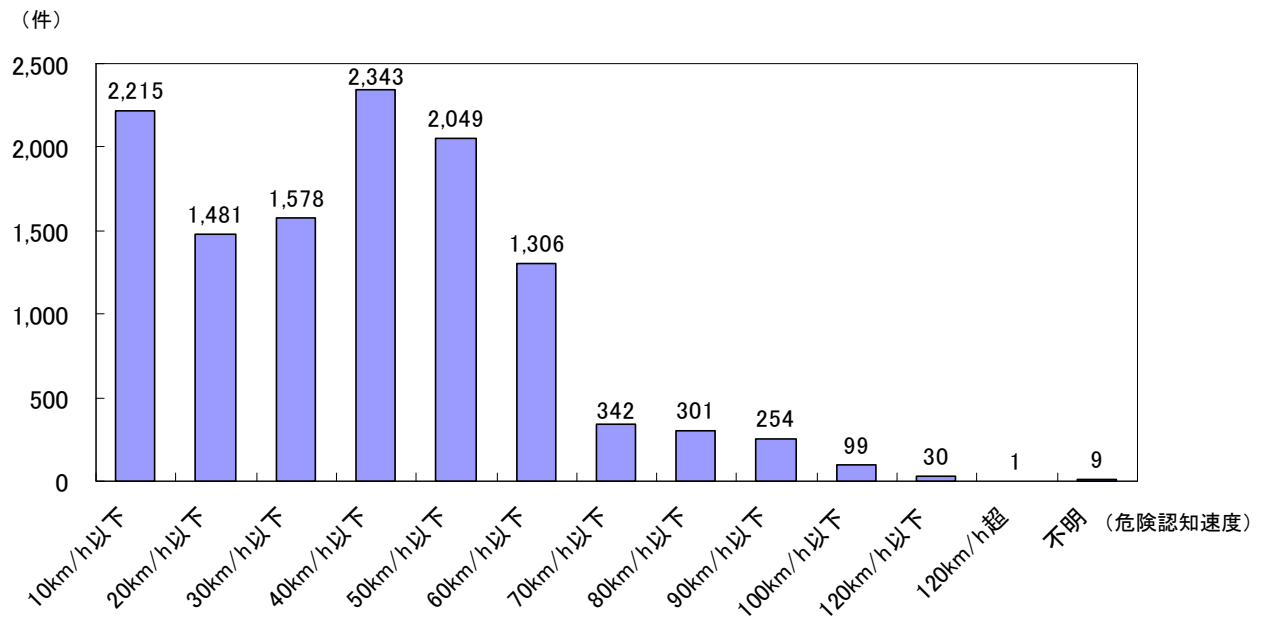


図 69 トラックの危険認知速度別の追突事故件数 (平成 22 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

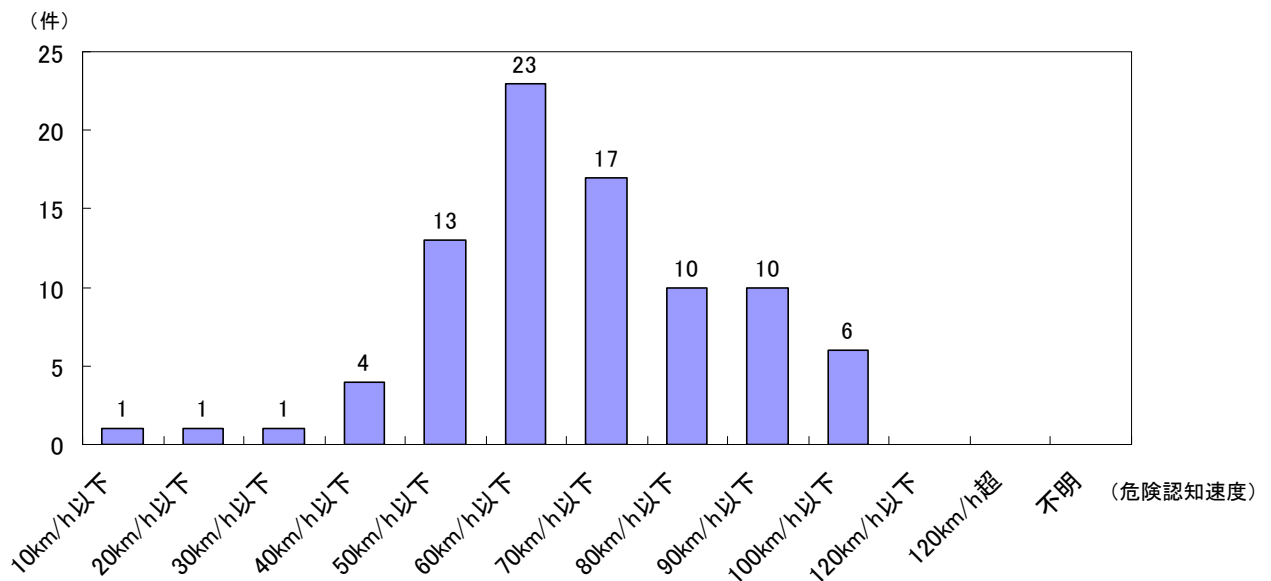


図 70 トラックの危険認知速度別の追突死亡事故件数 (平成 22 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) トラックの車両総重量別の交通事故件数の推移

① 交通事故件数

トラックの事故における死亡事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満、8トン以上ともに、平成21年までは減少傾向にあったが、平成22年は前年と比較して増加している。

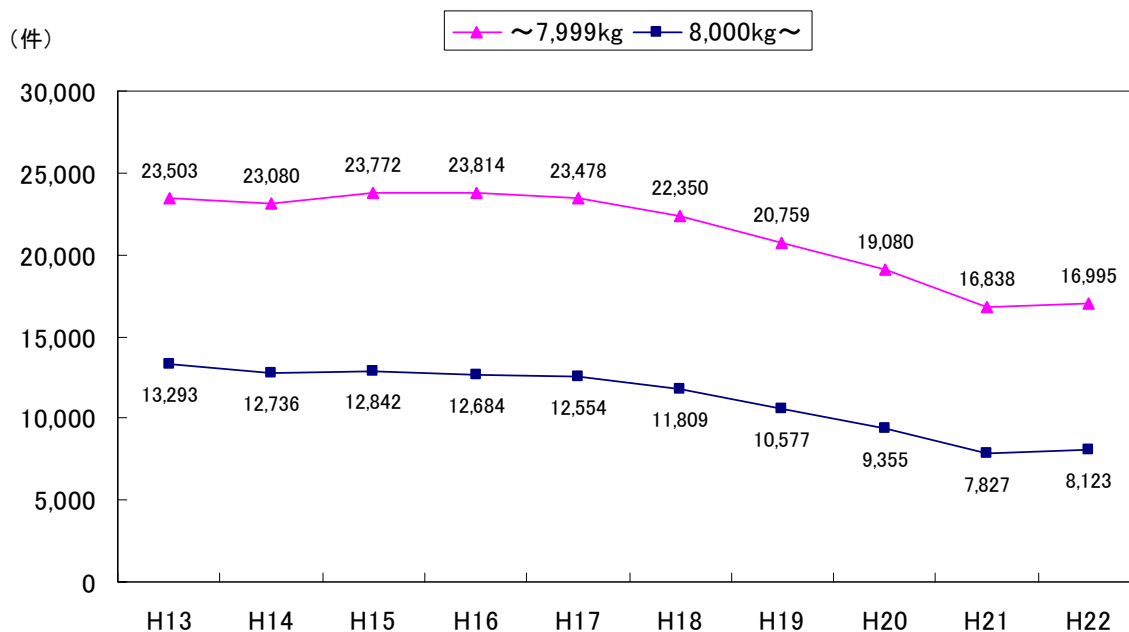


図71 トラックの車両総重量別交通事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

表39 車両総重量別交通事故件数 (件)

年	交通事故件数		
	~7,999kg	8,000kg~	合計
H13	23,503	13,293	36,796
H14	23,080	12,736	35,816
H15	23,772	12,842	36,614
H16	23,814	12,684	36,498
H17	23,478	12,554	36,032
H18	22,350	11,809	34,159
H19	20,759	10,577	31,336
H20	19,080	9,355	28,435
H21	16,838	7,827	24,665
H22	16,995	8,123	25,118

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

注：合計は車両総重量不明を除く

② 死亡事故件数

トラックの事故における死亡事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満の車両は、平成20年までは減少傾向にあったが、平成21年から横這いとなっている。

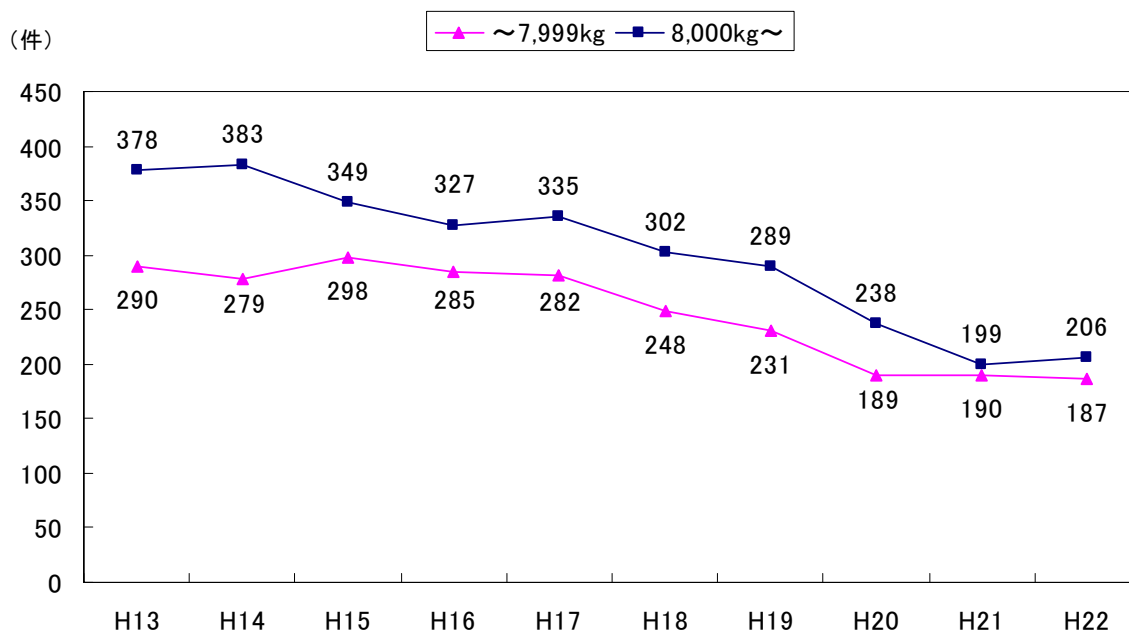


図 72 トラックの車両総重量別死亡事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

表 40 車両総重量別死亡事故件数 (件)

区分 年	死亡事故件数		
	~7,999kg	8,000kg~	合計
H13	290	378	668
H14	279	383	662
H15	298	349	647
H16	285	327	612
H17	282	335	617
H18	248	302	550
H19	231	289	520
H20	189	238	427
H21	190	199	389
H22	187	206	393

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

注：合計は車両総重量不明を除く

②重傷事故件数

トラックの事故における重傷事故件数の推移を車両総重量別にみると、死亡事故の場合と異なる。8トン未満の車両による重傷事故は、8トン以上の車両によるものと比較して多くなっている。

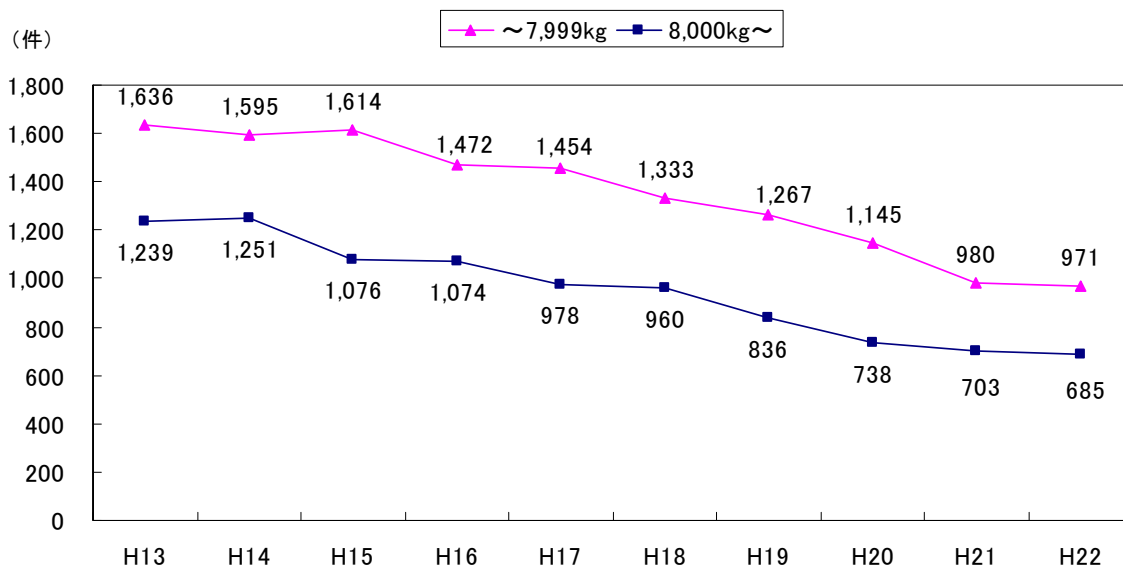


図 73 トラックの車両総重量別重傷事故件数

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

表 41 車両総重量別重傷事故件数 (件)

区分 年	重傷事故件数		
	~7,999kg	8,000kg~	合計
H13	1,636	1,239	2,875
H14	1,595	1,251	2,846
H15	1,614	1,076	2,690
H16	1,472	1,074	2,546
H17	1,454	978	2,432
H18	1,333	960	2,293
H19	1,267	836	2,103
H20	1,145	738	1,883
H21	980	703	1,683
H22	971	685	1,656

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

注：合計は車両総重量不明を除く

(12) トラックの車両総重量別車両数あたりの交通事故件数

① 交通事故件数

トラックの車両総重量別車両数あたりの交通事故発生率は、7～8 トン未満が最も高く、8 トン未満までは、車両総重量が重くなるほど発生率が高くなる傾向がある。

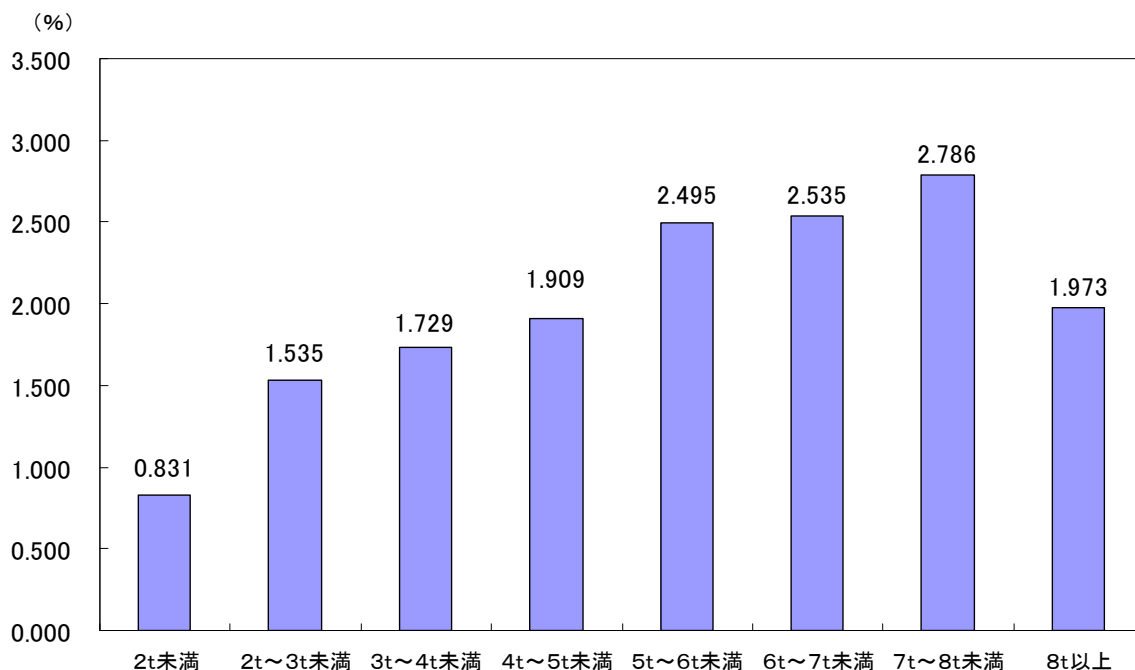


図 74 トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故件数 (平成 22 年)

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

注：軽トラックを除く

表 42 トラックの車両総重量別車両数あたり交通事故件数 (件)
(平成 22 年)

	交通事故件数	車両数 (事業用)	発生率
2 t 未満	70	8,420	0.831%
2 t～3 t 未満	227	14,793	1.535%
3 t～4 t 未満	576	33,310	1.729%
4 t～5 t 未満	1,690	88,545	1.909%
5 t～6 t 未満	2,116	84,812	2.495%
6 t～7 t 未満	1,162	45,831	2.535%
7 t～8 t 未満	6,788	243,650	2.786%
8 t 以上	8,123	411,749	1.973%

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

注：軽トラックを除く

② 死亡事故件数

トラックの車両総重量別車両数あたりの死亡事故発生率は、8トン以上が最も高い。

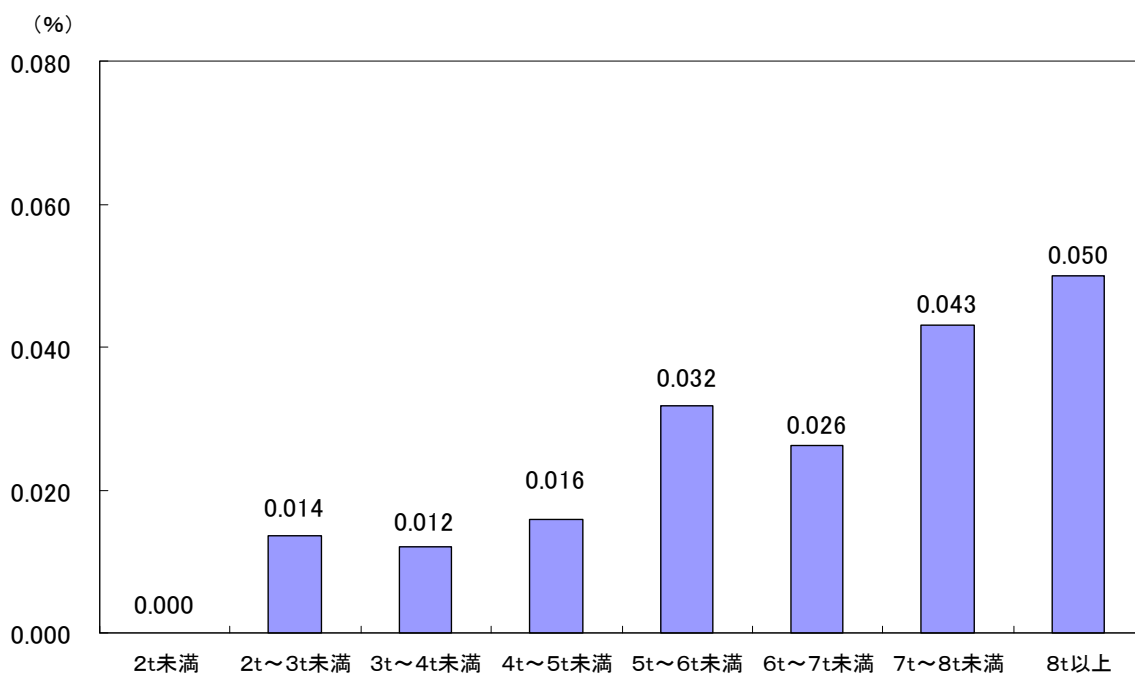


図 75 トラックの車両総重量別車両数あたり交通事故件数（平成 22 年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

注：軽トラックを除く

表 43 トラックの車両総重量別車両数あたり死亡事故件数（件）
（平成 22 年）

	死亡事故件数	車両数（事業用）	発生率
2t 未満	0	8,420	0%
2t~3t 未満	2	14,793	0.014%
3t~4t 未満	4	33,310	0.012%
4t~5t 未満	14	88,545	0.016%
5t~6t 未満	27	84,812	0.032%
6t~7t 未満	12	45,831	0.026%
7t~8t 未満	105	243,650	0.043%
8t 以上	206	411,749	0.050%

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

注：軽トラックを除く

③ 重傷事故件数

トラックの車両総重量別車両数あたりの重傷事故発生率は、7～8トン未満が最も高い。

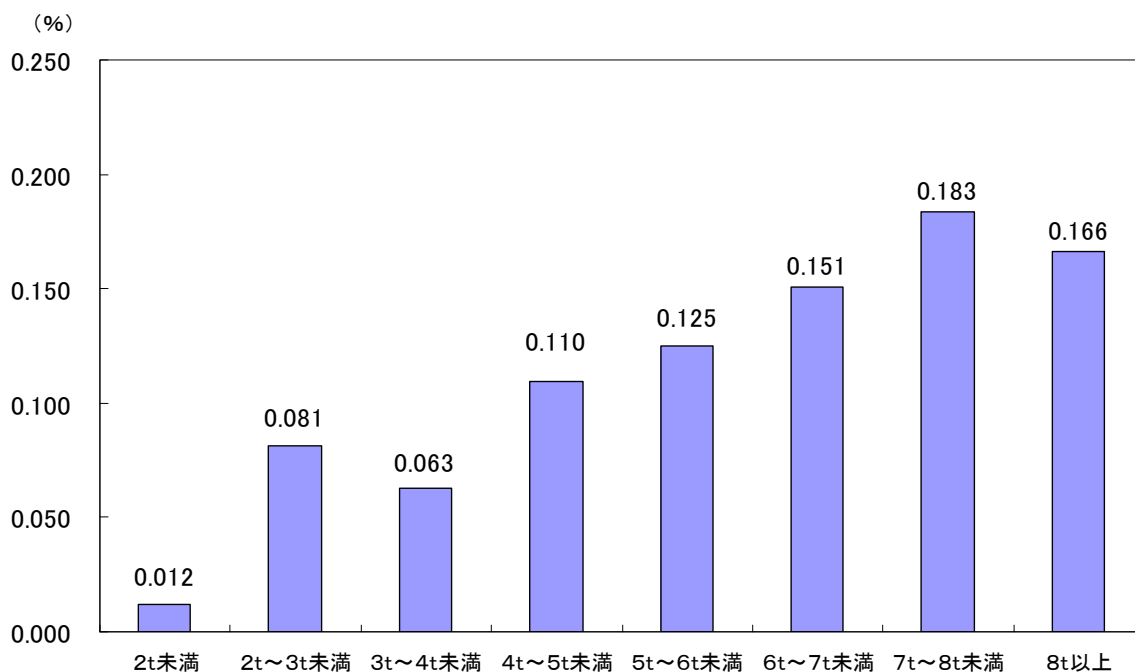


図 76 トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故件数（平成 22 年）

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

注：軽トラックを除く

表 44 トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故件数（件）
（平成 22 年）

	重傷事故件数	車両数（事業用）	発生率
2t 未満	1	8,420	0.012%
2t～3t 未満	12	14,793	0.081%
3t～4t 未満	21	33,310	0.063%
4t～5t 未満	97	88,545	0.110%
5t～6t 未満	106	84,812	0.125%
6t～7t 未満	69	45,831	0.151%
7t～8t 未満	447	243,650	0.183%
8t 以上	685	411,749	0.166%

出典：(財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

注：軽トラックを除く